

所見 本住居や周辺の遺構からは、鉄滓や鍛冶炉壁等が少なからず出土しており、集落内で鍛冶関連の手工業が行われていたことが推測される。廃絶時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。

第1531号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
179	土師器	碗	-	(2.4)	[7.1]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	中央部下層	30%
180	土師器	碗	-	(2.0)	[7.6]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部高台貼り付け後、ロクロナデ	西部中層	10%
181	土師器	甕	[23.6]	(5.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部内外面ヘラナデ	西部床面	
182	灰輪陶器	長原瓶	-	(4.3)	-	黒色粒子	灰白・オリーブ黄	良好	底部ロクロナデ	中央部下層	施設産
TP10	須恵器	大甕	-	-	-	長石	灰	良好	外面平行叩き、内面無文の当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP11	不明	(13.2)	(6.4)	(2.9)	(119.3)	長石・石英	褐色、十字状の襷帯貼り付け、瓦塔の一部*	西部下層	
M41	釘*	(8.2)	0.8	0.7	(15.6)	鉄	断面方形の棒状、片側がわずかに曲る	西部中層	PL61
M42	不明	(3.5)	(1.1)	0.6	(4.3)	鉄	片側が幅広になる棒状、厚又曲*	覆土中	

第1532号住居跡 (第153図)

位置 調査区中央部のT84区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1534号住居跡を掘り込み、第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりをもとに東西軸3.00m、南北軸1.35mほどが確認され、平面形はN-1°-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、西壁際から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。火床部が確認されただけであり、付近の床面にはわずかに粘土粒子や砂粒が散在している。火床面は北壁ラインの外側に位置し、赤変硬化している。

覆土層解説

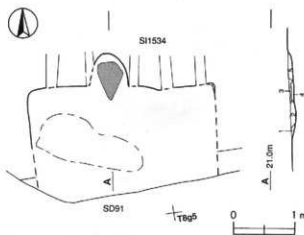
- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

覆土 床面が露出した状態で検出されたため、確認されなかった。

遺物出土状況 土師器片9点(小皿2, 坏1, 甕6),

須恵器片3点(甕3)が出土している。

所見 時期は、土師器小皿が出土していることから、10世紀以降と考えられる。



第153図 第1532号住居跡実測図

### 第1533号住居跡（第154図）

**位置** 調査区中央部のT8f4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1534号住居跡と第182号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

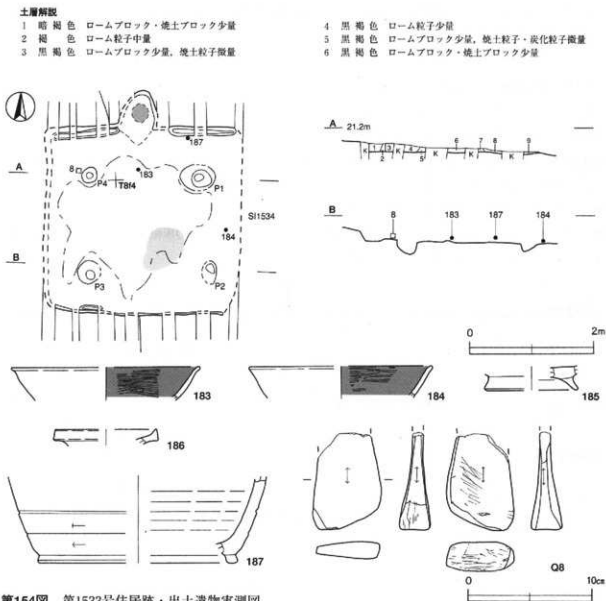
**規模と形状** 南北軸は3.00mで、東西軸は両端部が攪乱を受けているため、3.15mほどと推測される。平面形は方形で、主軸方向はN-2°-Eである。また、残存する壁の高さは5~10cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、南壁際の一部と北壁際で認められる。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、壁外への掘り込みは55cmほどである。天井部・袖部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面がわずかに赤変している。また、煙道は外傾して立ち上がっている。

**ピット** 4か所。P1~P4は主柱穴に相当し、P1は攪乱を受けているために本来の深さは不明で、その他のピットの深さは10~26cmである。

**覆土** 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。



- 7 紫褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量  
 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

9 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片71点(杯・碗28、甕・瓶43)、須恵器片14点(杯4、甕8、長頸瓶1、短頸壺1)、砥石1点が竈付近と南東部から多く出土している。183は竈手前の床面、184は東壁際の床面、185は塀溝内から出土している。また、中央部南寄りの床面上には焼土の広がりが確認されており、火災に遭ったことが推測される。

**所見** 廃絶時期は、供膳具に土師器と須恵器が混在していることから、9世紀後半から10世紀初頭と考えられる。

#### 第1533号住居跡出土遺物観察表(第154図)

番号	器種	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
183	土師器	碗	115.0	12.6	-	灰白・赤褐色粒子	にぶい	普通	体部内面ヘラ磨き	竈手前床面	
184	土師器	碗	114.5	12.5	-	雲母・灰白・石炭	緑	普通	体部内面ヘラ磨き	東壁際床面	
185	土師器	碗	119.0	7.1	-	雲母・灰白・石炭	にぶい赤褐色	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	塀溝内上中	
186	須恵器	長頸瓶	9.0	1.2	-	陶器	灰白・ オリブ黄	良好	1)緑ロクロナデ、内面自然釉	P1壁面上中	
187	須恵器	短頸壺	6.9	3.6	-	雲母・灰白・石炭	黄灰	普通	体部下部自然ヘラ磨き	北壁際下端	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
08	砥石	7.7	5.1	2.4	189.9	蜀灰管	肌面4面、中央部折損	北西部床面	PL75

#### 第1534号住居跡(第155図)

**位置** 調査区中央部のT8e4区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

**重複関係** 第1532・1533号住居と第182号掘立柱建物、第91号堀、第1456号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西軸は7.70mで、南北軸は第91号溝に掘り込まれているために6.65mだけが確認されており、N-3°-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。北壁の高さは5cmほどで、外傾して立ち上がっており、その他の壁の立ち上がり具合は判然としない。

**床** ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。また、壁溝は確認された堺際を巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅105cmほどである。天井部は遺存せず、袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面が赤変硬化している。また、煙道の立ち上がりの様子は判然としない。

#### 竈土層解説

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色 砂粒・粘土粒子中量               | 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量            |
| 2 褐色 砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量         | 7 赤褐色 焼土粒子中量                   |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量     | 8 灰黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量   |
| 4 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量    | 9 黒褐色 砂粒・粘土粒子微量                |
| 5 灰褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 | 10 灰黄褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化物少量 |
|                               | 11 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子中量       |

**ピット** 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは31～34cmである。P5は深さ21cmで、性格は不明である。

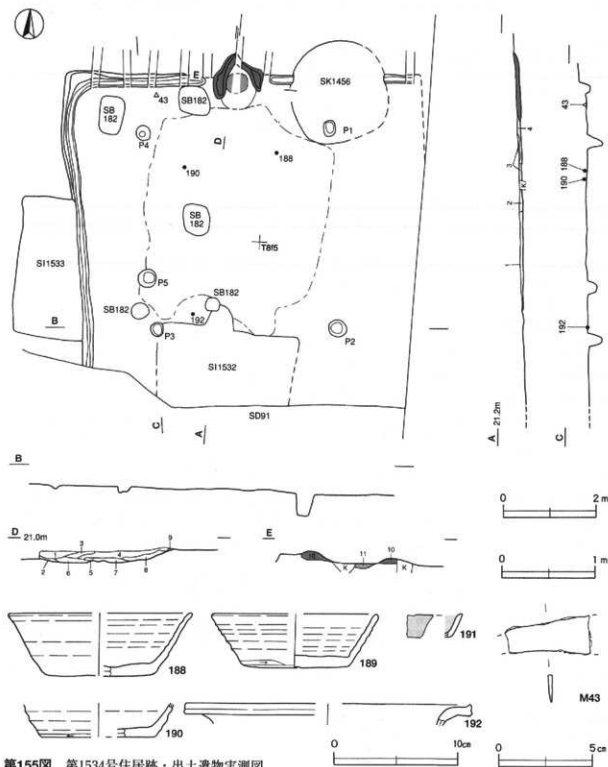
**覆土** 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

#### 土層解説

- |                             |                                  |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量      | 3 褐色 ロームブロック・砂粒・粘土粒子中量、焼土ブロック少量  |
| 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 4 黒褐色 砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師器片28点(坏19, 甕・瓶109), 須恵器片26点(坏16, 甕・瓶10), 灰軸陶器片1点(不明), 鉄鎌カ1点が出土している。覆土が薄いために残存率の低いものが多く, 特に土師器甕は細片のみである。188・190はいずれも北部の床面から若干浮いた状態で出土している。また, 191は竈内の攪乱部分から出土している。

**所見** 本跡は覆土が薄く, また他の遺構との重複も多いため, 出土遺物が本跡に伴うとは断言できない。出土土器に從えば8世紀後半頃に廃絶されたと考えられるが, 詳細な時期は不明である。



第155図 第1534号住居跡・出土遺物実測図

第1534号住居跡出土遺物観察表(第155図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
188	須恵器	杯	14.8	3.0	1.86	長石	黒口	普通	底面 方向のへつ削り	北部下層	火葬前, 30%
189	須恵器	杯	13.0	4.3	8.4	雲母・長石・石英	灰青藍	普通	底面 両面へつ削り, 多方向のへつ削り	東壁際下層	火葬前, 30%
190	須恵器	杯	-	(2.7)	9.0	長石	灰	普通	底面 多方向のへつ削り	北部下層	10%
191	灰釉陶器	皿	-	1.8	-	黒色粒子	灰白・ 灰黄リーブ	良好	口縁部 ロクロナテ	竈上中	被焼成
192	土師器	盃	22.7	(1.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい	普通	口縁部 横ナテ	南部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M43	埴	(4.5)	(2.1)	0.2	(3.7)	鉄	刃部の破片, 片側の幅が狭くなる	北部床面	PL81

第1536号住居跡(第156図)

位置 調査区中央部のS 8g2区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸4.00m, 短軸3.75mほどの若干歪んだ方形で, 主軸方向はN-76°-Eである。壁高は16~18cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり, 竈手前から中央部にかけてよく踏み固められており, 壁溝が周囲している。

竈 東壁のはは中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで85cmである。天井部・袖部は遺存せず, 右袖部の想定される位置にその痕跡が若干認められる。火床部は15cmほど掘りくぼめられた部分にローム土を埋め戻して使用しており, 火床面が白変硬化している。煙道は, 外傾して緩やかに立ち上がっている。

壁土層解説

- |                                      |                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・<br>砂粒少量 | 4 黒暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒中量, ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・砂粒少量          | 5 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量         |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂粒少量          | 6 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量   |

炉 2か所。炉1は中央部に付設され, 長径62cm, 短径45cmの楕円形を呈しており, 長径方向を住居の主軸と同一にしている。炉2は東壁際の北寄りに位置しており, 長径65cm, 短径43cmの楕円形を呈している。いずれも深さ5cmほどの風状を呈した地床である。また, 炉2の北東側には棒状の雲母片岩が直立した状態で据えられており, 被熱している。

炉土層解説(炉1・2共通)

- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 |
|---------------------------------|--------------------------|

覆土 8層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。

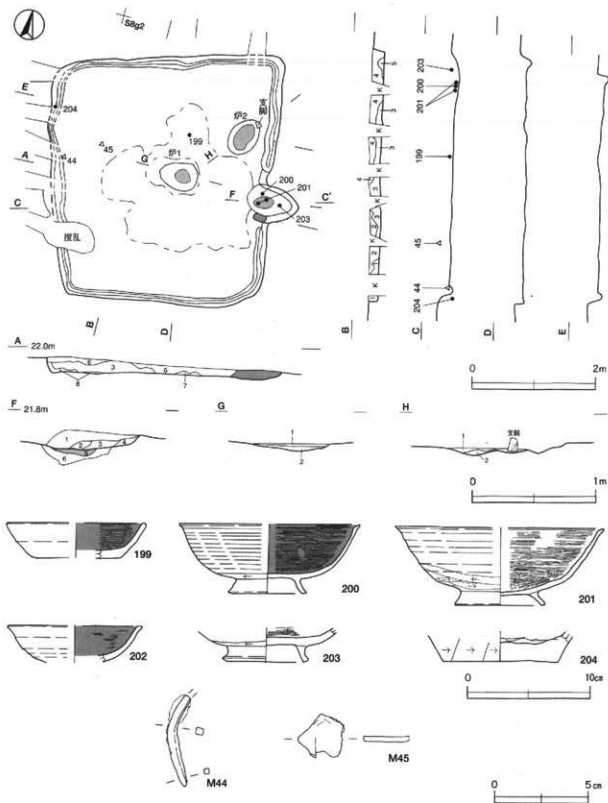
土層解説

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量   | 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量        |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 黒暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量     | 8 暗褐色 ローム粒子中量                 |

遺物出土状況 土師器片275点(小皿1, 坏・椀46, 甌228), 須恵器片1点, 支脚1点(雲母片岩), 鉄釘カ1点, 不明鉄製品1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。また, 竈内からも土器片がまとめて出土しており, 200~203はいずれも竈内から破片の状態でも出土している。また, M44は西壁際の床面から出土しており, 本住居に伴うものと考えられる。

所見 竈内から出土した土器片の破断面は摩滅しておらず, 被熱痕も認められないことから, 住居の廃絶に際して一括投棄されたか, いわゆる「壺祭祀」のように竈内に意図して遺棄されたものが竈の崩壊と共に破損し

たものと考えられる。これらの土器は本跡に伴うものと考えられ、廃絶時期は、それらの土器の形状から10世紀後半と考えられる。



第156図 第1536号住居跡・出土遺物実測図

第1536号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	種類	形状	径	高さ	重量	材質・胎土	色調	製成	用途の推定	出土位置	備考
199	土師器	坏	11.0	2.8	7.2	長石・石英・赤色砂子	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	10%
200	土師器	碗	14.4	3.5	6.4	長石・石英・赤色砂子	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	壺腹土中	33%
201	土師器	碗	16.8	6.1	7.2	雲母	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	壺腹土中	30%
202	土師器	碗	10.6	3.0	-	玄母	灰褐色	普通	底部内面ヘラ盛り直り	壺腹土中	10%
203	土師器	碗	-	2.7	6.0	赤丹・石英	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	壺腹土中	25%
204	土師器	甕	-	2.4	9.2	長石・石英・赤色砂子	灰褐色	普通	底部内面ヘラナデ	北西辺壺腹内	10%

番号	種類	長さ	幅	高さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M44	瓦	5.3	0.4	0.4	4.2	鉄	断面方形の棒状、中位で屈曲、端が丸る	西壁跡床面	FLA1
M15	不明	2.4	2.3	0.3	4.5	鉄	均一な厚さの板状	中央部土層	

## 第1537号住居跡 (第157・158図)

位置 調査区中央部のT 8a1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.30mほどの長方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は17~24cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平垣で、中央部がよく踏み固められており、喉溝が隅回している。

竈 東壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで106cmである。天井部は崩落しており、袖部も壁面に白色粘土が貼り付けられているのが確認できるだけである。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

## 竈土層解説

- |       |                              |       |                      |
|-------|------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒少量        | 5 黒褐色 | ローム粒少量               |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土粒子少量      | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒少量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・白色粘土粒子少量             | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・白色粘土粒少量 | 8 赤褐色 | 焼土粒中量                |

炉 中央部に付設されている。平面形は長径70cmほどの楕円形を呈し、住居の主軸とほほ同じ軸線上にある。また、掘り込みは認められず、床面と同じ高さの地床である。

ピット 1か所。P1は深さ18cmで、出入り口施設に伴うピットである。

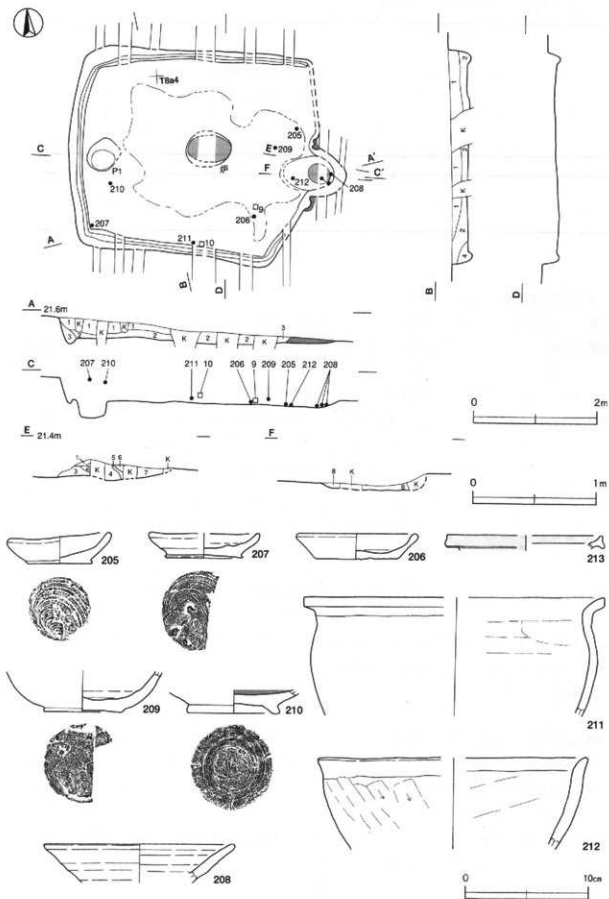
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

## 土層解説

- |       |                    |       |              |
|-------|--------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒中量・焼土粒中量・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ローム粒少量       |
| 2 暗褐色 | ローム粒中量             | 4 暗褐色 | ローム粒中量、炭化物少量 |

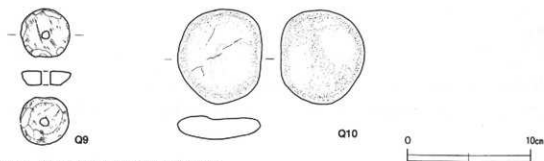
遺物出土状況 土師器片231点(小皿4、坏・碗148、甕・瓶79)、灰釉陶器片1点(長頸瓶)、石製紡錘車1点、礫1点(磨石)が出土している。特に、竈内及びその付近から土器片がまとまって出土しており、一括投棄された様相を呈している。208・212は竈内から出土した破片が接合したものであり、205・206・209・Q9は竈手前の床面や覆上下層から出土している。

所見 本跡は竈と炉を有しており、このような住居形態は第1377・1536・1553号住居など当遺跡内いくつかの類型が見られる。同様な例は武蔵国府内の工房群にも認められることから、鍛冶以外の手工業生産が行われていた可能性がある。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第157图 第1537号住居跡・出土遺物実測図





第158図 第1537号住居跡出土遺物実測図

第1537号住居跡出土遺物観察表 (第157・158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
205	土師器	小皿	7.9	2.5	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	電子顕微鏡	98%, PL56
206	土師器	小皿	9.2	2.0	6.4	雲母・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り	電子顕微鏡	90%, PL56
207	土師器	小皿	[ 8.9]	2.0	[ 6.3]	雲母・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	南西部上層	50%
208	土師器	杯	15.2	( 3.1)	-	長石・石英	浅黄	普通	底部回転ナデ	壺蓋土中	80%
209	土師器	碗	-	( 3.3)	6.3	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	壺手前下層	30%
210	土師器	碗	-	( 2.0)	7.4	石英	にぶい橙	普通	高台盛り付け後、ロクロナデ	南西部上層	20%
211	土師器	甕	[24.0]	( 9.5)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南壁部下層	
212	土師器	鉢	[21.4]	( 7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	壺蓋土中	
213	灰釉陶器	長頸瓶	[12.4]	( 1.1)	-	緻密	灰黄褐色・オリーブ灰	良好	口縁部ロクロナデ	壺土中	脇投差*

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q9	鉢跡	3.9	3.7	1.1	28.5	滑石	孔径0.6~0.7cm, 側面は若干彎曲	壺手前下層	PL75
Q10	岩石*	7.4	6.7	1.8	141.0	安山岩	縦線を磨面として使用	南壁部下層	PL77

### 第1538号住居跡 (第159図)

位置 調査区中央部のS 8 a4区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1541号住居跡を掘り込み、第136号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.00mで、東西軸は床面の広がりから判断して4.10mほどであり、N-3°-Eを主軸とする長方形と推定される。壁高は遺存状態の良い西壁でも5cmほどしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほほ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、壁外への掘り込みは70cmほどである。天井部や袖部は遺存せず、火床部は15cmほど掘りくぼめられた部分に砂粒混じりのローム土を充填して使用され、皿状を呈している。火床面は赤変硬化しており、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

#### 竈土層解説

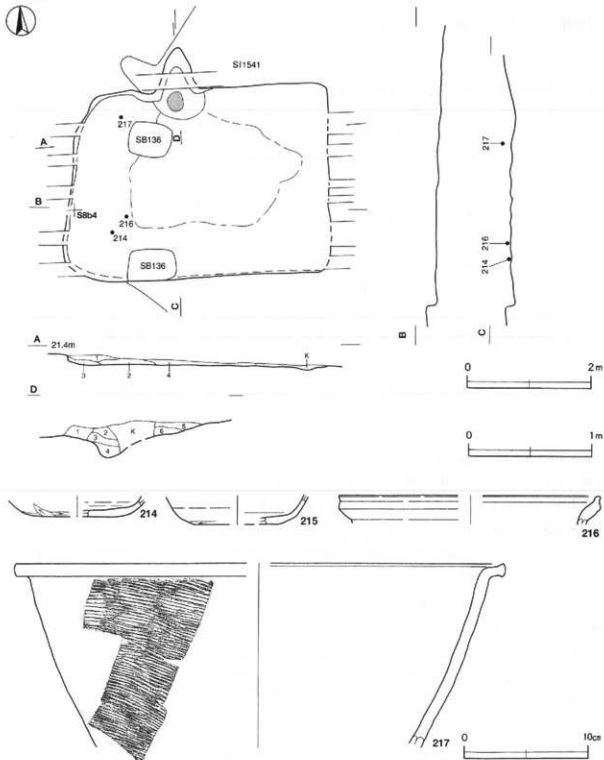
- |                                   |                                      |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物多量、焼土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、灰中量、ロームブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量    | 5 暗赤褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・砂粒少量    |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・砂粒少量     | 6 灰褐色 ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化物微量        |

**覆土** 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                         |        |                         |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量   | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片78点（坏19、甕・瓶59）、須恵器片12点（坏5、甕・瓶7）が出土している。遺構の遺存状態を反映して、遺物は西側部分から多く出土している。図示した土器も、いずれも西側部分からの出土である。



第159図 第1538号住居跡・出土遺物実測図

所見 廃絶時期は、出土土器と承攸関係から8世紀前半と考えられる。当該期からほとんどの住居が北方向を主軸とするようになり、集落内に強い規制が働いていたものと推測される。

#### 第1538号住居跡出土遺物観察表 (第159図)

番号	種類	形状	口径	底径	高さ	出土	色調	焼成	位置の特徴	出土層	備考
214	須恵器	杯	—	(1.7)	(6.6)	雲母・灰石・石英	灰緑	普通	灰部多方向のヘラ削り	南西部下層	10%
215	須恵器	杯	—	(2.3)	(6.7)	長石	灰緑	普通	灰部子付ちへら削り	北西部地上中	
216	土師器	甕	(20.8)	(2.3)	—	長石・石英	灰	普通	1種焼成ナシ	南西部下層	
217	須恵器	甕	(39.0)	(14.8)	—	雲母・長石	灰	普通	作部内面ナシ	北西部上層	

#### 第1542号住居跡 (第160・161図)

位置 調査区中央部のR8J2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1549号住居跡を掘り込み、第1543号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.70mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。築高は35～45cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほは平坦で、出入り口付近から竈手前にかけてよく踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は突口部から焼迫部まで130cm、袖部幅165cmほどで、壁外への掘り込みは65cmである。天井部は崩落しており、土層断面图中的第4層が相当する。袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されており、内側が被熱している。火床部は地山面をそのまま使用して、深さ10cmほどの皿状を呈しており、火床面が赤変硬化している。また、焼迫の立ち上がり部には土師器甕が立てて掘えられて、支脚として使用されており、煙道は外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |                                      |                            |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量         | 6 暗褐色 焼上ブロック・炭化物少量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量           | 7 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒少量、焼上ブロック少量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量         | 8 黒褐色 炭化物多量、焼土粒子中量         |
| 4 灰褐色 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼上ブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼上ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗赤褐色 焼上ブロック多量、ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量    | 10 暗褐色 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック少量 |
|                                      | 11 暗赤褐色 焼上ブロック多量、ローム粒子少量   |

ピット 1か所。P1は深さ27cmで、出入り口施設に伴うピットである。

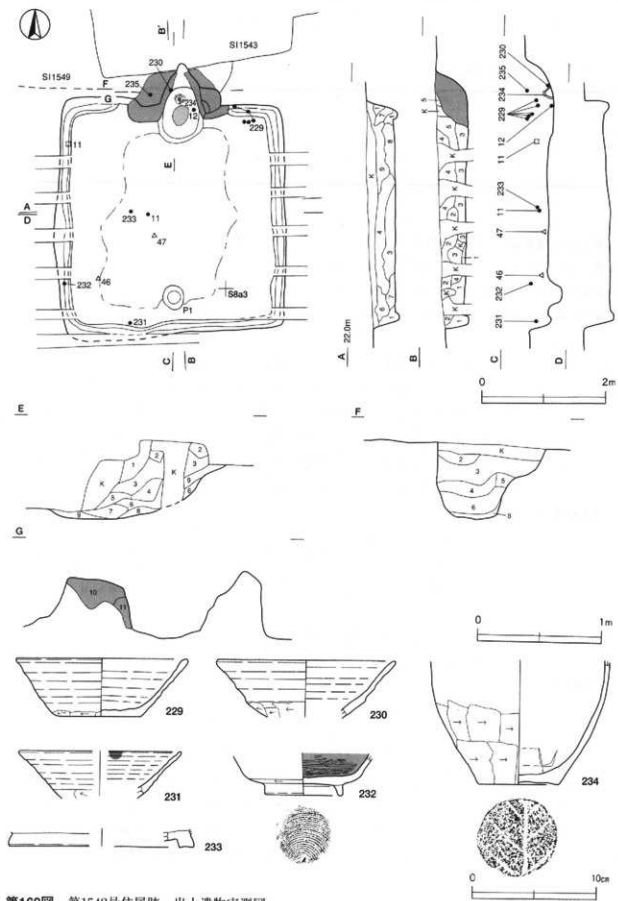
覆土 9層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

#### 土層解説

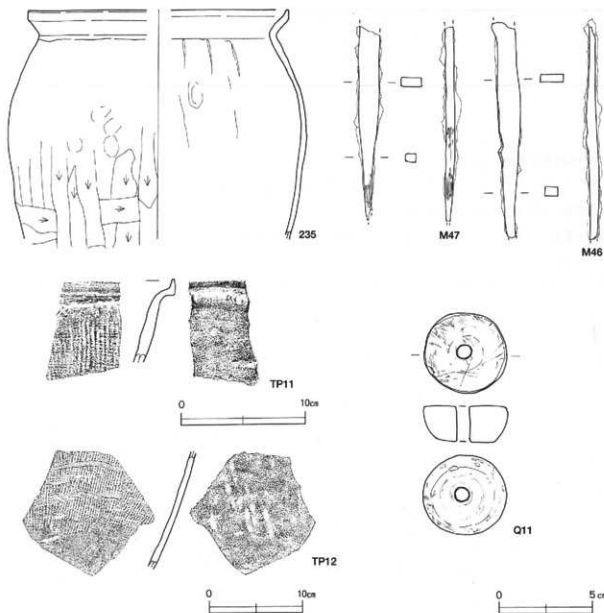
- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量                  | 6 褐色 ロームブロック多量                   |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量           | 7 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量            | 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量   |
| 4 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量      | 9 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 |                                  |

遺物出土状況 土師器片254点(杯28、甕・甔226)、須恵器片77点(杯26、壺1、甕・甔・壺50)、不明鉄製品2点(釵)、石製紡錘車1点が散在した状態で出土している。231は南壁際の覆土中層から出土しており、油煙が付着している。234は竈の支脚として使用されたもので、そのすぐ側から出土した230にも被熱痕が認められることから、234の上部に重ねて支脚として使用されたものと推測される。M46は南西部の床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第160图 第1542号住居跡・出土遺物実測図



第161図 第1542号住居跡出土遺物実測図

第1542号住居跡出土遺物観察表 (第160・161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
229	須恵器	杯	13.8	4.6	6.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り	北東部中層	70%, Pl.56
230	須恵器	杯	[14.2]	(4.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	不良	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	50%
231	須恵器	杯	[12.9]	(3.8)	-	雲母・長石・石英	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り	南壁型中層	漆漣付着, 15%
232	土師器	高台付杯	-	(3.4)	6.0	雲母・長石・斜状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	西壁型上層	50%
233	須恵器	短脚杯	-	(1.4)	[14.8]	長石	黄灰	良好	高台貼り付け後、ロクロナデ	中央部中層	
234	土師器	羹	-	(10.0)	6.4	雲母・石英		普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	竈火床部	被熱痕、支脚 転用, 30%
235	土師器	羹	[20.6]	(18.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土中	30%
TP11	須恵器	羹	-	-	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外面縦位の平行研ぎ、内面ロクロナデ	中央部中層	
TP12	須恵器	羹	-	-	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	不良	体部内面ロクロナデ・輪組み痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q11	絞蓋半	4.4	4.2	1.9	57.0	紀紋岩	孔径0.7~0.8cm, 側面は若干彎曲	北西部中層	PL75
M66	壺*	(11.8)	1.3	1.5	(31.2)	鉄	刃先部欠損, 側面, 先端部に向かって薄くなる	由西部下層	PL82
M47	壺*	(10.3)	1.1	0.5	(25.0)	鉄	刃先部欠損, 側面, 基部木貫付着	中央部下層	PL82

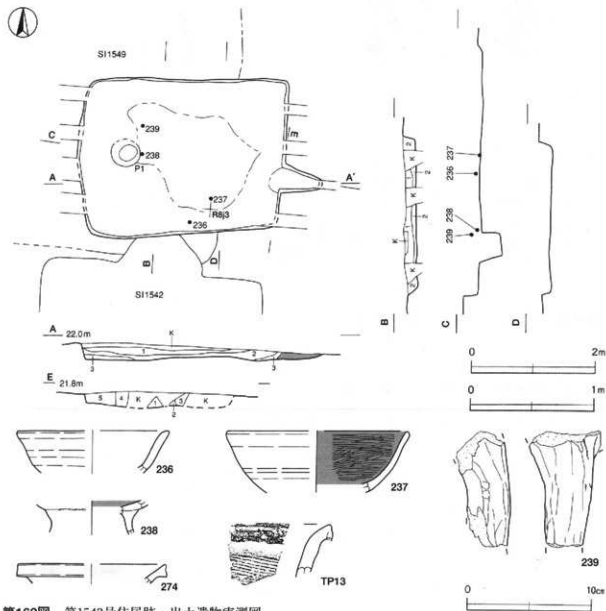
### 第1543号住居跡 (第162図)

位置 調査区中央部のR 8 12区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1542・1549号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.30m, 短軸2.40mほどの長方形で, 主軸方向はN-88°-Eである。壁高は12~20cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 出入り口付近から竈手前にかけてよく踏み固められている。



第162図 第1543号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁の南寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土を用いて構築されていたと推測される。火床部や煙道部の様相は、攪乱のため不明である。

覆土層解説

- |        |                           |          |                       |
|--------|---------------------------|----------|-----------------------|
| 1 褐 褐色 | ローム粒子中量                   | 4 褐 褐色   | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量       | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量      |
| 3 暗 褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |          |                       |

ピット 1か所。P1は深さ30cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- |        |                |        |         |
|--------|----------------|--------|---------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量        |        |         |

遺物出土状況 土師器片102点(杯・碗36、甕・甔65、三足鍋か1)、須恵器片53点、灰輪陶器片1点(長頸瓶)が西側部分を中心に出土している。236は南壁際の覆土下層から、237は竈の焚口部から出土している。また、239は中央部の覆土中層から、274は北西部の覆土中から出土している。

所見 三足鍋の用途については不明な点が多いが、当遺跡においても第642号住居から同様の出土例があることから、当該期に見られる土器群の一つと推測できる。いずれも竈を有する住居跡から出土しており、しかも被熱した痕跡は認められない。時期は、出土土器から10世紀中頃と考えられる。

第1543号住居跡出土遺物観察表(第162図)

番号	種別	器種	1径	器高	底径	出土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
226	土師器	碗	112	134	-	赤褐色赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	体部ロクロナデ	南壁際下層	
227	土師器	甕	114	149	-	赤褐色赤色砂子	赤	普通	体部ロクロナデ後、内面ヘラ磨き	庭先門部	10%
228	土師器	輪	-	127	-	赤褐色赤色砂子	浅黄褐色	普通	灰部内面二方向のヘラ磨き	中央部下層	
229	土師器	三足鍋	-	93	-	赤褐色赤色砂子	にぶい褐色	普通	脚部ナデ	中央部下層	
274	灰輪陶器	長頸瓶	120	116	-	白色砂子	灰青褐色 オリーブ黄	良好	1緑部ロクロナデ	北西部覆土中	儀政所
TF13	須恵器	甕	-	-	-	赤褐色赤色砂子	赤褐色	普通	外面横線の平行型、内面ロクロナデ	南西部覆土中	

第1544号住居跡(第163図)

位置 調査区中央部のR8h3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1564・1601号住居跡を掘り込み、第1588号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.80m、短軸2.35mほどの長方形で、主軸方向はN-88°-Eである。築高は5cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床部だけが確認されている。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床面は赤変硬化している。

覆土層解説

- |         |                            |         |                         |
|---------|----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック・砂粒少量 | 2 黒暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒中量 |
|         |                            | 3 暗赤褐色  | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |

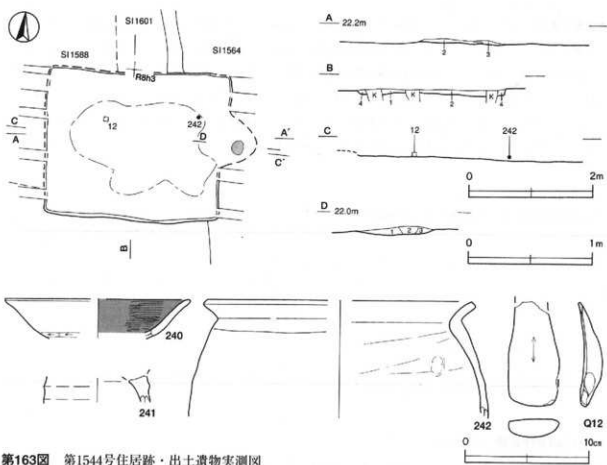
覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 3 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量  
 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片66点（坏・碗19、甕・瓶47）、須恵器片12点、砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは4点で、242は竈手前の覆土下層から破片の状態でまとも出土したものが接合したものである。また、Q12は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、土師器足高台付碗の出土が見られ、小皿が含まれていないことから、10世紀中頃と考えられる。



第163図 第1544号住居跡・出土遺物実測図

第1544号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
240	土師器	碗	[14.8]	[3.2]	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘク型	北西部覆土中	10%
241	土師器	碗	-	(2.1)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	脚踏ロクロナデ	南西部覆土中	
242	土師器	甕	[21.2]	[9.3]	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘクナデ・顔面直	竈手前下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	8.3	4.1	2.0	65.8	凝灰岩	砥面1面、他は自然面	中央部床面	PL76



### 第154号住居跡（第164図）

位置 調査区中央部のR 8g4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1564号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が削平された状態で検出されているため、暗褐色を呈した床面の広がりやピットの位置から、N-13°-Eを主軸とする長軸4.30m、短軸4.20mほどの方形と推定される。

床 ほほ平坦で、中央部がよく踏み固められている。また、壁溝は南壁際を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。火床部は深さ20cmほどの皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。袖部や天井部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。

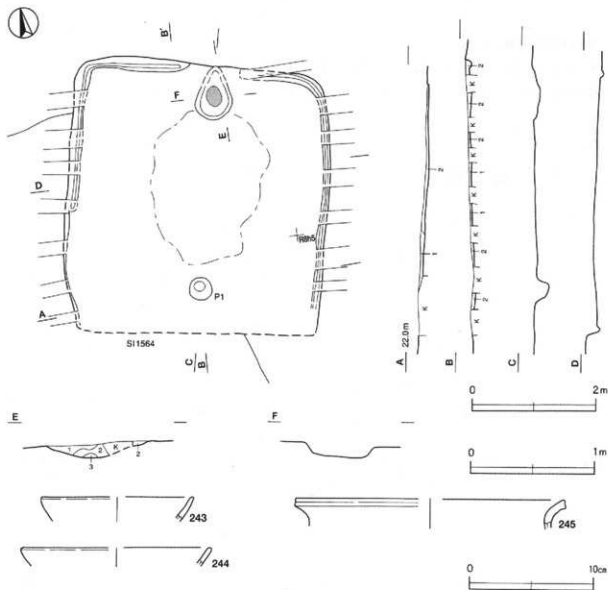
#### 覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物・灰少量

#### 砂粒散見

ピット 1か所。P 1は深さ23cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり、含有物やレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。



第164図 第154号住居跡・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片48点(坏2, 甕46), 須恵器片4点(坏)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは3点で, 244はP1内から, 245は壁溝内から出土している。

**所見** 廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉ないし中葉と考えられる。

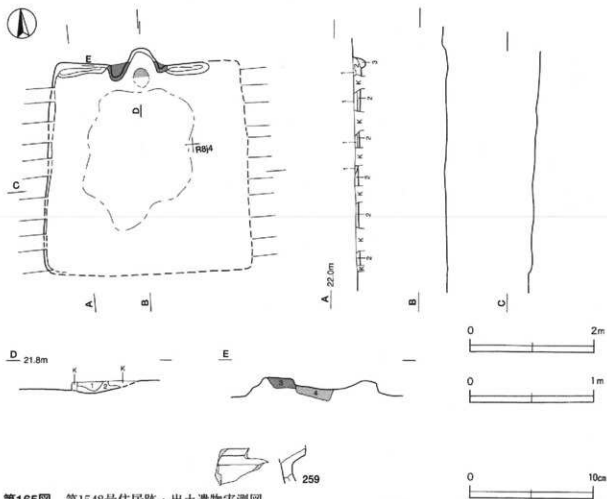
## 第1545号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	[120]	(1.9)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部織ナデ	南側床面	
244	須恵器	坏	[148]	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	P1覆土中	
245	土師器	甕	[214]	(2.4)	-	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁部織ナデ	壁溝覆土中	

## 第1548号住居跡(第165図)

**位置** 調査区中央部のR813区に位置し, 東に若干傾斜した台地上に立地している。

**規模と形状** 壁の立ち上がりは北壁の一部と西壁で確認されただけであり, 竈の位置と床面の広がりからみて,



第165図 第1548号住居跡・出土遺物実測図

N-1°-Eを主軸とする長軸3.40m、短軸3.25mほどの方形と推定される。残存する壁の高さは4cmで、壁の立ち上がり具合は判然としない。

**床** はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。また、壁溝は北壁際で認められる。

**竈** 北壁の中央部に付設されており、袖部幅は95cmほどである。袖部は、掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部の南半部分と焚口部は規乱を受けており、様相は不明である。残存する火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が焼熱によって赤変硬化している。また、煙道の立ち上がり具合は判然としない。

**竈土層解説**

- |        |                               |        |                                   |
|--------|-------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量           | 3 灰黄色  | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子少量、<br>焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・<br>砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、<br>炭化粒子・灰少量     |

**覆土** 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量        | 3 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |       |         |

**遺物出土状況** 土師器片34点（杯4、甕・甔30）、須恵器片5点が出土している。遺物は散在しており、いずれも細片である。

**所見** 袖部の芯として地山を掘り残す竈の構築の仕方は、当遺跡においては8～9世紀に限定されるものである。付近には8世紀代の大形住居や掘立柱建物が主軸方向を同じくして位置しており、木住居もそれらの建物と同時期の可能性が高い。

**第1518号住居跡出土遺物観察表（第165図）**

番号	種類	形状	材質	高さ	底径	胎土	色調	造成	手法の類型	出土位置	備考
250	土師器	甕	-	129	-	雲母・長石・石英	にんじやん	普通	1層部機ナマ	覆土中	

**第1549号住居跡（第166・167図）**

**位置** 調査区中央部のR 8 12区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1577号住居跡を掘り込み、第1542・1543号住居、第140号掘立柱建物、第1481号土坑に掘り込まれている。

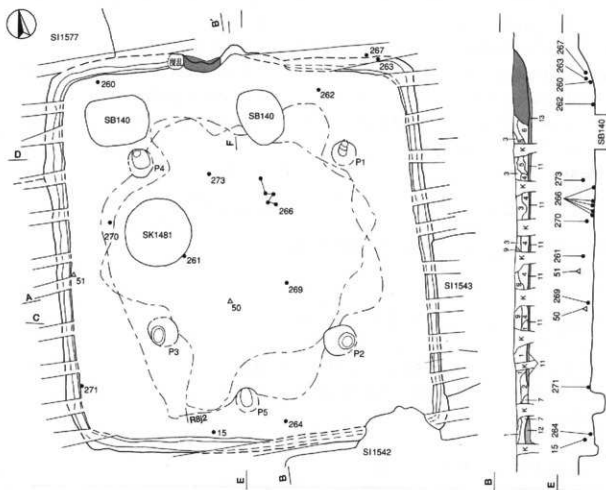
**規模と形状** 長軸6.35m、短軸6.00mほどの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は28～35cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められており、壁溝が周囲している。なお、硬化面は2面確認されており、床を貼り替えたことがうかがえる。

**竈** 北壁中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存せず、竈材が竈穴部の中央にまで散在していたことから、住居の廃絶に伴って破壊されたことが推測される。竈外への掘り込みは16cmほどで、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |         |                                     |        |                             |
|---------|-------------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量                   | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子微量            |
| 2 暗褐色   | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・<br>焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・<br>炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色  | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量               | 7 褐色   | ローム粒子多量                     |
| 4 にんじやん | 焼土ブロック中量                            |        |                             |



第166图 第1549号住居跡実測图

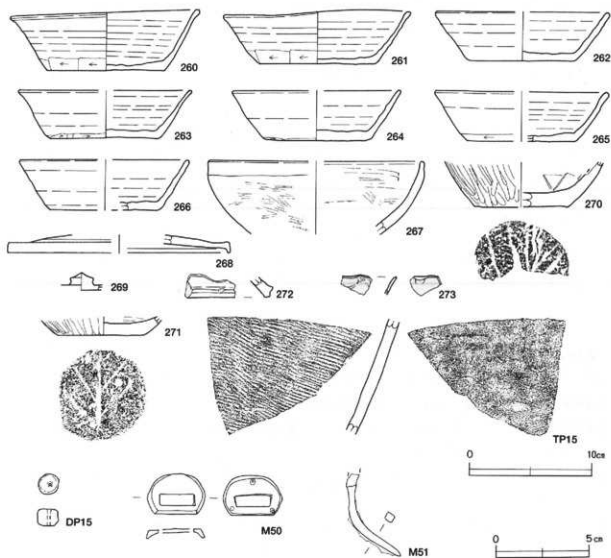
ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは54～70cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さは23cmである。

覆土 10層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。なお、第11～13層は貼床部の土層である。

土層解説

- |       |                           |         |                          |
|-------|---------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 暗褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量          | 9 黒褐色   | ロームブロック少量                |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂粒微量 | 10 暗褐色  | ロームブロック中量                |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量    | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化物少量   | 12 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒少量       | 13 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量       |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量       |         |                          |

遺物出土状況 土師器片577点（坏32、甕・瓶545）、須恵器片201点（坏・高台付坏111、蓋7、甕・瓶82、円面硯カ1）、丸瓶1点、鉄釘カ1点、土玉1点、鉄滓1点が覆土下層を中心に出土しており、その他に緑釉陶器の碗片1点が攪乱により混入している。破断面の摩滅の少ない土器が多く、数量も多いことから、これらの土器は埋め戻しに際して投棄された可能性がある。甕・瓶類はすべて細片で、そのうち271は西壁際の床面に



第167図 第1549号住居跡出土遺物実測図

散在していた破片が接合したものである。また、270は西部の覆土中層と窠付近の床面から出土した破片が接合したものであり、270と271の体部外面には炭化物の付着がみられる。さらに、262は窠内や北壁際の床面、266は中央部の床面から出土している。M50は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 当該期にあっては大形の住居で、丸軀や円面硯と思われる土器も出土しており、付近に位置する同時期の掘立柱建物群との関連がうかがわれる。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第1549号住居跡出土土物観察表 (第167図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
267	土器器	杯	[17.0]	5.81	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内外面ヘラ削き	北東部中層	20%
269	須臾器	杯	15.0	4.9	9.4	雲母・長石・石英	黒	普通	底部回転ヘラ削り後、多方向のヘラ削り	北壁際下層	90%、PL56
261	須臾器	杯	14.7	4.3	9.2	雲母・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、多方向のヘラ削り	中央部上層	70%、PL56
262	須臾器	杯	[12.6]	3.9	8.4	雲母・長石・石英	灰	普通	底部多方向のヘラ削り	窠内・北壁際 床面	80%
263	須臾器	杯	[13.7]	3.9	8.6	雲母・長石	灰黄	普通	底部片削状のヘラ削り	北東部中層	50%
264	須臾器	杯	[13.2]	4.0	7.9	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、片削状のヘラ削り	南壁際下層	50%
265	須臾器	杯	[13.6]	3.9	8.6	雲母・長石	黄灰	普通	体部下層・底部回転ヘラ削り	窠内中層	30%
266	須臾器	杯	[13.4]	4.0	8.6	長石・石英	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	中央部床面	40%
268	須臾器	壺	[17.8]	1.5	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部上層	20%
269	須臾器	蓋	-	1.3	-	雲母・長石	灰	普通	つまみ接合後、ロクロナデ	中央部下層	
270	土器器	壺	-	3.7	7.4	雲母・石英・赤色粘土	明赤黄	普通	体部内面ヘラナデ、底部木炭灰	西部中層・ 窠内	外面炭化物付着
271	土器器	壺	-	1.6	6.9	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部木炭灰	西部床面	外面炭化物付着
272	須臾器	円面硯	-	1.7	-	雲母・長石	灰黄	普通	脚立ロクロナデ	北西部上層	
273	縁部陶器	碗	-	1.5	-	鐵質	灰白・ オリーブ黄	良好	上縁部の一部を輪化灰に内部へ傾倒、 外部ヘラミガキ後、焼成	中央部上層	炭化物
TP13	須臾器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	暗赤灰	普通	外面斜位の平行削き、内面ナデ	山部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	寸法	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	土瓦	1.0	1.0	0.9	1.3	長石・石英	陶灰色、孔径0.1cm、ナデ	北西部上層	PL73
M50	丸軀	3.1	2.2	0.2	6.1	古銅	沢3か所、下位に長方形の穿孔が掘く	中央部中層	PLA2
M51	釘	(5.9)	0.7	0.6	(3.7)	鉄	断面方形の棒状、口状に彎曲	西壁際上層	

### 第1550号住居跡 (第168図)

位置 調査区中央部のS 8 j2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1557号住居跡と第160号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.85m、短軸2.70mほどの長方形で、主軸方向はN-89°-Wである。壁高は35~48cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、窠手前を中心に踏み固められており、北側部分はそれほど硬化していない。また、壁溝は東壁際を除いて通っている。

竈 東壁の南寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、火床部幅55cmほどで、右袖部は遺存していない。左袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は東壁ラインの外側に位置し、火床面が熱して赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

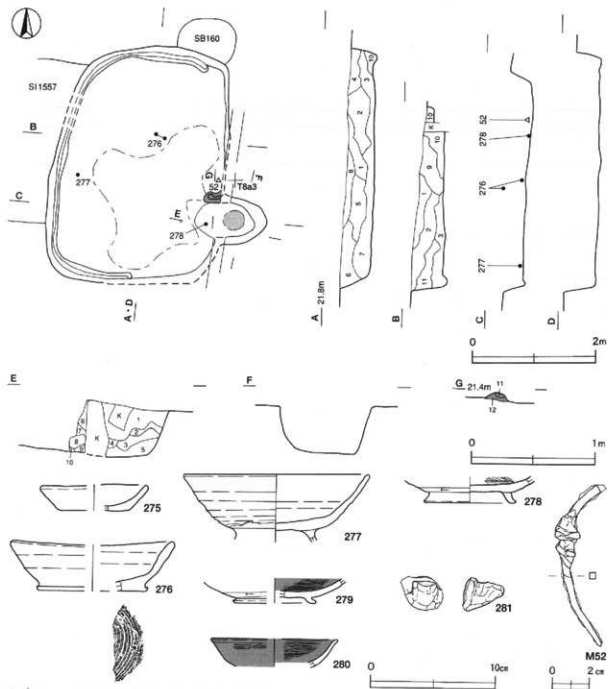
覆土層解説

- |          |                      |           |                   |
|----------|----------------------|-----------|-------------------|
| 1 暗褐色    | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色    | 焼土粒子中量, 砂粒・粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量               | 8 灰黄褐色    | 砂粒・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 赤褐色    | 焼土粒子中量               | 9 黒褐色     | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量    |
| 4 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量             | 10 暗褐色    | ローム粒子少量           |
| 5 暗褐色    | ローム粒子微量              | 11 オリーブ褐色 | 砂粒・粘土粒子多量         |
| 6 褐色     | ロームブロック中量            | 12 灰黄褐色   | 砂粒・粘土粒子中量         |

覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                         |         |                         |
|-------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量               | 7 黒褐色   | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量   | 8 暗暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量     |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量               | 9 暗褐色   | ロームブロック少量               |
| 4 褐色  | ロームブロック中量               | 10 黒褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量       |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量       | 11 黒暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |         |                         |



第168図 第1550号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片176点(小皿5, 坏・碗67, 甕・瓶104), 須恵器片12点, 不明鉄製品1点が, 中央部と甕手前を中心によく出土している。277は中央部西寄りの覆土下層から, 278は甕内から出土している。また, M52は甕北側の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 土師器小皿や小形の碗が出土していることから, 10世紀後半以降と考えられる。

第1550号住居跡出土遺物観察表(第168図)

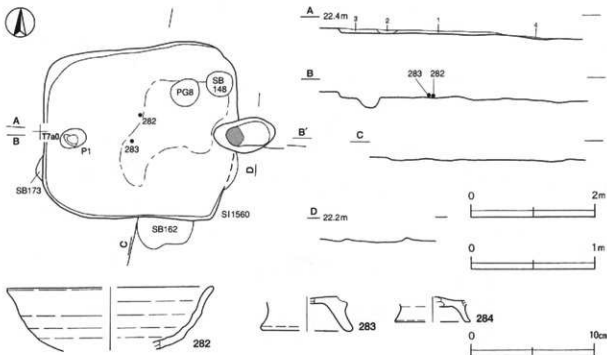
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
275	土師器	小皿	[ 8.2]	2.1	[ 5.8]	雲母・赤色粒子	灰陶	普通	底部回転ヘラ切り	北東部覆土中	
276	土師器	坏	[12.8]	4.0	[ 8.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	中央部下層	40%
277	土師器	碗	14.6	( 5.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部内外面口クロナテ, 高台貼り付け後 口クロナテ	中央部・西部 下層	外面炭化物付着, 70%
278	土師器	碗	-	( 2.1)	6.8	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	甕内	20%
279	土師器	碗	-	( 1.9)	[ 6.6]	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	南西部覆土中	
280	土師器	碗	[10.1]	( 2.0)	-	雲母	照	普通	体部内外面ヘラ磨き	南東部覆土中	
281	土師器	瓶	-	( 2.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	把手部削面によるナテ	北西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M52	不明	( 9.6)	0.4	0.4	(13.2)	鉄	断面方形の棒状, 1本を能力に巻き付ける	甕北側下層	PLK3

第1551号住居跡(第169図)

**位置** 調査区中央部のT7a0区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1560号住居跡, 第162・173号掘立柱建物跡を掘り込み, 第148号掘立柱建物, 第8号ピット群に掘り込まれている。



第169図 第1551号住居跡・出土遺物実測図



**規模と形状** 長軸3.10m、短軸2.70ほどの長方形で、主軸方向はN-88°-Eである。壁高は2~5cmしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。

**床** ほぼ平坦で、中央部から竈手前にかけて踏み固められている。

**竈** 東壁の中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存せず、構築材等も不明である。火床部は東壁ライン上に位置し、火床面は被熱によって赤変している。

**ピット** 1か所。P1は深さ13cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。なお、第4層は竈内の覆土である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  
2 極暗褐色 ロームブロック少量 4 暗赤褐色 焼土粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片60点（杯・碗28、甕・甌32）、須恵器片12点がほぼ全域から散在して出土している。282は中央部の床面から若干浮いた状態で、283は中央部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から、10世紀後半と考えられる。

**第1551号住居跡出土遺物観察表（第169図）**

番号	類別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
282	土師器	碗	[166]	[5.1]	-	宮母・長村・石美	にぶい赤褐色	普通	体部ロクロナデ	中央部床面	28%
283	土師器	碗	-	[2.7]	[7.2]	長村・赤色粘土	浅黄褐色	普通	高台部ロクロナデ	中央部床面	
284	土師器	碗	-	[2.0]	[6.0]	赤土	橙	普通	高台部ロクロナデ	北東部覆土中	

**第1553号住居跡（第170図）**

**位置** 調査区中央部のT8d4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1563号住居跡と第186号掘立柱建物跡を掘り込み、第1453号土坑と第9号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.35m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-111°-Eである。壁高は10~26cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、竈手前から中央部、さらに西壁際のやや北寄りにかけて踏み固められている。また、壁津は西壁際の北寄り部分と東壁際を除いて廻っている。

**竈** 東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm、火床部幅65cmほどで、壁外への掘り込みは90cmである。天井部・袖部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。また、火床面は東壁ラインの外側に位置し、赤変硬化しており、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

**覆土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量 3 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**炉** 中央部の竈寄りに付設されている。床面とほぼ同じ高さの地床炉で、被熱して赤変硬化している。

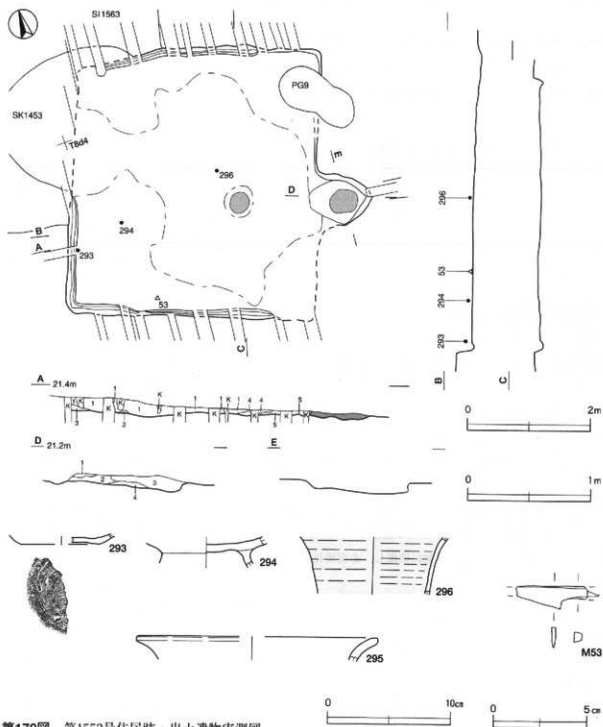
**覆土** 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 5 暗褐色 ロームブロック少量、砂粒・粘土粒子微量  
3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片28点(小皿1, 坏・碗16, 甕11), 須恵器片3点(甕3), 灰釉陶器2点(壺2), 刀子1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, 293は西壁際, 294は中央部西寄り, 296は中央部のいずれも床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 第1377・1536・1537号住居跡などと同様に, 竈と和を有する住居である。また, 西壁際の硬化面が広がる部分には壁溝が巡っており, 出入口施設との関連をうかがうことができる。時期は, 出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第170図 第1553号住居跡・出土遺物実測図

第1553号住居跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
293	土師器	小皿	-	(0.9)	(6.0)	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	西壁際下層	
294	土師器	碗	-	(2.4)	-	長石	靑	普通	高台胎り付け後、ロクロナデ	中央部下層	内面炭化物付着
295	土師器	壺	[19.0]	(1.9)	-	石英	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ	壺内	
296	灰種陶器	長頸瓶	-	(4.6)	-	黒色砂子	灰白・ 灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ、輪轉技法不明	中央部下層	編投産

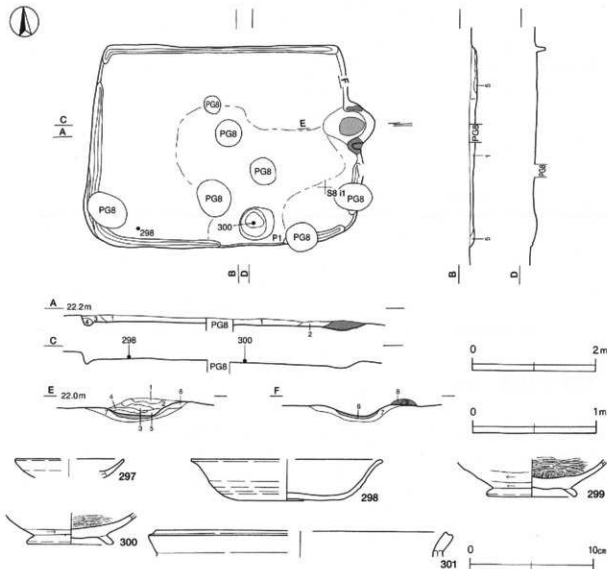
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M33	刀子	(4.5)	1.1	0.4	(3.3)	鉄	刃部から基部の破片、片断	南壁際床面	PL78

第1554号住居跡 (第171図)

位置 調査区中央部のS7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第8号ピット群に掘り込まれている。



第171図 第1554号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸4.40m、短軸3.25mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は8cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、竈手前から中央部、及び南壁際中央部にかけて踏み固められている。また、壁溝が南壁際の中央部や東壁際の北部を除いて巡っている。

**竈** 東壁の中央部に付設されている。竈前は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面を皿状に掘りくぼめて使用されており、火床面が被熱によって小変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム粒少量、粘土粒子・砂粒微量	6 暗赤褐色	粘土粒少量
2 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	7 褐色	ローム粒少量
3 にぶい赤褐色	焼土粒少量、粘土粒子・砂粒少量	8 オリーブ褐色	粘土粒少量
4 暗褐色	ローム粒少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒少量・粘土粒少量・砂粒微量
5 暗赤褐色	焼土粒少量、ローム粒少量		

**ピット** 1か所。P1は深さ5cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒少量・炭化物微量	3 暗褐色	ローム粒少量・炭化物少量
2 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量	4 黒褐色	ローム粒微量
		5 暗褐色	ローム粒少量

**遺物出土状況** 土師器片111点（小皿2、杯・椀29、壺・甗80）、須虫器片2点が、南壁際や竈内を中心に出土している。299・300は、いずれも南壁際の床面から出土している。

**所見** 壁溝は南壁際の中央部分で途切れており、その部分は硬化面の広がりとも重なることから、この付近に出入り口施設が存在していたと推測される。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

**第1554号住居跡出土遺物観察表（第171図）**

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
297	土師器	小皿	8.6	1.5	-	石英	にぶい	普通	口縁部ロクロナデ	西西部覆土中	
298	土師器	杯	15.2	3.3	8.0	雲母・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転ヘラ取り	南壁際下層	40%
299	土師器	椀	-	3.0	6.6	雲母・長石・石英	にぶい	普通	底部内面二方向のヘラ巻き	南壁際床面	30%
300	土師器	椀	-	2.6	6.6	雲母・長石・石英	にぶい	普通	底部内面一方向のヘラ巻き	南壁際床面	20%
301	土師器	壺	22.2	2.0	-	長石	暗	普通	口縁部擦ナデ	北壁部覆土上	

**第1555号住居跡（第172図）**

**位置** 調査区中央部のT7c0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1567・1590号住居跡と第152・155・158・165・171号独立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東側部分が削平された状態で検出されたため全容は不明であり、壁溝の確認状況から南北軸は2.65mで、東西軸は2.00m以上と推定される。平面形は方形ないし長方形で、主軸方向は西壁の指す方向からみてN-88°-EないしN-2°-Eと推測される。

**床** ほほ平坦である。硬化面は、認められない。

**竈** 粘土粒子等の分布も認められず、竈の存在については不明である。

**覆土** 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積の可能性が高い。

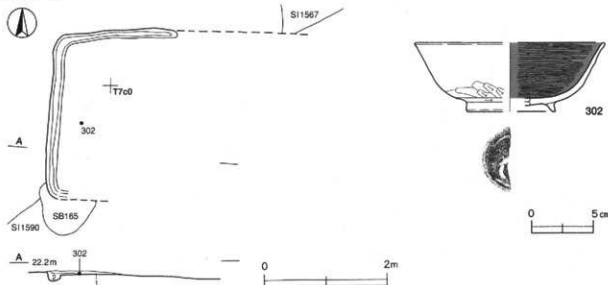
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片17点(坏5, 堿12)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。302は、西壁際の床面から出土している。

**所見** 時期は、須恵器片や土師器小皿が出土していないことや土師器碗の形状などからみて、10世紀後半と考えられる。



第172図 第1555号住居跡・出土遺物実測図

第1555号住居跡出土遺物観察表(第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土師器	碗	[15.4]	3.5	[7.1]	黒身・灰石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へう切り後、高台張り付け	西壁際床面	30%

第1557号住居跡(第173図)

**位置** 調査区中央部のS 8j2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1550号住居と第1563号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東側部分が遺存していないために全容は不明で、南北軸は2.60m、東西軸は2.25mだけが確認されている。平面形は方形または長方形で、主軸方向は東を想定するとN-88°-Wと推定される。壁の高さは南壁で18cm、西壁で10cmほどあり、両壁ともほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦であり、硬化面は南壁際と中央部から若干認められるだけである。また、壁溝は確認された壁際を巡っている。

**覆土** 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム中ブロック少量

4 極暗褐色 ローム粒子少量

5 黒褐色 ローム小ブロック少量

6 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

7 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量

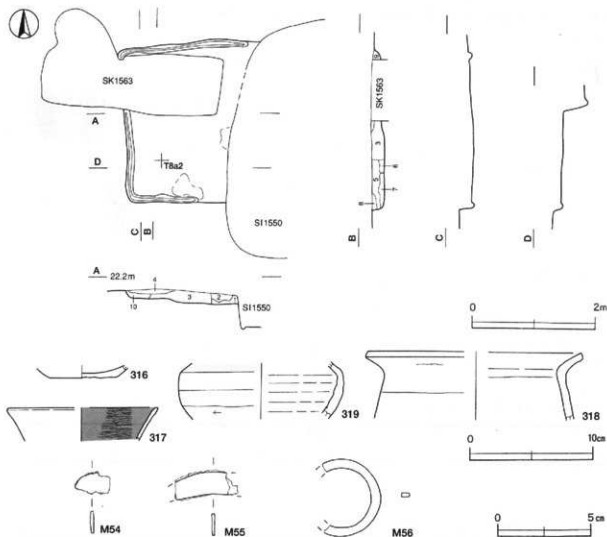
8 暗褐色 ローム粒子少量

9 黒褐色 ローム小ブロック微量

10 暗褐色 ローム中ブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片85点（小皿1，坏・碗23，甕・瓶61），須恵器片1点（甕），不明鉄製品2点，不明銅製品1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。図示した土器はすべて南東部の覆土中から出土したものである。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から10世紀後半ないしそれ以降と考えられる。



第173図 第1557号住居跡・出土遺物実測図

第1557号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
316	土師器	小皿	-	(1.0)	5.3	雲母-赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	
317	土師器	碗	(12.3)	(2.7)	-	雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	南東部覆土中	
318	土師器	甕	(17.0)	(5.3)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部磨ナゲ，体部外面ヘラ削り磨ナゲ	南東部覆土中	
319	須恵器	長頸壺*	-	(4.3)	-	長石・黒色粒子	靑灰	良好	体部下縁回転ヘラ削り	南東部覆土中	口縁自然軸

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M54	不明	(1.0)	(1.3)	0.2	(0.7)	鉄	均一な厚さの板状，結線束の一部*	中央部中層	
M55	不明	(3.4)	(1.3)	0.2	(3.3)	鉄	均一な厚さの板状，弓状に彎曲	南東部覆土中	PL78
M56	不明	4.1	0.4	0.2	(4.7)	銅	断面長方形の板状	南東部覆土中	

第1560号住居跡 (第174図)

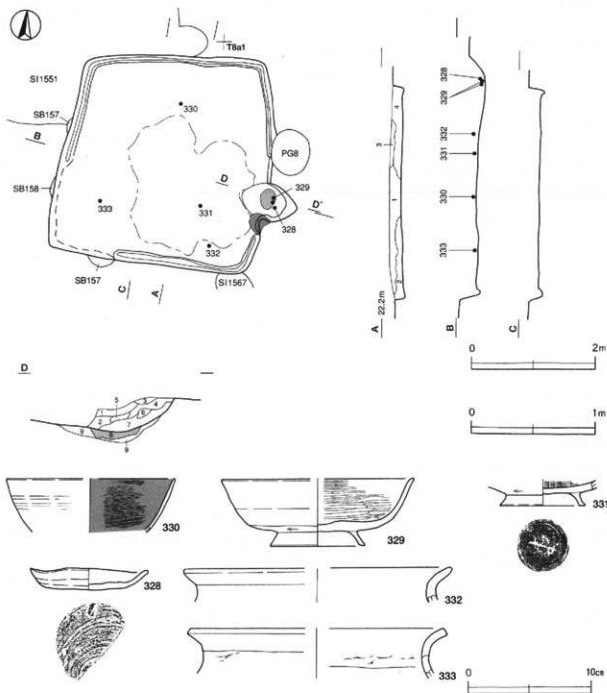
位置 調査区中央部のT7a0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1551・1567号住居跡と第157・158号掘立柱建物跡を掘り込み、第8号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m、短軸3.40mほどの方形で、主軸方向はN-96°-Eである。壁高は16~29cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が、南西部を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄り壁外に50cmほど掘り込んで付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cmである。左



第174図 第1560号住居跡・出土遺物実測図

袖部は遺存せず、右袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分に焼土混じりのロームブロックを埋め戻した浅い皿状を呈しており、火床面は赤変硬化している。また、標道は急な傾斜で立ち上がっている。

#### 敷土層解説

- |          |                                |         |                       |
|----------|--------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒 褐色   | 焼上ブロック・炭化物・砂粒少量                | 6 オリーブ色 | 粘土ブロック中層、焼土粒子・砂粒少量    |
| 2 暗 褐色   | ロームブロック中層、炭化粒子少量、<br>焼土粒子・砂粒微量 | 7 暗 赤褐色 | 焼上ブロック中層              |
| 3 引 褐色   | ロームブロック・炭化粒子微量                 | 8 赤 褐色  | 焼上ブロック中層              |
| 4 に近い赤褐色 | 焼土粒子・炭化物・砂粒少量                  | 9 黒 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 灰オリーブ色 | 砂粒中層、ローム粒子微量                   |         |                       |

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

#### 土層解説

- |        |                      |        |                    |
|--------|----------------------|--------|--------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量            | 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼上ブロック・炭化物少量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中層          |

遺物出土状況 土師器片347点（小皿8、杯・碗126、甕・瓶213）、石製支脚1点（雲母片岩）、砥石1点（凝灰岩）が竈付近を中心に出土している。328・329は竈内から、331・332は竈手前の覆上下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

### 第1560号住居跡出土遺物観察表（第174図）

番号	性別	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	小皿	8.4	1.7	6.4	雲母・炭石・赤色粒子	橙	普通	底部輪軸糸切り	竈内	55%, Pl.27
329	土師器	碗	115.4	5.1	7.2	雲母・炭石・赤色粒子	にに近い赤褐色	普通	底部輪軸へくすり後、高台取り付け	竈内	50%
330	土師器	杯	12.4	4.3	-	炭石・石英	にに近い橙	普通	底部内面へくすり	北部下層	
331	土師器	碗	-	2.1	6.8	雲母・炭石・赤色粒子	にに近い橙	普通	底部内面・方向のへくすり	竈手前下層	
332	土師器	甕	21.4	2.7	-	雲母・炭石・赤色粒子	橙	普通	L1輪部感ナデ	竈手前下層	
333	土師器	甕	20.2	3.6	-	雲母・炭石・石英	にに近い橙	普通	L1輪部感ナデ・輪結み取	南西部下層	

### 第1561号住居跡（第175・176図）

位置 調査区中央部のS 8a区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1582号住居跡を掘り込み、第146・147号掘立柱建物と第1455・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.80m、短軸4.45mほどの方形で、土軸方向はN-3°-Eである。壁高は残存する西壁や北壁で15-19cmほどあり、壁は急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。また、壁溝が北西部から南西部にかけて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床部と標道部だけが確認されており、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

#### 敷土層解説

- |         |                             |        |                        |
|---------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰 褐色  | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中層、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰 黄褐色 | 粘土粒子・砂粒少量                   | 4 暗 褐色 | ロームブロック中層              |



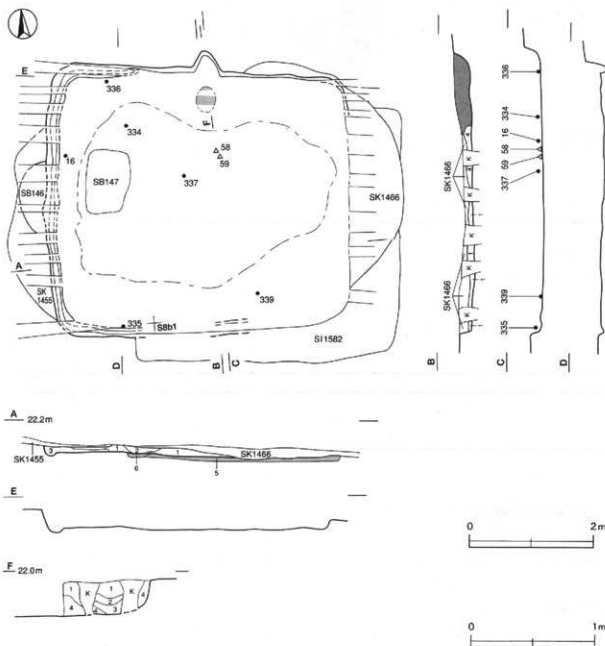
覆土 6層からなる。各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。第5・6層は、貼床部の土層である。

土層解説

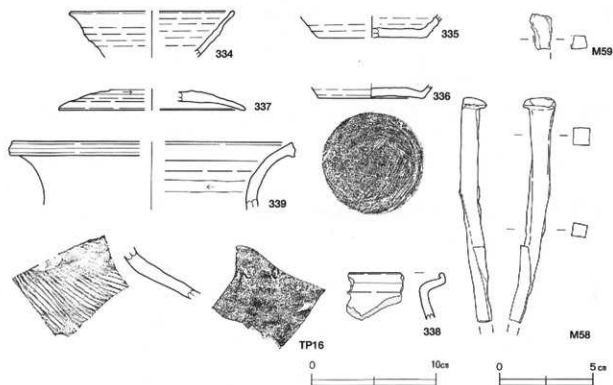
- |        |                       |        |                        |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・ |
| 2 暗褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |        | 粘土粒子・砂粒少量              |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量         | 5 暗褐色  | ロームブロック多量              |
|        |                       | 6 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子少量       |

遺物出土状況 土師器片536点(坏3, 甕・瓶533), 須恵器片110点(坏44, 蓋3, 甕・瓶63), 灰釉陶器片2点(瓶カ), 鉄釘2点, 鉄滓3点がほぼ全域から散在して出土している。土師器変類は細片がほとんどで、破断面の摩滅しているものが多い。336は北西部, 339は南部, M58・M59は竈手前のいずれも床面から出土している。

所見 廃絶時期は、重複関係と出土土器から8世紀後葉と考えられる。新しい様相を示す土器は、掘立柱建物に伴うものと考えられる。



第175図 第1561号住居跡実測図



第176図 第1561号住居跡出土遺物実測図

第1561号住居跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
334	須恵器	坏	[132]	(3.6)	-	雲母・長石	灰	普通	底部下縁手持ちヘラ削り	北西部下層	
335	須恵器	坏	-	(2.8)	[8.4]	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	南壁際下層	底部前面残、2%
336	須恵器	坏	-	(1.2)	4.2	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	北西部床面	底部内面厚残
337	須恵器	蓋	[15.0]	(1.6)	-	雲母・長石	灰オリーブ	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部下層	口縁部前面残1%
338	土師器	甕	-	(3.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい黒	普通	口縁部横ナデ	竊土中	
339	須恵器	甕	[22.4]	(5.5)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	側部内面一部回転ヘラ削り	南部床面	
TP16	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面斜位の平行叩き、内面口コナデ	西壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M58	釘	(12.0)	1.7	0.9	(32.0)	鉄	脚部先端欠損。下位でねじれる。頭部は打撃によってやや潰れる	竊土床表面	PL81
M59	釘	(1.8)	1.2	1.2	(3.1)	鉄	断面方形。頭部の破片、脚部欠損	竊土床表面	

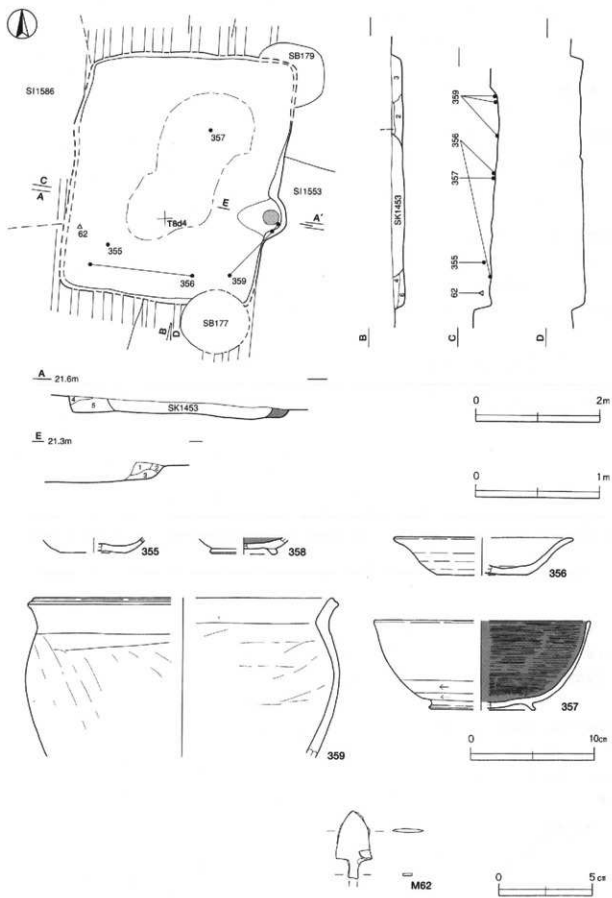
### 第1563号住居跡 (第177図)

位置 調査区中央部のT8d4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1553・1586号住居跡と第177・179号掘立柱建物跡、第1543号土坑を掘り込み、第9号ピット群と第1453号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.40mほどの若干歪んだ長方形で、主軸方向はN-105°-Eである。壁高は15~25cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、中央部が踏み固められている。



第177图 第1563号住居跡・出土遺物実測図

**竈** 東壁の中央部に付設されており、壁外への掘り込みは25cmほどである。天井部や袖部は遺存せず、火床面は若干赤変している部分が認められるだけであり、焼け締まてはいない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 黒 褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗 赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗 褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 |                          |

**覆土** 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

**土層解説**

- |                         |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック少量        | 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量       |
| 2 暗 褐色 ロームブロック中量        | 5 黒 褐色 ロームブロック少量、残土ブロック・炭化物微量 |
| 3 焦 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 焦 暗褐色 ロームブロック少量             |

**遺物出土状況** 土師器片131点(坏・碗58、甕・瓶73)、鉄鏝1点、鉄洋1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。356は南東部と南西部の床面から出土した破片を接合したものであり、359は竈内から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

**第1563号住居跡出土遺物観察表 (第177図)**

番号	種類	器種	口徑	底径	口径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	土師器	小皿	-	(12)	(33)	長石・石英・赤色粒子	暗	普通	底部凹縁ヘラ切り	南西部上層	
356	土師器	坏	14.5	2.9	(7.3)	雲母・赤褐色粒子	に濃い黄	普通	底部凹縁ヘラ切り後、ヘラナデ	南東部・南西部床面	50%
357	土師器	碗	17.3	7.1	(8.6)	雲母・赤褐色粒子	に濃い赤褐色	普通	底部凹縁ヘラ切り後、高台削り付け	中央部床面	50%、PL37
358	土師器	甕	-	(1.9)	(5.5)	雲母・赤褐色粒子	に濃い赤褐色	普通	高台削り付け後、ラコナデ	北東部遺土中	
359	土師器	甕	24.0	(12.8)		長石・石英	に濃い黄	普通	底部外面ナデ、内面ヘラナデ	竈内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	系統	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M62	鏝	(3.6)	1.9	0.2	(3.1)	鉄	鍔なしの丸刃造り、基部欠損	南西部上層	PL40

**第1566号住居跡 (第178・179図)**

**位置** 調査区中央部のS7b8区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

**重複関係** 第1580号住居跡と第137号掘立柱建物跡を掘り込み、第145号掘立柱建物と第1475号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.60m、短軸4.50mほどの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は10~29cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。また、西側部分は締まりが弱い。

**竈** 北壁の東寄りに付設されている。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。

**竈土層解説**

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1 暗 褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量              | 6 暗 褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物微量        |
| 2 に濃い黄褐色 粘土粒子・砂粒多量                   |  |
| 3 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量             | 7 に濃い黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗 褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗 褐色 ロームブロック多量                         |
| 5 黒 褐色 焼土粒子・炭化物中量、ローム粒子少量            |  |

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは19cmである。

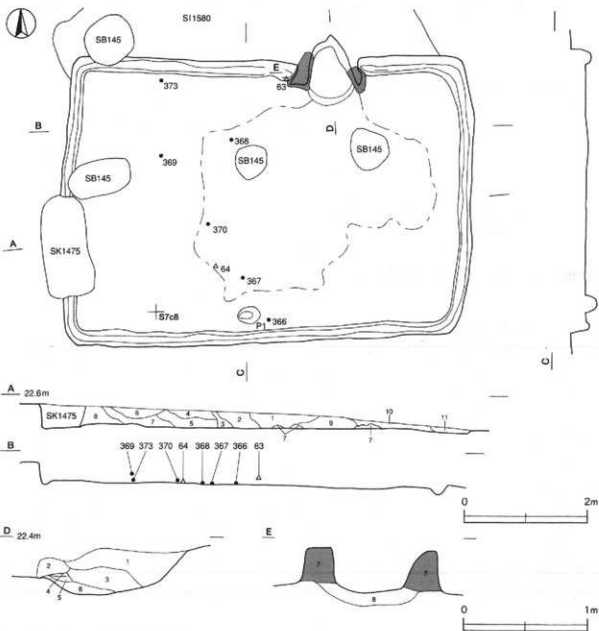
覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

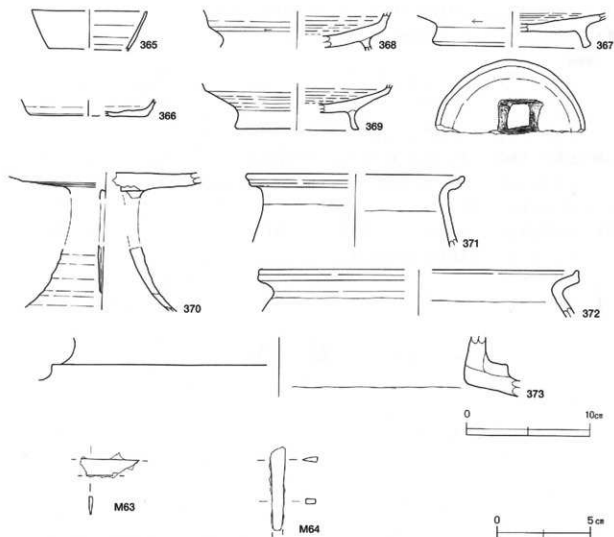
- |        |                          |        |                       |
|--------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色  | 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量   | 7 褐色   | ロームブロック中量             |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量         | 8 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量        |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量    | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色  | ローム粒子微量                  | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量        |
| 5 黒褐色  | 焼土粒子少量、炭化粒子微量            | 11 暗褐色 | ローム粒子少量               |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量、灰少量 |        |                       |

遺物出土状況 土師器片199点(坏33, 甕・瓶166), 須恵器片52点(坏・高台付坏28, 蓋1, 高盤1, 甕・瓶22), 刀子1点, 鉄鏃カ1点が, ほほ全域から散在して出土している。366・367は南壁近く, 368は中央部北寄りのいずれも床面から出土している。

所見 竈や硬化面の広がりや東に寄っていることからみて, 横長の室内空間を使い分けていたことが想定される。時期は, 出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第178図 第1565号住居跡実測図



第179図 第1565号住居跡出土遺物実測図

第1565号住居跡出土遺物観察表 (第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	須恵器	坏	[ 9.2]	3.1	[ 6.4]	長石	灰	普通	体部ロクロナデ	北西部上層	
366	須恵器	坏	-	[ 1.4]	[ 9.4]	雲母・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際床面	
367	須恵器	高台付坏	-	( 2.2)	[11.2]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南壁際床面	底部外面墨書 [□]25%, PL20
368	須恵器	高台付坏	-	( 3.0)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	中央部床面	底部内面摩滅 30%
369	須恵器	高台付坏	-	( 3.7)	[10.0]	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部中層	20%
370	須恵器	高盤	-	(11.0)	-	雲母・石英	灰黄	普通	脚部四方向の透かし	中央部下層	20%
371	土師器	甕	[17.6]	( 5.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南東部下層	
372	土師器	甕	[25.6]	( 3.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	北東部上層	
373	須恵器	大甕	-	(12.8)	-	長石	灰	普通	胴部に前面方形の輪縁帯貼り付け	北壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M63	刀子	( 3.2)	0.9	0.2	( 2.2)	鉄	刃部の破片	北壁際中層	
M64	針	( 4.5)	0.8	0.3	( 3.7)	鉄	腹身部の破片、片刃箭式	南西部床面	PL79

### 第1566号住居跡（第180図）

位置 調査区中央部のT 8b4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第179号掘立柱建物跡と第1605・1606号土坑を掘り込み、中央部の覆土を第1454号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.90mほどの若干歪んだ方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は10cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、中央部が踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、壁外への掘り込みは70cmほどである。天井部や袖部は遺存せず、火床面に若干赤変している部分が認められるだけであり、焼け締まっではない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

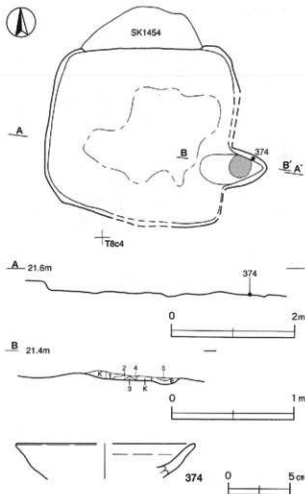
#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量
- 5 に近い赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

土層 覆土の大部分を第1454号土坑に掘り込まれており、本跡の堆積状況は確認されていない。

遺物出土状況 土師器片16点（環・埴5、甕・甌11）、須恵器片1点が散在して出土している。374は竈内から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。



第180図 第1566号住居跡・出土遺物実測図

### 第1566号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	土師器	埴	140	(27)	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部クロナデ	覆土中	

### 第1568号住居跡（第181・182図）

位置 調査区中央部のR 7j0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1585号住居跡を掘り込み、第146号掘立柱建物と第1521号土坑に掘り込まれている。

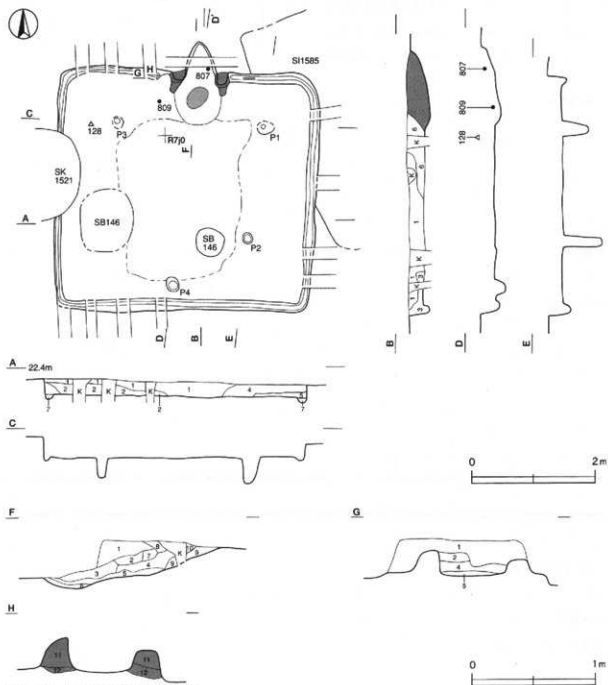
規模と形状 長軸4.20m、短軸3.90mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は25~29cmで、各壁とも直立している。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁の中央部に壁外に50cmほど掘り込んで、付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅95cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上にローム土を突き固めて基部とし、その上部に白色粘土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し、火床部が赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- |         |                              |           |                         |
|---------|------------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量        | 7 暗 赤褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量     |
| 2 黒 褐色  | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・白色粘土粒子少量 | 8 暗 赤褐色   | 焼土粒子・炭化粒子中量             |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、白色粘土粒子微量      | 9 褐色      | ロームブロック中量、焼土粒子少量        |
| 4 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量               | 10 暗 褐色   | ロームブロック少量               |
| 5 暗 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量        | 11 にぶい黄褐色 | 白色粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 黒 褐色  | 炭化粒子中量、焼土ブロック・灰少量、ローム粒子微量    | 12 暗 褐色   | ロームブロック多量               |



第181図 第1568号住居跡実測図



ビット 4か所。主柱穴はP1～P3が相当し、深さは32～61cmである。P4は出入り口施設に伴うビットで、深さは18cmである。

覆土 7層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

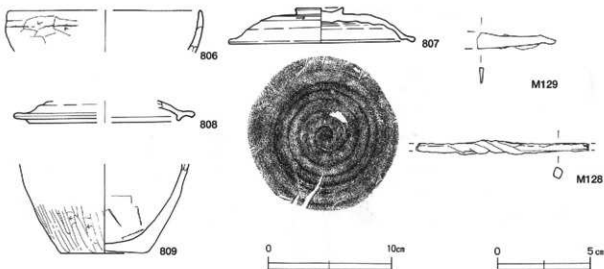
土層解説

- |        |                        |        |                       |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    | 5 暗褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 3 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量       | 7 暗褐色  | ロームブロック少量             |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |        |                       |

遺物出土状況 土師器片310点(坏50、甕・瓶260)、須恵器片62点(坏・高台付坏21、蓋11、甕・瓶30)、不明鉄製品2点(不明1、刀子カ1)が出土している。遺物は全域に散在しており、そのほとんどが細片である。

807は煙道部から、809は籠手前の床面から出土している。M128は北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第182図 第1568号住居跡出土遺物実測図

第1568号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	裏	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
806	土師器	坏	[15.6]	( 3.3)	-	赤色粒子	にぶい赤褐色	普通		体部内面ナデ、内・外面黒色処理の痕跡有	北東部上層	
807	須恵器	蓋	14.6	3.0	-	雲母・長石・石英	灰青	普通		天弁部回転ヘラ削り	煙道部	内面調査 [*], J705, P1.37
808	須恵器	蓋	[14.1]	( 1.7)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通		口縁部ロクロナデ	南東部上層	
809	土師器	甕	-	( 7.0)	7.0	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通		底部外面ヘラナデ	籠手前床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M128	甕	( 9.2)	0.7	0.7	( 8.7)	鉄	断面方形の棒状、螺旋状に捻れる	北西部上層	PL33
M129	刀子	( 4.2)	( 0.9)	0.2	( 2.6)	鉄	刃部から茎部の残片。両部の形状不明	覆土中	

第1569号住居跡 (第183・184図)

位置 調査区中央部のR7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1576号住居と第138・140号掘立柱建物、第36号井戸、第1471号土坑、第1479号土坑に掘り込まれ

ている。

**規模と形状** 長軸4.45m, 短軸4.40mほどの方形で, 主軸方向はN-6°-Eである。壁高は6~18cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

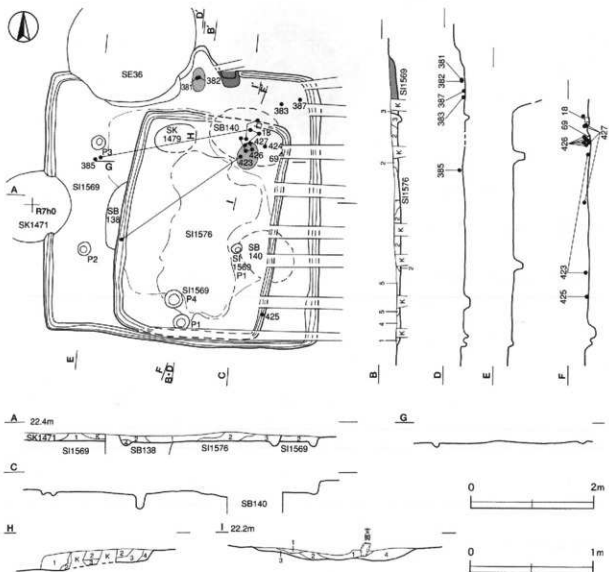
**床** はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められており, 壁溝が周回している。

**竈** 北壁中央部に, 壁外に45cmほど掘り込んで付設されている。天井部と左袖部は遺存せず, 右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し, 火床面が赤変硬化している。また, 煙道は外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |         |                            |        |                       |
|---------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色  | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック少量,      | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・ |
|         | 焼土ブロック・炭化粒子微量              |        | 粘土粒子・砂粒少量             |
| 2 灰 黒 色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・ | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量     |
|         | 炭化粒子少量                     |        |                       |

**ピット** 4か所。主柱穴はP1~P3が相当し, 深さは19~23cmである。P4は深さ12cmで, 竈と向かい合う位置にあり, 出入り口施設に伴うピットである。



第183図 第1569・1576号住居跡実測図

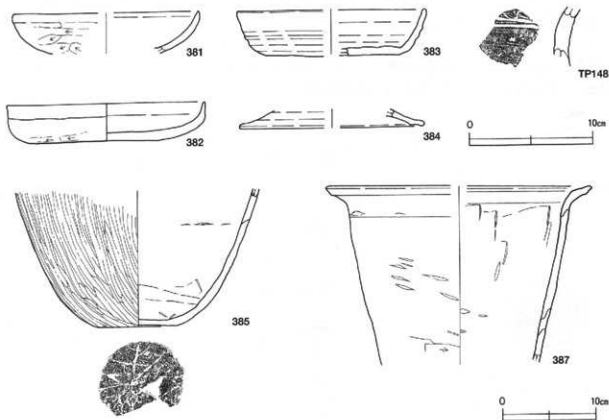
覆土 3層からなり、各層ともロームブロックや焼土粒子を含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 3 暗褐色 ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片154点(坏21, 甕・瓶133), 須恵器片54点(坏21, 甕2, 甕31)が出土している。遺物は中央部が掘り込まれているために、いずれも壁寄りないし壺内からの出土であり, 381・382は壺内から, 383・387は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第184図 第1569号住居跡出土遺物実測図

第1569号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
381	土師器	坏	[16.0]	( 3.2)	-	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	覆土中	
382	土師器	坏	15.9	3.1	12.5	雲母・長石	明赤褐	普通	底部多方向のへラ削り	覆土中	90%, PL57
383	須恵器	坏	[14.6]	3.6	[10.8]	雲母・長石	黄灰	普通	底部回転へラ切り後, 多方向のへラ削り	北東部床面	底部片屑へラ記号「-」, 40%
384	須恵器	甕	[14.6]	( 1.4)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	由西部覆土中	
385	土師器	甕	-	(14.4)	8.6	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内面下縁指痕によるナデ	西部覆土下層	20%
387	土師器	瓶	[27.6]	(18.8)	-	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部内・外面へラナデ	北東部床面	20%
TP148	須恵器	甕	-	3.9	-	長石	黄灰	良好	別部器蓋形状・沈輪2条	北西部覆土中	

第1576号住居跡 (第183・185図)

位置 調査区中央部のR7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1569号住居跡と第138・140号掘立柱建物跡を掘り込み、第1479号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸2.50mほどの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は10~12cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が固回している。

竈 北壁の東寄りに付設されている。遺存状態が悪く、赤変硬化した火床面とその北側から支脚が確認されただけである。支脚は板状の雲母片岩を使用しており、下半を埋め込み、直立した状態で据えられている。

竈土層解説

- |        |                    |        |                       |
|--------|--------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量       | 3 暗赤褐色 | 焼上ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色  | 灰多量、焼上ブロック中量、炭化物微量 | 4 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   |

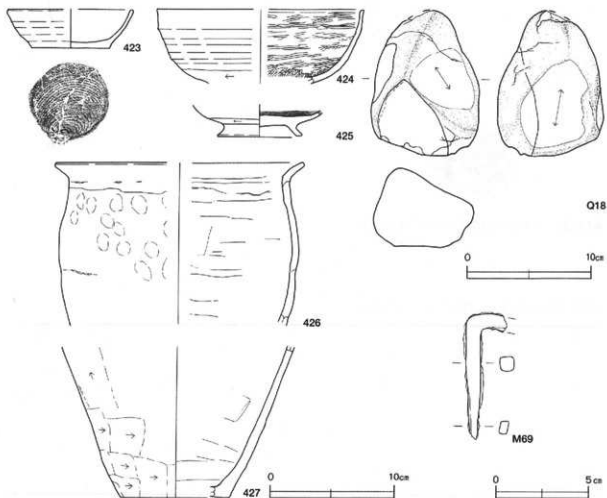
ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは15cmである。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- |        |                         |       |                  |
|--------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量       | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量  | 5 黒褐色 | ロームブロック少量        |
| 3 黒褐色  | 焼土粒子・炭化物・砂粒少量、ロームブロック微量 |       |                  |

遺物出土状況 土師器片83点(坏・碗60、甕・瓶23)、須恵器片3点(甕)、鉄釘1点、支脚1点が出土している。



第185図 第1576号住居跡出土遺物実測図

る。遺物は電付近からまとまって出土しており、424・426・427・M69はいずれも火床部から出土している。  
 所見 時期は、小皿が出土していないことや桶の形状などから10世紀後半と考えられる。

#### 第1576号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	取手	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
423	土師器	杯	10.2	3.1	6.2	長釘・赤色粘土	にぶい藍	普通	底部回転成形	電付遺西端下層	60%
424	土師器	碗	16.6	3.9	-	雲母・長石・石英	にぶい赤黄	普通	底部内側一方向のヘラ削き	遺火床部	20%
425	土師器	碗	-	2.5	6.8	雲母	明赤黄	普通	底部内側へタ割り後、高台盛り付け	南東部床面	25%
426	土師器	甕	19.8	13.0	-	雲母	にぶい黄橙	普通	外部外面コクロナテ	遺火床部	20%
427	土師器	甕	-	12.0	8.6	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	外部外面ヘラ削り、内面ヘラナテ	遺西・西部下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・断片	特徴	出土位置	備考
Q18	文胸	11.6	8.5	6.5	680.0	雲母片岩	底面2面、惣縁紅。砥石を支脚に転用	遺火床部	PL77
M69	鉢	7.9	1.0	0.9	320.0	鉄	断面方形の棒状。両端部欠損。上位で屈曲	遺火床部	PL81

#### 第1570号住居跡（第186図）

位置 調査区中央部のR7g8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第138・142・143・184号掘立柱建物跡と第148号土坑を掘り込み、第147号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m、短軸2.25mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は18~26cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、東壁際を除いて通っている。

竈 東壁のほぼ中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで85cmほどである。天井部や右袖部は遺存せず、左袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は被熱してわずかに赤変しており、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

##### 壁土層解説

- |        |                               |        |                           |
|--------|-------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粗粒・炭化粒・粘土粗粒・砂粒少量    | 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粗粒中量・炭化物・粘土粗粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多数・ロームブロック・粘土粗粒少量・炭化粒少量 | 4 褐色   | 粘土粗粒・砂粒多数・ロームブロック・焼土粗粒少量  |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粗粒・炭化粒・粘土粗粒・砂粒少量            | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多数                  |
| 4 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物中量・ローム粗粒少量・砂粒少量     |        |                           |

ピット 1か所。P1は深さ19cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりや連結していることなどから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

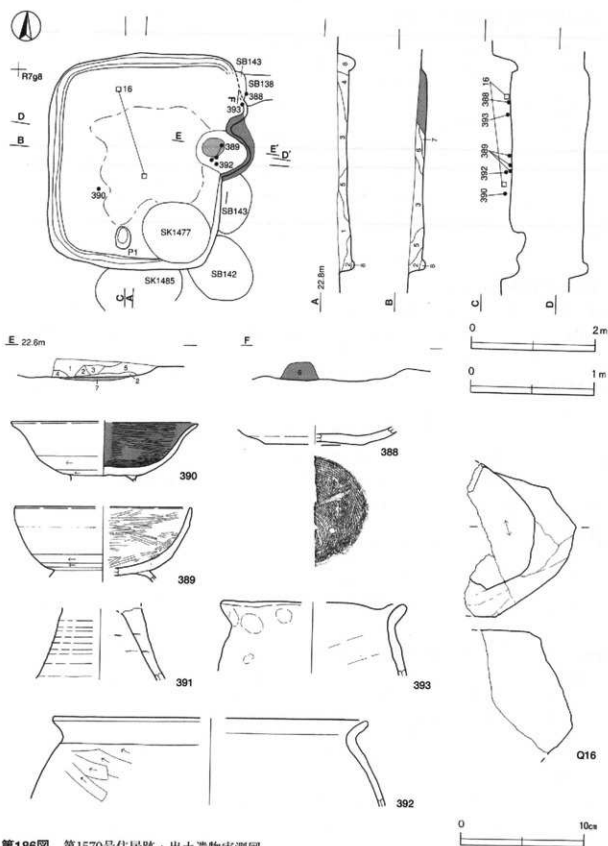
##### 土層解説

- |        |                         |        |                         |
|--------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粗粒・炭化粒少量      | 5 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化粒少量・ロームブロック微量  |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量               | 6 暗褐色  | ロームブロック中量・焼土粗粒・炭化粒・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒・砂粒少量・焼土粗粒少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粗粒・炭化粒中量・ロームブロック・砂粒少量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・炭化物少量           | 8 暗褐色  | ロームブロック中量               |

遺物出土状況 土師器片119点（杯・碗58、甕・甔61）。須恵器片50点、砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。389・391・392は室内から出土している。Q16は中央部南寄りと北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 砥石の接合例はこれまでになく、いずれも床面からの出土であることから、破損したものが住居廃絶時にそのまま遺棄されたか、意図的に破砕されたかのいずれかと考えられる。また、391のように高台の高さが

10cmほどある足高台付碗は第1310号住居跡や第755号土坑からも出土しており、その形状から日常什器とは異なる使用例がうかがわれる。時期は、土師器小皿が見られないことから、10世紀中頃と考えられる。



第186図 第1570号住居跡・出土遺物実測図

第1570号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土師器	坏	-	(1.5)	(8.0)	雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	底部斜軸糸切り	北東部床面	20%
389	土師器	碗	[14.1]	(6.0)	-	雲母・赤色・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部斜軸へう張り残、高台張り付け	遺覆土中	50%
390	土師器	碗	[15.0]	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部斜軸へう張り残り、高台張り付け	南西部下層	40%
391	土師器	碗	-	(5.6)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	脚部ロクロナデ、内面輪積み板	遺覆土中	
392	土師器	甕	[27.8]	(6.7)	-	雲母・長石	にぶい赤褐色	普通	体部外面へう張り、内面ナデ	遺覆土中	
393	土師器	甕	[14.6]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部内・外面ナデ	北東部下層	

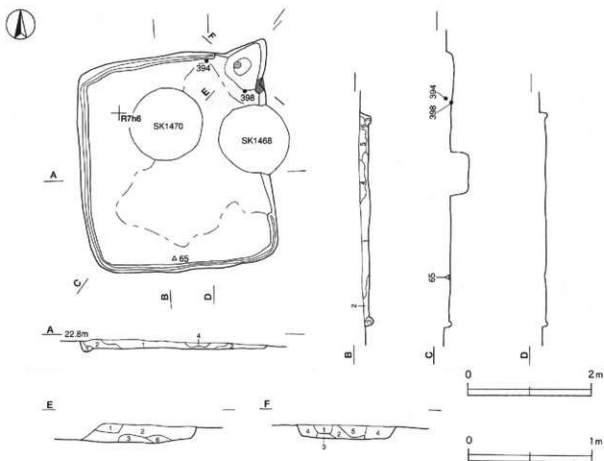
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q16	紙石	(12.3)	(8.8)	(9.9)	833.0	砂岩	紙面1面、他は自然面	中央部・北西部下層	

第1571号住居跡 (第187・188図)

位置 調査区中央部のR7h6区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1468・1470号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.00mほどの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は5~12cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。



第187図 第1571号住居跡実測図

床 はほぼ平坦で、中央部から東壁際にかけて踏み固められている。また、壁溝は東壁際を除いて巡っている。

竈 北東コーナー部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、火床部幅60cmほどである。袖部は東壁際にその痕跡をわずかに留める程度で、砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用しており、火床面が若干赤変している程度である。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

覆土層解説

- |                               |                                       |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、<br>ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     |                                       |
| 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量      | 6 灰褐色 焼土粒子・灰中量、炭化物少量                  |
| 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量     |                                       |

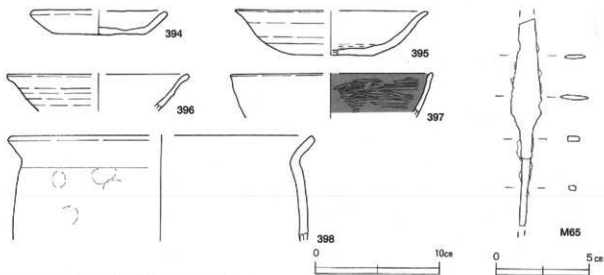
覆土 6層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量      |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量           | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |

遺物出土状況 土師器片164点（小皿1， 坏・椀23， 甕・瓶140），須恵器片16点（甕），鉄鏝1点が出土している。遺物は竈周辺と南壁寄りを中心に出土しており、394は竈手前の覆土上層，395・397は竈内，398は竈手前の床面，M65は南壁際の床面から出土している。

所見 硬化面が東壁際まで延びていることやその部分だけ壁溝が巡っていないことなどから、出入り口施設は東壁際に設けられていたことが推測される。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第188図 第1571号住居跡出土遺物実測図

第1571号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
394	土師器	小皿	[10.7]	1.9	[ 7.2]	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈手前上層	45%
395	土師器	坏	[15.0]	3.6	[ 6.6]	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈内土中	30%
396	土師器	坏	[14.4]	( 3.0)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	北東部覆土中	
397	土師器	椀	[16.0]	( 3.3)	-	雲母	にぶい黄灰	普通	体部外面ロクロナデ	竈覆土中	
398	土師器	甕	[24.0]	( 8.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ，外面指漉痕	竈手前床面	幅付者痕



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
365	竈	(110)	1.7	0.3	(110)	鉄	鎌倉部から基部にかけての破片, 台状筒, 両九造	南壁際床面	PL80

### 第1578号住居跡 (第189・190図)

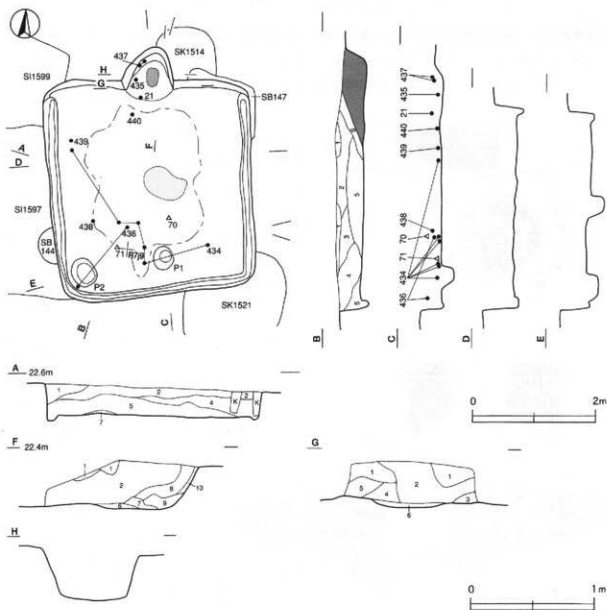
**位置** 調査区中央部のR 79区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1597・1599号住居跡と第144・147号掘立柱建物跡, 第1514・1521号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.55m, 短軸3.25mほどの方形で, 主軸方向はN-13°-Wである。壁高は36~45cmで, 各壁ともほぼ直立している。

**床** 平坦で, 壁際を除き踏み固められている。また, 壁溝が北壁際を除いて巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。壁外への掘り込みは50cmほどで, 天井部・袖部とも遺存していない。火床



第189図 第1578号住居跡実測図

部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

**覆土層解説**

- |   |        |                              |    |      |                            |
|---|--------|------------------------------|----|------|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量  | 6  | 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量     |
| 2 | 暗褐色    | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量  | 7  | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 | 灰黄褐色   | 粘土粒子多量、砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量   | 8  | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量   |
| 4 | 暗褐色    | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量       | 9  | 灰褐色  | 焼土粒子・灰中量、ローム粒子・炭化粒子少量      |
| 5 | 暗赤褐色   | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 10 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子少量    |

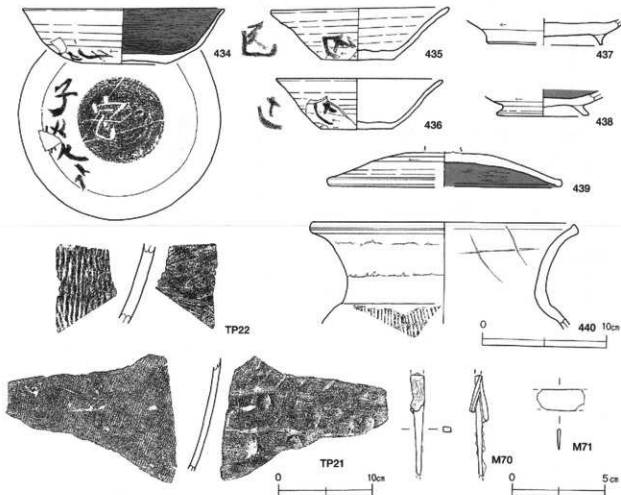
ピット 2か所。P1は深さ26cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P2は深さ20cmで、南西コーナー部に取まっていることから、貯蔵穴の可能性がある。

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

**土層解説**

- |   |     |                       |   |        |                          |
|---|-----|-----------------------|---|--------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 5 | 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量      |
| 2 | 褐色  | ローム粒子中量               | 6 | 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 | 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量    |
| 4 | 褐色  | ロームブロック中量             |   |        |                          |

遺物出土状況 土師器片293点(杯・椀57, 盤2, 壺1, 甕・瓶233), 須恵器片101点(杯・高台付杯48, 蓋2, 甕・瓶51), 鉄器1点, 刀子1点, 炭化材1点(籾)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。また、床面には焼土が薄く広がっており、遺物はその上面から出土していることから、



第190図 第1578号住居跡出土遺物実測図

焼失後に埋め戻される段階で投棄ないし混入したものと考えられる。434・436は南部の覆上下層に散在していた破片が接合したもので、435・437は壺内から出土した破片が接合したものである。また、炭化材は籾の一部で、壺内の火床部から灰とともに出土しており、燃料材の一部と考えられる。

所見 434の底部に施書きされた文字は「宅」と判読でき、当遺跡においては第1316号住居跡から出土した須恵器環に次いで2例目である。廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第1578号住居跡出土遺物観察表（第190図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色	文様	施文	手法の特徴	出土位置	備考
434	土師器	瓶	161	4.6	7.0	赤埴		にぶい	普通	体部下部・底部回転ヘラ削り	出土位置 南部下部・ 中央部下部・ 西部下部	体部外面黒子 灰」並部埋め 宅」25% PL68
435	須恵器	環	13.9	4.2	6.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通		底部不定方向のヘラ削き	覆層上中	体部外面黒子 「区」100% PL68
436	須恵器	環	13.2	4.0	5.7	雲母・長石・石英	灰黄	普通		底部回転ヘラ削り後、 方向のヘラ削り	西部下部	体部外面黒子 「区」80% PL68
437	須恵器	高台付坪	-	(2.1)	9.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通		底部回転ヘラ削り後、 高台削り付	覆層上中	30%
438	土師器	瓶	-	(2.1)	7.4	石英・赤色砂子	にぶい	普通		底部回転ヘラ削り後、 高台削り付	西部中部	20%
439	土師器	蓋	18.3	(2.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい	普通		つまみ接合後、 口クロナデ	北部下部	30%
440	須恵器	蓋	20.8	(8.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい	普通		口縁縁部に沈脚・糸、 口縁部輪積み痕	遺層表面	1層部内面黒子 100% PL69
TP21	須恵器	釜	-	-	-	雲母・長石	灰黄	普通		内面無文の当て片敷、 輪積み痕	覆層上中	
TP22	須恵器	大甕	-	-	-	長石・赤色砂子	灰黄	普通		外面平行叩き、 内面口クロナデ	北部上部	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M70	磁	(5.3)	(0.7)	0.4	(3.6)	灰	断面正方形の半部に破損した2片が付着、 分離不可	中央部中層	PL79
M71	刀子	(2.6)	1.2	0.2	(1.4)	鉄	刃部の破片	西部下部	

### 第1582号住居跡（第191図）

位置 調査区中央部のS 8a1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1546号住居跡を掘り込み、第1561号住居と第1455・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m、短軸4.15mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は6~16cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、遺の事前から出入り口施設にかけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 第1561号住居に掘り込まれたために内容は不明で、北壁際の中央部から赤変硬化した火床面だけが確認されている。火床面は北壁ラインよりも内側に位置していることから、壁外への掘り込みはそれほど長くないと推測される。

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、P1・P3・P4の深さは25~39cmである。P2は攪乱を受けているため、掘り込みの一部が確認されているだけで、本来の深さは不明である。また、P5は出入り口施設に伴うピットで、P2同様、攪乱のため本来の形状や深さは判然としない。

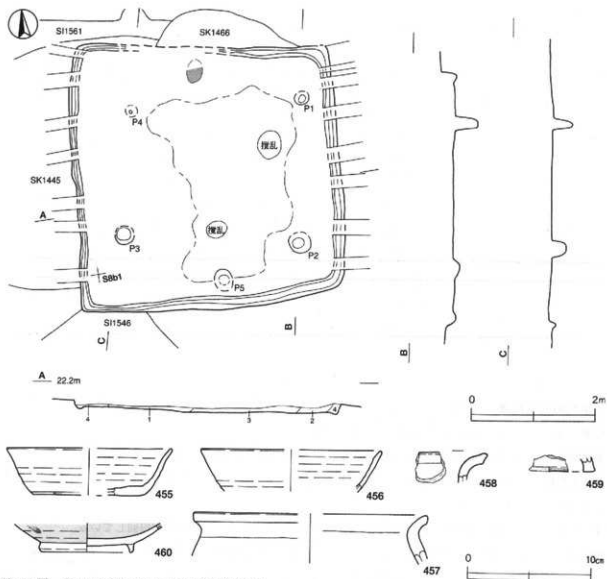
覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- |        |                       |       |           |
|--------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量             | 4 褐色  | ロームブロック多量 |

**遺物出土状況** 土師器片82点(坏25, 甕57), 須恵器片27点(坏15, 甕11, 片面硯1), 攪乱により混入した灰釉陶器片2点(碗, 壺)が出土している。遺物は重複を受けていない東壁際や南壁際から多く出土しており, そのほとんどが細片である。458・459は北東部の覆土下層から出土している。

**所見** 廃絶時期は, 重複関係や出土土器から8世紀前葉から中葉にかけてと考えられる。



第191図 第1582号住居跡・出土遺物実測図

第1582号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	須恵器	坏	[13.2]	3.8	[ 8.8]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	南西部下層	20%
456	須恵器	坏	[14.4]	( 3.3)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	底部クロナデ	南西部下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師器	甕	18.6	4.0	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	北西部下層	
458	土師器	甕	-	2.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	北東部下層	
459	須恵器	円面硯*	-	1.3	-	長石	灰黄	普通	脚部ワクラナデ	北東部下層	
460	灰種陶器	甗	-	2.3	7.1	黒色の吹き出し	灰白・良好	釉は尚毛織り、底部回転ヘラ削り後高台	貼り付け、内面に重ね焼き痕	覆土中	転用磁器製造、80%、PL57

### 第1583号住居跡（第192図）

位置 調査区中央部のR7g7区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第142・143・185号掘立柱建物跡を掘り込み、第1486号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.50mほどの長方形である。主軸方向は、竈が確認されていないため、南壁の指す方向を基準にすると、 $N-2^{\circ}-W$ と推測される。壁高は10~13cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

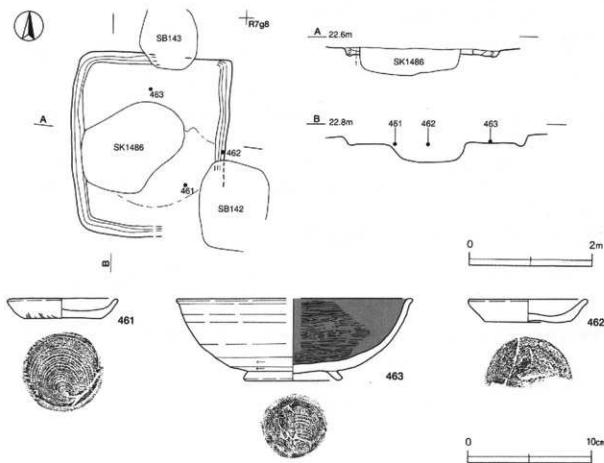
床 はほぼ平坦で、南側部分に硬化した面が認められ、壁溝が周回している。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム粒子少量



第192図 第1583号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片73点（小皿2、坏・碗23、甕・甌48）、須恵器片8点、石製支脚1点がほぼ全域から散在して出している。461は南東部の覆上下層から、463は北部の床面から出土している。

**所見** 時期は、土師器小皿が出土していることから、10世紀後半以降と考えられる。

第1583号住居跡出土遺物観察表（第192図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
461	土師器	小皿	8.6	3.8	6.0	赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外部下端に筋状の顔面、底部回転糸切り	南東部下層	100%、P1,37
462	土師器	小皿	9.3	1.8	6.8	長石・赤母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	東壁跡下層	50%
463	土師器	碗	18.5	6.5	7.4	長石・赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り後、西向き付け	北部床面	55%

### 第1584号住居跡（第193図）

**位置** 調査区中央部のR8h1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1577・1588・1601号住居跡と第140号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.85m、短軸3.35mほどの長方形で、主軸方向はN-88°-Eである。壁高は11~20cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壁溝は東壁際と西壁際で確認されている。

**竈** 東壁の南寄りに付設されている。攪乱が激しく、全体の規模や形状は不明である。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が被熱して赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- |       |                                 |        |                                |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量   | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量        |

**炉** 中央部に付設されており、地山を若干掘りくぼめた地床炉である。平面形は楕円形を呈し、被熱によって赤変硬化している。

**ピット** 6か所。支柱穴はP1~P4が相当し、深さは25~39cmである。P5は深さ15cmで、西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ13cmで、性格は不明である。

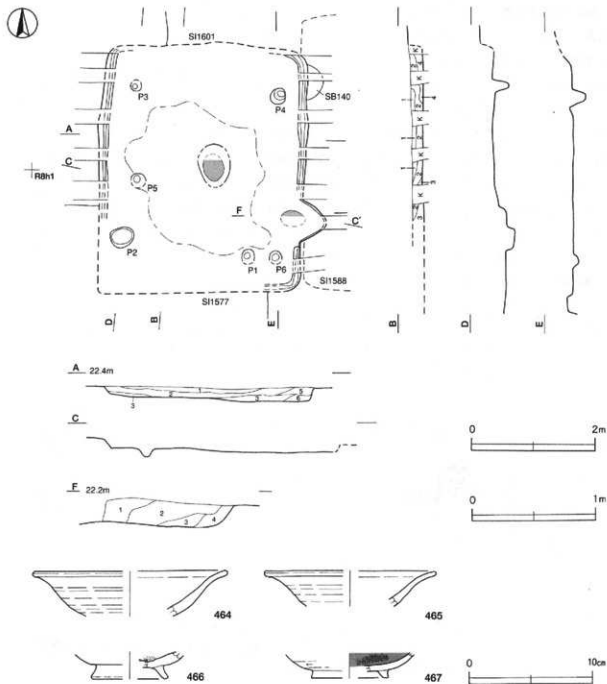
**覆土** 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 茶褐色 | ローム粒子少量             | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量             | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 茶褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 茶褐色 | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片184点（小皿2、坏・碗38、甕・甌144）、須恵器片37点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。464・466・467は、竈内から出土している。

**所見** 時期は、土師器小皿が若干認められることや碗の形状から10世紀後半と考えられる。当該期には、木住居のように、竈と炉を有する住居形態が認められるようになる。



第193図 第1584号住居跡・出土遺物実測図

第1584号住居跡出土遺物観察表 (第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
464	土師器	碗	[15.2]	[3.6]	-	雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部ロクロナテ	竈腹土中	
465	土師器	碗	[13.5]	[2.8]	-	雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部ロクロナテ	南西部竈土中	
966	土師器	碗	-	(2.2)	[6.1]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	竈腹土中	
467	土師器	碗	-	(2.0)	[6.2]	雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	底部内面二方向のヘラ磨き	竈腹土中	

第1587号住居跡 (第194・195図)

位置 調査区中央部のS7a3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第95号溝に掘り込まれている。

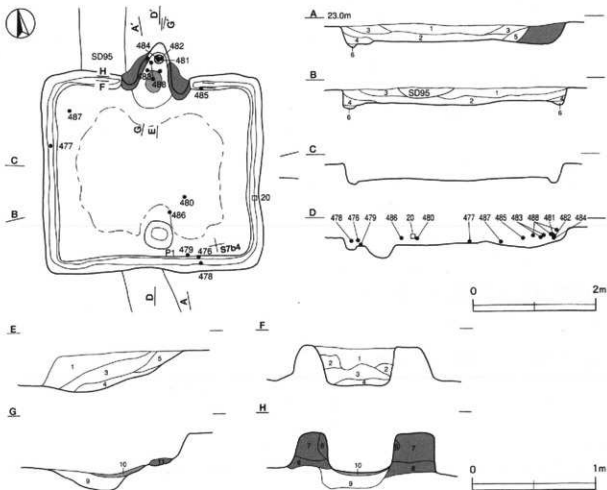
規模と形状 長軸3.45m、短軸3.30mほどの方で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は17~28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅110cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上にローム土を主体とした基部を設け、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分にローム土を充填して使用し、火床面が被熱して赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には白色粘土を基部とし、その上部に坏3点が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                               |           |                     |
|----------|-------------------------------|-----------|---------------------|
| 1 黒 褐色 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 にぶい赤褐色  | 砂粒多量、焼土粒子・粘土粒子中量    |
| 2 灰 黄 褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量        | 7 灰 黄 褐色  | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子少量   |
| 3 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量    | 8 暗 褐色    | ロームブロック多量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量              | 9 暗 褐色    | ロームブロック中量           |
| 5 暗 褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 | 10 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量  |
|          |                               | 11 灰 黄 褐色 | 白色粘土粒子多量            |



第194図 第1587号住居跡実測図



ピット 1か所。P1は深さ25cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

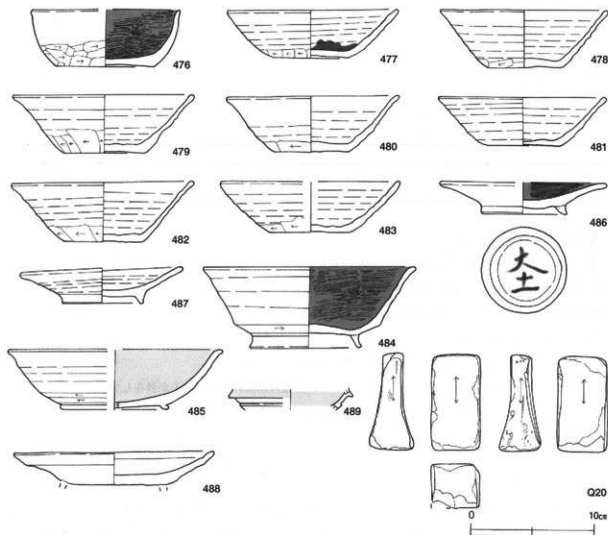
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- |        |                     |       |                        |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 4 暗褐色 | ローム粒子中量                |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量             | 6 暗褐色 | ロームブロック中量              |

遺物出土状況 土師器片217点(坏・碗35, 皿1, 甕・瓶181), 須恵器片60点(坏・高台付坏28, 皿1, 盤2, 甕・瓶28, 長頸瓶1), 灰陶陶器2点(碗, 長頸瓶), 砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、破断面の摩耗が少なく、残存率の高いものが多いことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと推定される。481・482・484は支脚として転用された須恵器坏であり、被熱痕が認められる。また、朱墨痕のある477は西壁際の床面から、猿投産と考えられる485は竈東側の覆土中層から、底部に「大土」と墨書された486は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。「大土」は当遺跡の標識文字の一つであり、灰陶陶器や朱墨痕のある土器と共に、集落の構造を考える上での好資料といえる。



第195図 第1587号住居跡出土遺物実測図

第1587号住居跡出土遺物観察表 (第195図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
476	土師器	杯	[118]	4.5	7.8	灰石・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	底部一方のヘラ割り	西壁面上部	60%, PL57
477	須恵器	杯	13.4	4.0	6.0	玄母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	底部一方のヘラ割り後、一面ナデ	西壁面上部	朱漆面 100%, PL37
478	須恵器	杯	13.4	4.6	6.0	玄母・長石・石英	灰褐色	普通	底部回転ヘラ割り後、一方のヘラ割り	西壁面上部	90%, PL57
479	須恵器	杯	14.3	4.6	6.6	玄母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ割り後、ヘラナデ	西壁面上部	80%, PL57
480	須恵器	杯	13.5	4.5	6.0	玄母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ割り後、一方のヘラ割り	中央部上部	70%
481	須恵器	杯	13.3	3.9	6.1	玄母・石英	明赤褐色	普通	底部回転ヘラ割り後、一方のヘラ割り	西火床部	黒漆面・朱漆面 30%, PL36
482	須恵器	杯	14.4	4.9	6.3	玄母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	底部一方のヘラ割り	西火床部	黒漆面・朱漆面 100%, PL28
483	須恵器	杯	[144]	4.0	6.6	玄母・長石・石英	明赤褐色	普通	底部回転ヘラ割り後、一方のヘラ割り	西火床部	黒漆面・朱漆面 40%
484	土師器	高台付杯	16.9	6.5	9.0	玄母・長石・石英・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	底部回転ヘラ割り後、高台貼り付け	西火床部	黒漆面・朱漆面 90%, PL28
485	灰緑陶器	椀	[172]	4.8	8.7	黒色砂子	灰白・灰青・灰緑	良好	底部回転ヘラ割り後、高台貼り付け、底部外面にトナシによる重ね焼き面有り	西火床中央	黒漆面 45%, PL28
486	土師器	皿	13.4	2.5	6.8	玄母・石英	にぶい赤褐色	普通	底部回転ヘラ割り後、高台貼り付け	中央部中央	黒漆面・朱漆面・大土・60%, PL70
487	須恵器	皿	12.7	2.9	6.3	玄母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ割り後、高台貼り付け	北西部下部	黒漆面・朱漆面・大土・90%, PL28
488	須恵器	盤	15.8	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ割り後、高台貼り付け・朱漆面	西火床部	黒漆面・朱漆面・大土・70%, PL28
489	須恵器	長頸瓶	-	(1.7)	-	黒色砂子	黄灰・赤褐色	良好	口縁部・口内面、底部・底面一帯	北西部下部	黒漆面・朱漆面・大土・90%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q20	灰石	7.6	4.0	3.3	(124.9)	暗灰黄	縦面4面、中央部折損、破断面厚減	東壁面上部	PL76

第1588号住居跡 (第196図)

位置 調査区北部のR 8 g2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1544・1584・1601号住居跡、第140号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 壁の立ち上がりが確認されなかったため、床面の広がりから、N-0°を主軸とする長軸4.40m、短軸3.40mほどの長方形と推定される。

床 ほほ平坦で、中央部から北側部分にかけて踏み固められている。

竈 北東コーナー部から火床面だけが確認されており、付近の床面には粘土粒子が散在している。

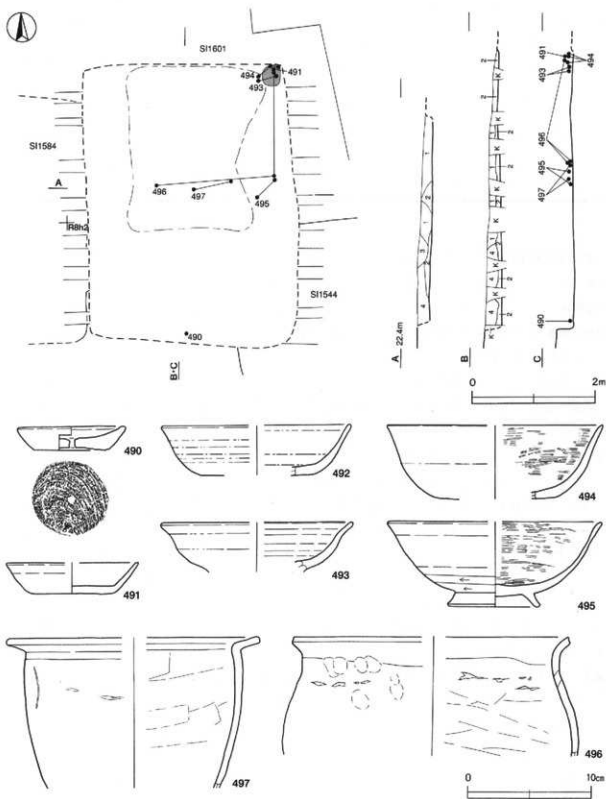
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |           |       |                               |
|-------|-----------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中層 | 3 黒褐色 | 焼土粒子中層、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子散在 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中層、焼土粒子・炭化粒子散在         |

遺物出土状況 土師器片294点(小皿2, 杯・椀61, 甕・甔231), 須恵器片18点, 鉄釘1点, 鉄洋1点が出土している。遺物は竈付近から多く出土しており、491・493・494・496が火床面直上や竈手前の床面から出土している。また、南部の床面から出土した490は底部中央が穿孔されており、紡錘車としての使用が推測される。

所見 坏類の底部を紡錘車に転用する例はしばしば見られることであるが、490のように完形の小屋を使用する例は当遺跡においては初見である。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第196図 第1588号住居跡・出土遺物実測図

第1588号住居跡出土遺物観察表 (第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色相	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
490	土師器	小皿	8.4	1.9	6.0	赤け・長石・石英	明赤陶	普通	底部回転成形	竈部床面	成塚中央竈孔
491	土師器	小皿	[10.2]	2.5	6.6	長石・石英	にぶい色	普通	成塚回転成形	竈火床部	95%, P158
492	土師器	坏	[15.0]	4.0	[4.8]	石英・長石・赤色粒子	黄	普通	底部回転成形	内西部下層	20%
493	土師器	碗	[13.2]	4.0		石英・赤色粒子	黄	普通	手捏	竈手前下層	20%
494	土師器	碗	[17.2]	6.0	9.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい色	普通	底部下層・竈部手持ち成形	竈火床部・ 竈手前下層	磁材付着・ 焼熱痕, 35%
495	土師器	碗	[17.0]	6.7	7.6	赤母・長石・石英	にぶい黄緑	普通	底部回転成形後、高台築り付け	竈部床面	35%
496	土師器	鉢	[21.8]	9.6		赤母・長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄	普通	外部ナデ・磨きみね・煎脚肌、内面 ヘラナデ・輪組み成	竈火床部・ 床面床面・ 西部下層	15%
497	土師器	鉢	[20.0]	[12.0]		赤母・長石・石英	にぶい黄	普通	外部ナデ、床状工具による磨成、内 面ヘラナデ	中央部下層	10%

## 第1589A号住居跡 (第197~199図)

位置 調査区中央部のR7街区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1612号住居跡を掘り込んでいる。また、第1589B号住居から本住居に建て替えられている。

規模と形状 長軸4.95m、短軸4.90mほどの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は17~28cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝が周回している。中央部北寄りからは0.5mほどの範囲で焼土の広がりが薄く認められ、火災に遭ったものと考えられる。なお、炭化材や焼土塊等は確認されていない。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅120cmほどで、壁外への掘り込みは50cmである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が焼熱により赤変硬化している。また、煙道は緩やかに傾斜して立ち上がった後、ほぼ直立している。

## 竈土層解説

- |                                     |                                |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 明赤陶色 焼土粒子中量、ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗赤陶色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量   |
| 2 暗赤陶色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・灰少量       | 5 暗赤陶色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相対し、深さは47~70cmである。また、P2・3からは深い掘り込みが2か所ずつ確認されている。P5は深さが34cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。なお、上層断面図中の第6~8層は貼床部の土層である。

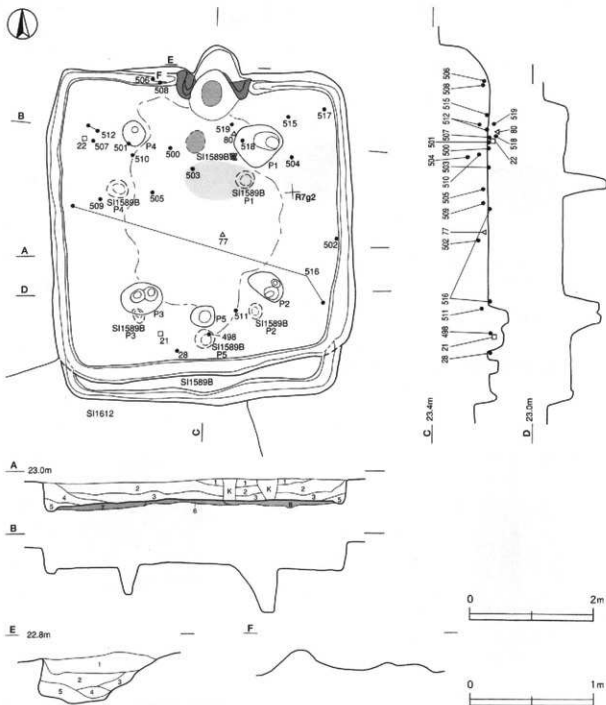
## 土層解説

- |                           |                                    |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量         |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量         |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量           |                                    |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量             |                                    |

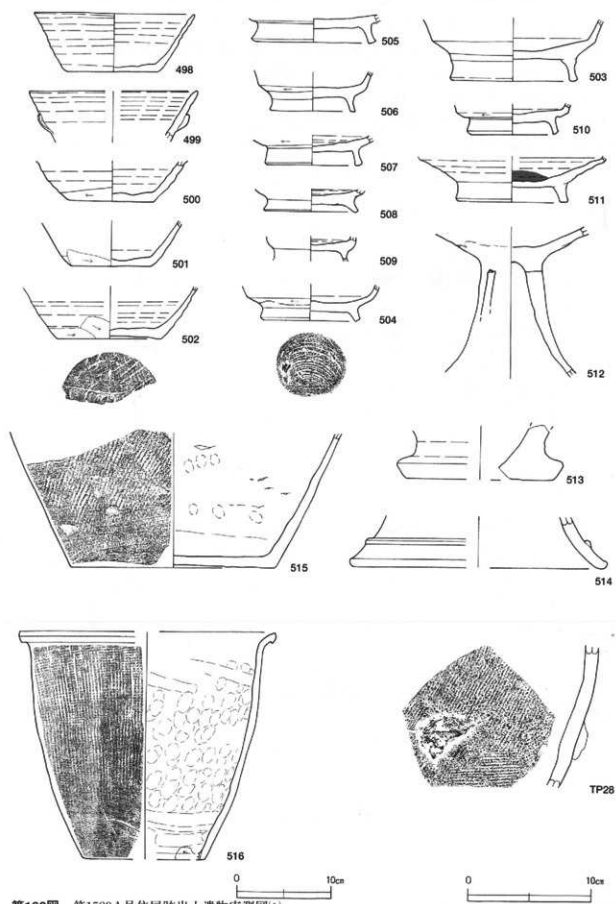
遺物出土状況 土師器片811点 (坏108, 甕・甔703), 須恵器片543点 (坏・高台付坏328, 甕・高甕19, 蓋35,

甕・瓶160, 埴鉢1), 鉄鉢2点, 不明鉄製品1点(刀子カ), 砥石2点が覆土下層を中心に出土している。出土した土器の大半は破断面の摩耗が少なく, 意図的に体部を打ち欠いた底部片が多いことや覆土下層からの出土が大半であることなどから, 住居廃絶後の窪地に投棄されたものと推測される。一方, 床面から出土したものは少なく, 図示したものではQ21・Q22だけである。漆が附着している511は南部の覆土中層から出土しており, 北西部の覆土中層から出土した510とともに底部内面が摩滅している。

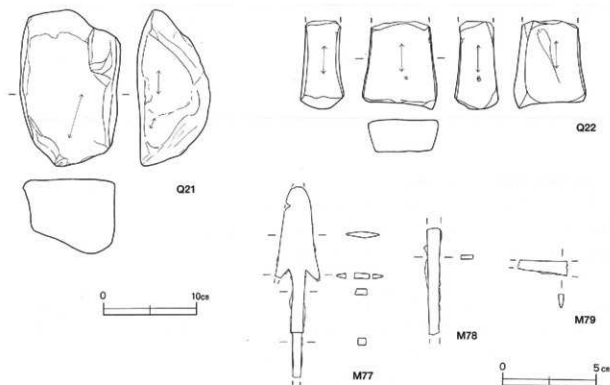
所見 覆土下層を中心に出土した須恵器坏や高台付坏の底部片は, その大半が体部を丁寧に打ち欠かれており, 廃棄に際しての意図した行為と判断することができる。投棄された時期は出土土器から9世紀前葉と判断でき, 本住居の存続時期は9世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第197図 第1589A・B号住居跡実測図



第198圖 第1589A号住居跡出土遺物実測図(1)



第199図 第1589A号住居跡出土遺物実測図(2)

第1589A号住居跡出土遺物観察表 (第198・199図)

番号	種別	器種	口径	器高	直径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	須恵器	環	12.8	4.7	7.3	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南部下層	75%, PL58
499	須恵器	環	[13.4]	-	-	長石・石英	灰	普通	肩部ヘラ削り、及耳杯の残痕±	北西部下層	30%, PL58
500	須恵器	環	-	( 3.3)	6.7	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	磁手部下層	70%
501	須恵器	環	-	( 3.7)	6.3	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北西部下層	35%
502	須恵器	環	-	( 4.2)	8.4	雲母・長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	東壁際中層	底部ヘラ書き 「+」、30%
503	須恵器	高台付環	-	( 5.1)	9.9	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部床面	底部内面厚さ30%
504	須恵器	高台付環	-	( 3.0)	7.8	長石・石英	灰	普通	底部回転未切り後、高台貼り付け	北東部上層	底部内面厚さ30%
505	須恵器	高台付環	-	( 2.3)	10.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部下層	20%
506	須恵器	高台付環	-	( 3.2)	6.9	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北壁際下層	30%
507	須恵器	高台付環	-	( 2.4)	7.8	雲母・長石・石英	にぶい黄粉	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北西部下層	30%
508	須恵器	高台付環	-	( 1.8)	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	北壁際下層	20%
509	須恵器	高台付環	-	( 2.0)	-	長石・石英	暗灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	西壁際下層	20%
510	須恵器	高台付環	-	( 2.6)	7.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	北西部中層	底部内面厚さ30%
511	須恵器	盤	-	( 3.7)	9.0	雲母・長石・石英	灰黄粉	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南部中層	縁付面厚さ30%
512	須恵器	高盤	-	(12.0)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	脚部の三方に透かし	北西部中～下層	40%
513	須恵器	捏ね鉢	-	( 4.4)	[11.8]	雲母・長石・石英	にぶい黄粉	普通	底部ヘラナデ	F1覆土中	
514	須恵器	円皿状	○	( 4.1)	[20.0]	雲母・石英	黄灰	普通	脚部に隆帯貼り付け後、ロクロナデ	覆土中	
515	須恵器	甕	-	(10.8)	16.3	長石・石英	灰	普通	体部内面ナデ・頸部裏・輪縁み取	北東部下層	30%
516	須恵器	甕	[27.4]	24.3	[13.2]	長石・石英	灰	普通	体部内面ヘラナデ・頸部裏	東・西壁際下層	40%
TP28	須恵器	大甕	-	-	-	長石・石英	黄灰	良好	外面削位の平行内面、内面無文の当て具痕	南壁際下層	

号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・地上	特 徴	出土位置	備考
Q21	紙石	16.6	10.6	7.5	1700	砂竹	紙面2面。貼は自然形	南壁際下層	PL76
Q22	紙石	4.6	3.9	1.6	504	紙灰片	紙面4面。中央部折痕	北西部床面	PL76
M77	漆	10.29	2.41	0.5	17.2	鉄	両丸造。河尻、扇状。平部の丸帯欠損	中央部下層	PL80
M78	漆	5.7	0.83	0.2	5.61	鉄	両面長方形の漆状	覆土下層	PL79
M79	漆	2.7	0.81	0.3	1.9	鉄	両面の漆片	覆土上層	

### 第1589B号住居跡 (第197・200図)

**位置** 調査区中央部のR7台地に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1612号住居跡を掘り込んでいる。また、本住居から第1589A号住居に建て替えられている。

**規模と形状** 長軸4.65m、短軸4.35mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は37~42cmで、各壁ともほぼ直立している。

**床** 第1589A号住居を構築する際に貼床が施され、その際に本住居の床面も若干掘り込まれており、詳細は不明である。また、壁溝は北壁際や南壁際から確認されており、東壁際や西壁際では第1589A号住居の壁溝と重なりながら、ほぼ全周していたと推測される。

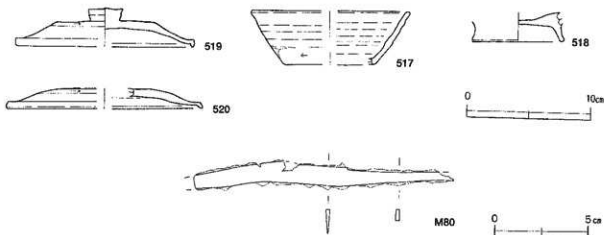
**竈** 北壁際の中央部から、赤変硬化した火床面だけが確認されている。

**ピット** 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは40~54cmである。P5は深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 確認されていない。

**遺物出土状況** 土師器片89点(坏17、甕・甌72)、須恵器片47点(坏・高台付坏29、甕6、甕・甌12)、刀子1点、鉄滓3が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、518・519は北東部の貼床を除去した際に出土している。

**所見** 本住居は第1589A号住居と規模や構造、主軸方向がほぼ同一であり、両住居間の時期差を示す土器の出土も見られないことから、建て替えが行われたものと判断できる。従って、本住居の時期は、重複関係と出土土器から9世紀前半ないしそれ以前と考えられる。



第200図 第1589B号住居跡出土遺物実測図



第1589B号住居跡出土遺物観察表 (第200回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
517	須恵器	環	12.5	4.3	7.2	雲母・長石・石英	灰	普通	腰部下端手持ちへり削り	南東部陪塚部	10%
518	須恵器	向合付外	-	2.30	7.4	雲母・長石・石英	灰黄	普通	腰部同様にへり削り後、高台削り付け	北東部陪塚部	15%
519	須恵器	蓋	11.42	3.0	-	長石・石英	灰黄	普通	天骨部同様にへり削り	北東部陪塚部	40%
520	須恵器	蓋	11.65	1.7	-	長石・石英	灰	普通	天骨部同様にへり削り	北西部陪塚部	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M80	刀子	13.0	1.3	0.2	43.23	鉄	片渡、刃先部・柄尻部欠損	北東部陪塚部	P1.78

第1591号住居跡 (第201回)

位置 調査区中央部のR7h2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1602号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.15mほどの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は22~30cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈手前から中央部にかけて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北東コーナー部に付設されており、規模は焚火部から煙道部まで90cm、袖部幅100cmほどである。袖部は床面の高さから10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻し、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は浅い皿状を呈し、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

覆土層解説

- |          |                                |           |                                |
|----------|--------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化物少量   | 7 暗赤褐色    | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量           |
| 2 暗赤褐色   | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 8 暗褐色     | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量           |
| 3 暗赤褐色   | 焼土ブロック多量、灰中量                   | 9 灰黄褐色    | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量               | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量・砂粒少量 | 11 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック中量               |
| 6 灰褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 12 黒褐色    | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量       |
|          |                                | 13 暗褐色    | ロームブロック多量                      |

ピット 4か所。P1は深さ25cmで、硬化面の広がりから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2~P4は形状から柱穴の可能性も考えられるが、位置が不揃いであり、性格は不明である。

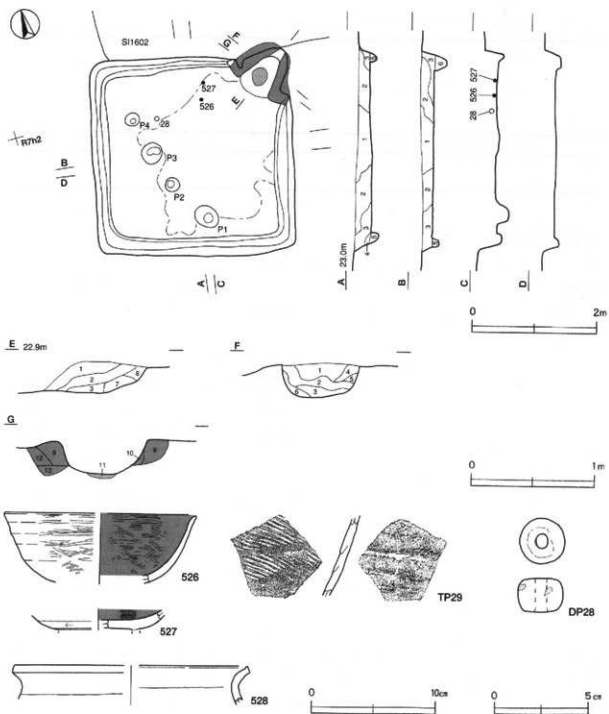
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                        |       |             |
|-------|------------------------|-------|-------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物少量   | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量   |

遺物出土状況 土師器片132点(環・碗15、甕・甔117)、須恵器片6点(甕)、土玉1点が北壁際と南壁際を中心に出土している。526・527は北壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、土師器小皿が見られないことや須恵器甕片が若干出土していることなどから、10世紀前半と考えられる。



第201図 第1591号住居跡・出土遺物実測図

第1591号住居跡出土遺物観察表 (第201図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色	裏	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
526	土師器	碗	[16.4]	( 5.5)	-	長石・赤色粒子	明赤陶	普通	普通	体部内・外周口クロナデ後、ヘラ磨き	北層部下層	産材付着10%
527	土師器	碗	-	( 1.5)	-	長石・石英	明赤陶	普通	普通	底部回転ヘラ磨き、高台磨り付け板	北層部下層	
528	土師器	甕	[18.6]	( 3.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	普通	普通	口縁部横ナデ	南西部下層	
TP29	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	不良	不良	内周口クロナデ・輪積み板	北東部上層	

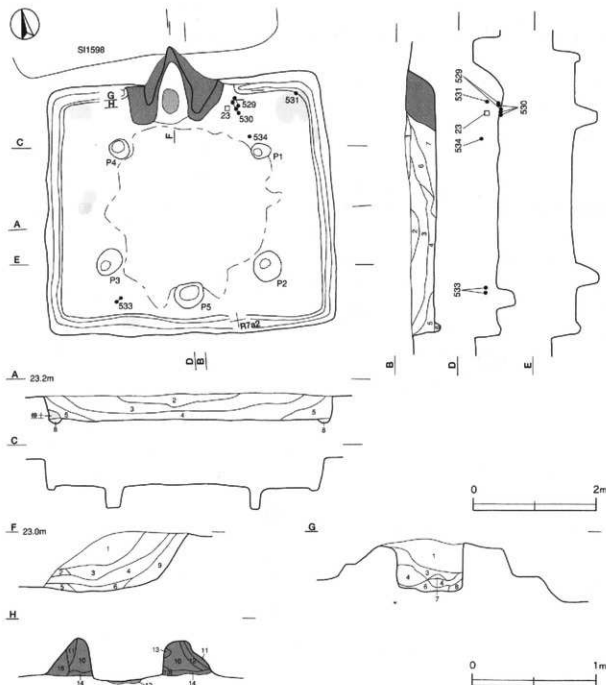
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DF28	土瓦	25	2.4	1.8	109	灰石・赤色粒子	褐色、孔径0.6cm、ナデ、孔面にわずかな平面をもつ。	北部下層	PL73

### 第1592号住居跡 (第202・203図)

位置 調査区中央部のR 7j1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1598号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m、短軸4.15mほどの方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は36~48cmで、各壁ともほぼ直立している。



第202図 第1592号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで125cm、袖幅170cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されており、両袖とも内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱により赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	8 暗 褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量
2 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量	9 暗 褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
3 灰 黄 褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック中量、炭化物少量	10 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒・炭化粒子多量、焼土粒子少量
4 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量	11 暗 褐色 粘土粒子・砂粒中量
5 灰 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量	12 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量
6 暗 赤 褐色 焼土ブロック・炭化物中量	13 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
7 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量	14 灰 黄 褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子微量
	15 暗 褐色 粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは37～38cmである。P5は深さ32cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

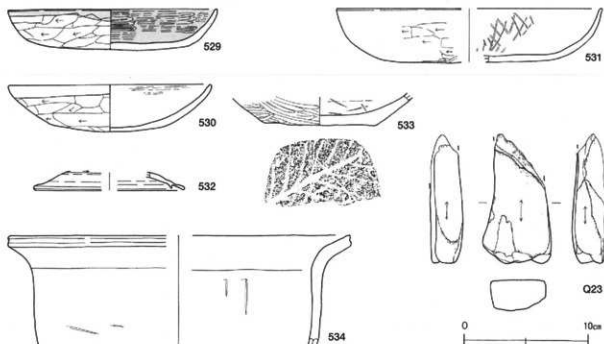
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。なお、各壁際には焼土の広がり確認されており、焼失後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 灰 褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化物少量
4 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 極暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片486点(埴46、盤3、甕・瓶437)、須恵器片42点(埴13、蓋2、甕・瓶27)、砥石1点  
が北部を中心に出土している。床面直上から出土した遺物は少なく、焼土の上層からが大半であり、本住居焼失後の窪地に投棄されたことが推測される。529・530は竈の東側の覆土下層から重なり合って出土した破片が接合したものである。また、533は南壁際の覆土中層、534は北東部の覆土中層から出土している。

所見 晩鉄時期は、出土土器から8世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第203図 第1592号住居跡出土遺物実測図

第1502号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
529	土師器	杯	16.8	3.3	-	灰石・白土・紫色粒子	明赤釉	普通	底部二方向へのヘラ削り、口縁部赤釉	竈裏側下層	83%, P1.29
530	土師器	杯	16.2	3.8	-	灰石・白土・紫色粒子	明赤釉	普通	体部内面への削き痕	竈裏側下層	60%, P1.29
531	土師器	皿	21.2	4.3	-	灰石	にびい赤釉	普通	内面椅子状への削き、外面への削り	北東部中層	10%
532	土師器	皿	12.0	1.5	-	灰石・石英	硯	普通	天寿泥河転への削り	南東部上層	10%
533	土師器	甕	-	2.2	8.0	灰石・石英	明赤釉	普通	底部内面への削り、底部本葉板	南東部中層	
534	土師器	甕	27.0	8.8	-	灰石・長石・石英	硯	普通	体部内・外面への削り	北東部中層	

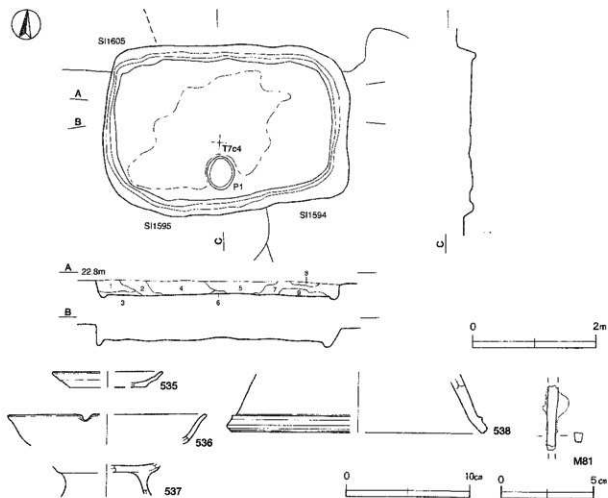
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q23	磁石	50.4	3.6	2.5	162.0	凝灰岩	底面3面、その他は自然面、中央部折損	遠東部中層	P1.76

第1593号住居跡（第204図）

位置 調査区中央部のT7b4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1594・1595・1605号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m、短軸2.70mほどの長方形で、主軸方向はN-88°-Eである。壁高は10~23cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。



第204図 第1593号住居跡・出土遺物実測図

床 はほぼ平坦で、中央部から南西部にかけて踏み固められており、壁溝が全周している。

ピット 1か所。P1は深さ4cmで、浅い皿状を呈している。南壁際の中央部に位置し、その周囲にも硬化面が広がっていることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |        |                  |        |                      |
|--------|------------------|--------|----------------------|
| 1 柿崎褐色 | ロームブロック少量        | 6 褐色   | ロームブロック中量            |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量        | 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量     |
| 3 褐色   | ローム粒子中量          | 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量     |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量        | 9 鉄錆褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 柿崎褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |        |                      |

遺物出土状況 土師器片39点（小皿1、杯・碗30、甕8）、不明鉄製品1点（鉄線カ）、混入と考えられる須恵器片27点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは5点で、537は中央部の覆土下層、538は南西部の覆土上層から出土している。

所見 本跡からは竈が確認されておらず、何らかの工房跡の可能性も示唆されるが、それを裏付ける遺物は出土していない。時期は、重複関係と出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1593号住居跡出土遺物観察表（第204図）

番号	器種	器径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
535	土師器	小皿	〔8.8〕	1.3	6.0	赤母・赤色粒子	褐色	普通	気部回転ヘラ切り	西側壁中	
536	土師器	碗	〔15.5〕	2.4	-	灰石・赤褐色粒子	褐色	普通	底部ロクロナデ、口縁部に輪状の突起	西側壁中	
537	土師器	碗	-	2.6	-	長石	褐色	普通	底部回転ヘラ削り後、高台粘り付け、底部内面無調整	中央部下層	
538	須恵器	円形甕	-	4.7	30.0	長石	黄褐色	良好	底部ロクロナデ、F面に窪凹一妻	南東部1層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M81	不明	〔3.4〕	0.6	0.5	〔2.6〕	灰	西南方形の棒状	覆土中	

第1595号住居跡（第205図）

位置 調査区中央部のT7c3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1594・1605号住居跡を掘り込み、第1593号住居と第1474号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m、短軸3.00mほどの長方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は8cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、西側部分から硬化面が確認されている。また、壁溝が周回している。

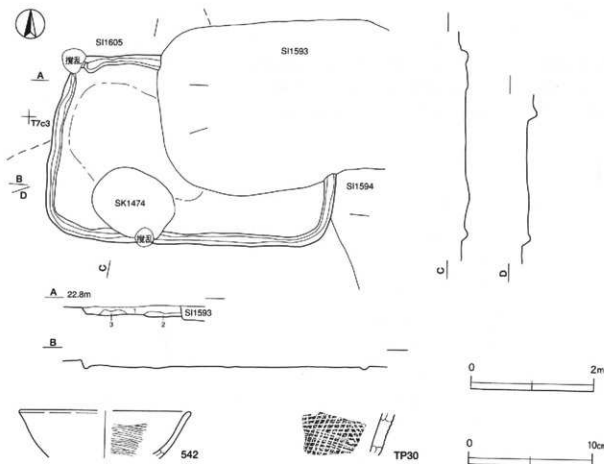
覆土 3層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                    |      |           |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量      |      |           |

遺物出土状況 土師器片24点（坏13、甕11）、須恵器片6点、縄文土器片1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。542は南西部の覆土中からの出土である。

所見 形状や硬化面の広がり、第1593号住居跡に類似している。時期は、出土土器や重複関係から10世紀代と考えられる。



第205図 第1595号住居跡・出土遺物実測図

第1595号住居跡出土遺物観察表 (第205図)

番号	類別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
542	土器器	碗	[13.6]	(3.8)	-	雲母・赤色粒子	に白い粉	普通	体部ロクロナデ、口縁端部厚減	覆土中	
TP30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤陶	普通	縦線の斜格子目文	覆土中	早期中葉

### 第1597号住居跡 (第206図)

**位置** 調査区中央部のR7i8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1599号住居跡を掘り込み、第1578号住居と第144号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は2.75mで、東西軸は第1578号住居跡に掘り込まれているために1.40mだけが確認されている。南壁の指す方向から判断して、 $N-1^{\circ}-W$ を主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は17~28cmで、各壁ともほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で、北西部の壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

**竈** 北壁際に粘土粒子が散在しており、竈材の一部が流出したものと考えられることから、その付近に竈が構築されていたと推測される。

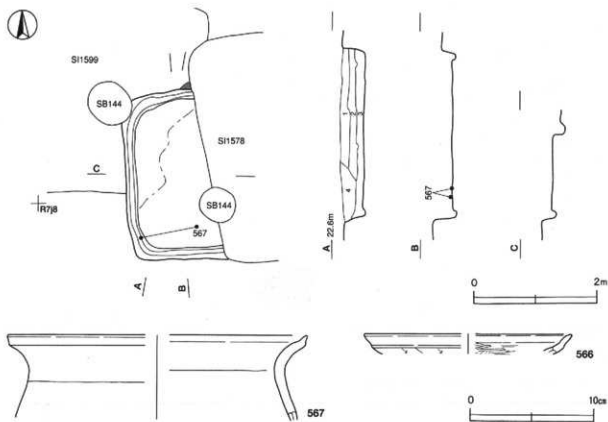
**覆土** 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。また、南壁際の覆土上層には焼土の投げ込みが認められる。

土層解説

- |        |                     |        |                        |
|--------|---------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色  | ローム粒子少量                |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量  | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片85点（坏8，盤2，甕・瓶75），須恵器片2点（坏2）が散在して出土している。566は南西部の覆土下層から、567は南西部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、重複関係と出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第206図 第1597号住居跡・出土遺物実測図

第1597号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師器	杯	[18.6]	(1.6)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へく磨き、口縁端部沈線一条	南西部下層	
567	土師器	甕	[24.0]	(6.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南部床面	

第1599号住居跡（第207図）

位置 調査区中央部のR718区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1578・1597号住居と第142・144号掘立柱建物に擁り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m，短軸3.50mほどの若干歪んだ方形で，主軸方向は南壁の指す方向を基準にするとN-3°-Eである。壁高は16～32cmで，各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，壁溝が周回している。また，南西部からは焼土塊が認められ，焼失住居の可能性も考えられるが，それ以外の場所からは確認されていない。



ピット 1か所。P1は深さ18cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりや重なることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

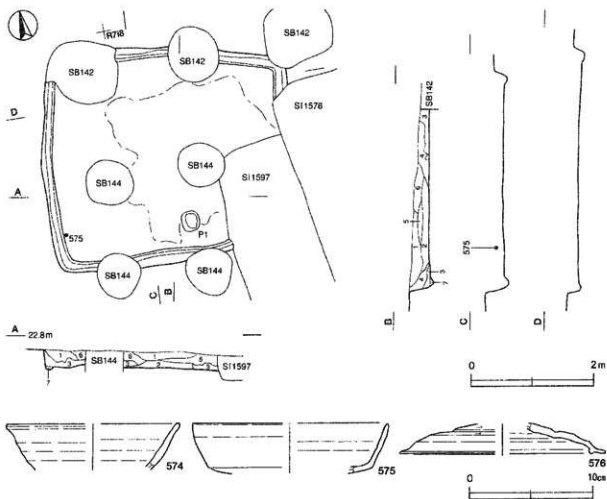
覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |                     |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少許             | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量    |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量               |       |                     |

遺物出土状況 土師器片94点(坏9、甕・甌85)、須恵器片10点(坏6、蓋1、甕・甌3)が散在して出土している。575は南西部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は、出上土器から8世紀前葉と考えられる。



第207図 第1599号住居跡・出土遺物実測図

第1599号住居跡出土遺物観察表(第207図)

番号	種類	器種	口径	底径	底径	胎土	色相	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
574	須恵器	坏	13.8	3.7	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	体部口クロナシ	北東部覆土中	10%
575	須恵器	坏	13.6	4.0	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部口クロナシ	南西部下層	10%
576	須恵器	蓋	16.6	2.4	-	長石・石英	灰白	普通	天井部凹紐ヘラ削り	北東部覆土上	10%

### 第1600号住居跡 (第208・209図)

位置 調査区中央部のS73区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1608・1617号住居跡を掘り込んでいる。

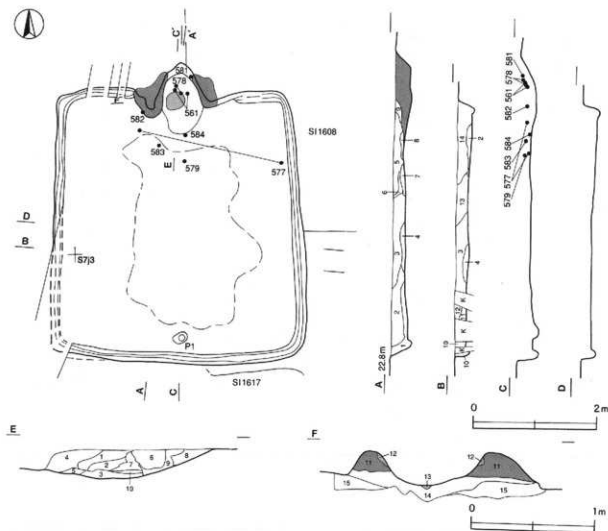
規模と形状 長軸4.40m、短軸3.95mほどの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は17~22cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入口付近から竈の手前にかけて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅135cmで、壁外への掘り込みは45cmほどである。袖部は床面から10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻して基部とし、その上部に砂質粘土を用いて構築されており、両袖部とも内側が被熱している。火床部も同様に、10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻して使用しており、火床面が赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には土師器甕が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |          |                       |          |                               |
|----------|-----------------------|----------|-------------------------------|
| 1 黒 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量  | 6 暗 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量        |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量          | 7 オリーブ黄色 | 粘土粒子・砂粒多量                     |
| 3 黒 褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒 褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 黒 褐色   | 焼土ブロック・炭化物少量          | 9 暗 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック少量            |
| 5 黒 褐色   | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量       |          |                               |



第208図 第1600号住居跡実測図

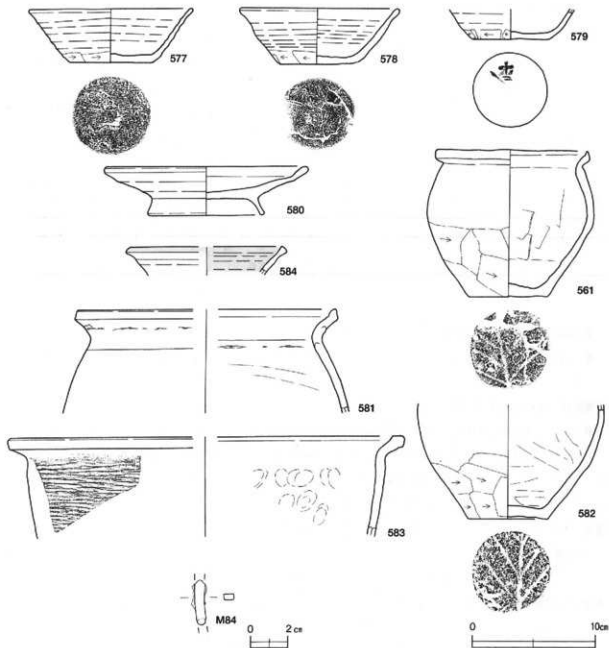
- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 10 暗 赤 褐色 焼土粒子多量             | 13 暗 赤 褐色 焼土粒子中量             |
| 11 オリーブ褐色 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量 | 14 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 12 暗 赤 褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量     | 15 褐色 ロームブロック中量              |

ピット 1か所。P 1は出入り口施設に伴うピットで、深さは12cmである。

覆土 14層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量      | 8 黒 褐色 炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量          |
| 2 黒 褐色 ロームブロック少量          | 9 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量    | 10 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 4 極暗褐色 炭化物少量、ローム粒子微量      | 11 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量          |
| 5 暗 褐色 ロームブロック少量          | 12 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量      |
| 6 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 13 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量    |
| 7 褐色 ロームブロック中量            | 14 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量  |



第209図 第1600号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片281点(坏・碗36, 甕・甌245), 須恵器片106点(坏・高台付坏45, 釜7, 盤3, 甕・鉢・甌51), 灰輪陶器片1点(瓶カ), 不明鉄製品1点が, 竈周辺を中心に出土している。561は竈の支脚に転用された土師器甕で, 煙道の立ち上がり部から逆位で出土し, 被熱痕が認められる。また, 578・581は竈内から, 579・582~584は竈手前の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。本住居のように若干縦長の平面形で, 支柱穴をもたない住居形態は, 第1355号住居など当該期にいくつか類例が見られる。

第1600号住居跡出土遺物観察表(第209図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色相	地味	手込の特徴	出土位置	備考
577	須恵器	坏	13.0	4.4	6.3	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部回転ヘラ削り残, 一方のヘラ削り	東壁外周部 電子顕微鏡	93%, PL59
578	須恵器	坏	12.3	4.5	5.8	長石・石英	褐色	普通	底部一方のヘラ削り	竈壁土中	80%
579	須恵器	坏	-	(2.5)	6.1	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部一方のヘラ削り	蓋手前下層	底部外周部 1ヶ所, 20%, PL20
580	須恵器	甕	16.0	3.9	9.4	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部回転ヘラ削り残, 高台貼り付け	覆土下層	90%, PL59
581	土師器	甕	120.4	(8.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部外面ナデ, 内面ヘラナデ, 輪縁み面	竈壁土中	
582	土師器	甕	-	(9.1)	6.4	雲母・長石・石英	明赤褐色	普通	底部外面ナデナデ, 字込ヘラ削り	蓋手前下層	30%
561	土師器	甕	12.2	11.7	6.2	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部外面ナデナデ, 下位ヘラ削り	竈火床部	2ヶ所, 20%, PL20
583	須恵器	鉢	131.2	(8.0)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	底部内面指擦痕	電子顕微鏡	
584	灰輪陶器	長頸瓶	120.1	(2.3)	-	黒色粒子	灰白・ 黄緑	良好	11線部ロクロコナテ	蓋手前下層	原産地

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M81	不明	(2.4)	0.3	0.3	(1.5)	鉄	両面長方形の棒状, 両端欠損	南東壁覆土中	

### 第1603号住居跡(第210図)

位置 調査区中央部のR60区に位置し, 平坦な台地上に立地している。なお, 北側部分は調査区域外に延びている。

重複関係 第1513号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は4.00mほどで, 南北軸は2.00mが確認されただけであり, 南壁の折す方向からN-1'-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は18~25cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平川で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝が確認された壁際を巡っている。

ビット 2か所。P1・P2は深さがそれぞれ89cm, 67cmで, 形状から支柱穴と考えられる。

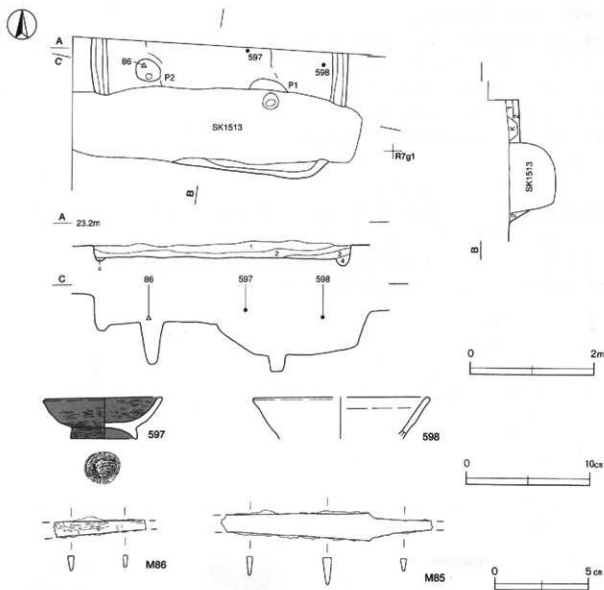
覆土 4層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                      |       |                         |
|-------|----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 緑褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量         | 4 暗褐色 | ローム粒子中量                 |

遺物出土状況 土師器片126点(坏・碗18, 甕・甌108), 須恵器片34点(坏15, 甕・甌19), 刀子2点, 不明鉄製品1点, 混入した土師器高坏片1点がほぼ全域から散在して出土している。土器片は床面から出土しているものが少なく, 597は中央部の覆土中層から, 598は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 調査できた部分が限られているため時期を判断する資料に乏しいが、598の形状や遺構の形態から9世紀と考えられる。



第210図 第1603号住居跡・出土遺物実測図

第1603号住居跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	土器	小碗	9.3	3.4	5.2	雲母	黒	普通	底部回転車切り後、高台貼り付け	中央部中層	80%、PL50
598	鉄器	杯	(13.8)	(3.3)	-	雲母・炭石	灰白	普通	腰部ロクロナデ	東壁階下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M85	刀子	(11.2)	1.4	0.5	(17.5)	鉄	刃先部・茎尻部欠損、両側	南東部覆土中	PL78
M86	刀子	(4.9)	(0.8)	0.3	(5.0)	鉄	基部の破片、木質付着	P2上面	PL78

### 第1604号住居跡（第211図）

**位置** 調査区中央部のR 8g1区に位置し、平坦な台地上に立地している。なお、北側部分は調査区域外に延びている。

**重複関係** 第1601号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東西軸は4.00mほどで、南北軸は1.00mだけが確認されており、平面形はN-1°-Wを主軸方向とする方形または長方形と想定される。壁高は58cmほどで、壁は直立している。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が巡っている。

**ピット** 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは16cmである。

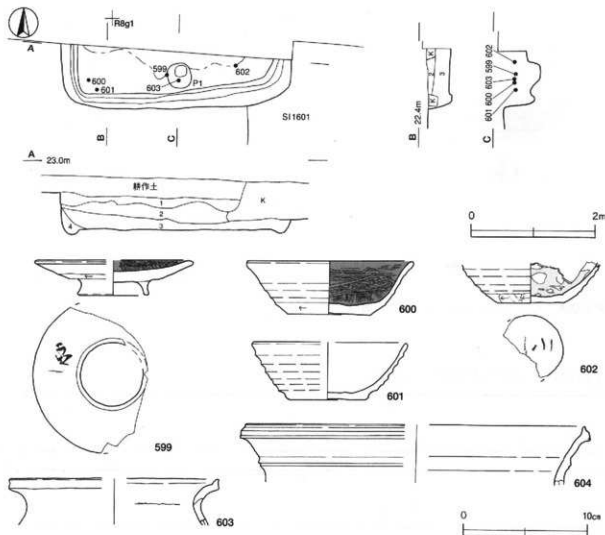
**覆土** 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック多量               |

**遺物出土状況** 土師器片85点（皿1、坏・碗21、甕63）、須恵器片21点（坏13、甕・瓶8）が散在して出土している。600・601は南西コーナー部の覆土中層から、599・603は南壁際の覆土中層から出土している。また、南東部の覆土下層から出土した602の底部内面には朱墨痕が認められる。

**所見** 廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第211図 第1604号住居跡・出土遺物実測図

第1604号住居跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
399	土師器	皿	[122]	2.8	4.4	石英	にぶい黄褐色	普通	底部回転へう割り後、高台盛り付け	南壁際中層	体部外面黒書 □□, 50%, PL60
600	土師器	杯	13.2	4.3	6.5	雲母・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下端・底部回転へう割り	南西部中層	80%, PL50
601	須恵器	杯	[120]	4.7	6.2	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転へう割り後、一方向のへう割り	南西部中層	40%
602	須恵器	杯	-	[ 31]	[ 5.2]	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転へう割り後、一方向のへう割り	南東部中層	体部外面黒書 「川」内面朱 筆痕10%, PL60
603	土師器	壺	[166]	[ 3.2]	-	雲母・長石・石英	黄	普通	口縁部横ナデ、輪積み痕	南壁際中層	
604	須恵器	壺	[270]	[ 4.6]	-	黒色粒子	黄灰	良好	口縁部クロコナデ、頸部に隆帯一条	覆土上層	瀬西産

第1606号住居跡 (第212図)

位置 調査区中央部のT7c2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-2°-Wを主軸方向とする長軸4.60m、短軸4.10mほどの方形と推定される。

床 中央部にわずかに硬化面が認められるだけであり、詳細は不明である。

竈 北壁中央部に砂質粘土を用いて構築されている。右袖部と火床部の一部が確認されており、火床面は被熱し、赤変硬化している。

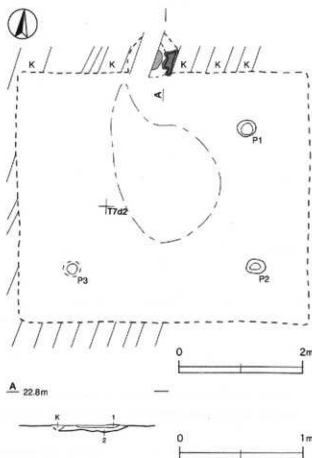
竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

ピット 3か所。P1～P3は深さが5～11cmでいずれも浅いが、位置から主柱穴の可能性はある。4本主柱を想定した場合の北西部のピットは、捜索を受けているために不明である。

遺物出土状況 土師器片23点(杯・碗10, 壺・飯13)、須恵器片4点(杯)が散在して出土している。

所見 形状をうかがい知ることのできる土器が出土していないため時期の特定は困難であるが、須恵器杯と土師器碗が共伴していることから見て、9世紀後半ないし10世紀前半に廃絶したと考えられる。



第212図 第1606号住居跡実測図

### 第1607号住居跡（第213図）

**位置** 調査区中央部のT7a2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

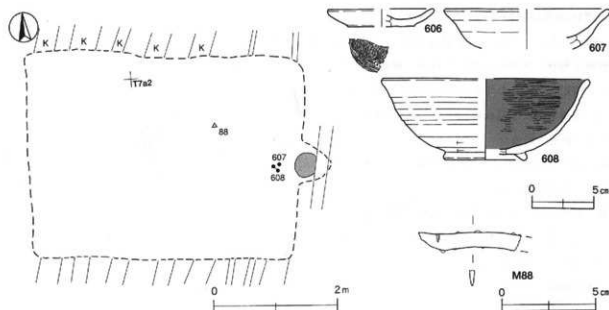
**規模と形状** 床面が露出した状態で確認されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-93°-Eを主軸方向とする長軸4.45m、短軸3.25mほどの長方形と推定される。

**床** 硬化面は耕作等により削平されたと考えられ、詳細は不明である。

**竈** 東壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面の一部が確認されただけであり、竈材等も不明である。

**遺物出土状況** 土師器片33点（小皿2、環・碗8、甕・瓶23）、刀子1点が竈付近を中心に出土している。607・608はいずれも竈手前の床面から出土したものである。また、M88は中央部東寄りの床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器や東竈を有する住居形態から10世紀後半以降と考えられる。



第213図 第1607号住居跡出土遺物実測図

### 第1607号住居跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
606	土師器	小皿	[ 8.0]	1.4	[ 5.2]	石英・赤色粒土	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	20%
607	土師器	環	[13.2]	[ 3.2]	-	石英・赤色粒土	にぶい橙	普通	底部ロタロナデ	竈手前床面	20%
608	土師器	碗	[16.6]	6.4	6.8	雲母・黒石・赤色粒土	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈手前床面	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M88	刀子	( 5.6)	1.0	0.3	( 5.2)	鉄	刃部の縦行、刃先部に繊維質付着、刃部はわずかに彎曲する	中央部床面	PL78

### 第1608号住居跡（第214・215図）

**位置** 調査区中央部のS7i4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1618号住居跡を掘り込み、第1600号住居に掘り込まれている。



**規模と形状** 長軸6.20m、短軸5.80mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は28~33cmで、各壁ともほぼ直立している。

**床** ほぼ平出で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。また、東壁際から焼上の広がり確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅150cmほどである。袖部は床面から20cmほど風状に掘りくぼめた部分に、砂質粘土を用いて構築されている。火床面は、袖部を構築した後に床面の高さまでローム土を埋め戻して使用しており、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾した後、ほぼ直立している。また、煙道の奥壁や袖部の外側の壁にも砂質粘土が貼られており、防火・防熱的な役割をしていたことが推測される。

#### 覆土層解説

1	オリブ褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物少量	11	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	12	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	13	オリブ褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
4	黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	14	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
5	オリブ褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	15	オリブ褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量
6	黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量	16	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	17	黒褐色	焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	18	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量
9	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	19	オリブ褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量
10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	20	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量
			21	オリブ褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化物少量
			22	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量

**ピット** 9か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは60~76cmである。P5・P6は出入り口施設に伴うピットで、深さはそれぞれ35cm、26cmである。また、P7~P9は南部の硬化面下から確認されており、深さはそれぞれ73cm、55cm、36cmで、位置と形状からP7・P8は主柱穴、P9は出入り口施設に伴うピットと判断できる。さらに、P1から深い掘り込み2か所が確認されており、P7・P8が硬化面下から確認されたことと合わせて、拡張に伴う建て替えが行われたものと推測される。

#### P8土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	3	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック微量

**覆土** 20層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。また、東壁際の床面から焼上の広がりが確認されており、焼失後に埋め戻されたことが推測される。

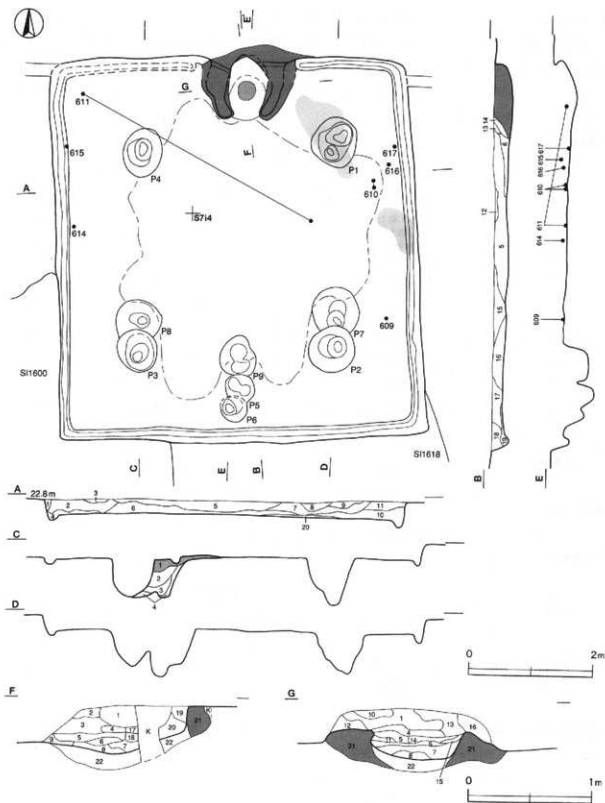
#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	11	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	焼土粒子・炭化物少量	12	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	13	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	14	暗褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化物少量
5	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	15	黒褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	16	黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量
7	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック少量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
9	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	19	暗赤褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
10	黒褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	20	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量

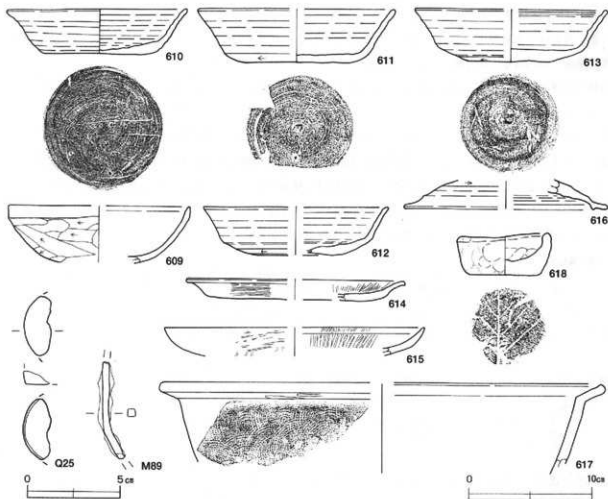
**遺物出土状況** 上部器片1225点（坏159、皿2、甕・甔1063、手柄1）、須恵器片129点（坏67、蓋23、盤1、甕・鉢・甔38）、石製紡錘車1点、不明鉄製品1点（釘カ）、支脚1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、破断面の摩滅が少ないことや、大半が焼土の上面から出土していることなどから、本住居の焼失後に埋め戻される段階で投棄されたものと推測される。609・616・617は東壁寄りの覆土F層から出土している。611は北西コーナー部と中央部東寄りの覆土F層から出土した破片が接合したものである。また、618はP2内

から、M89は床下から出土している。

所見 鉄製品が床下から、手捏土器がP2内から出土しており、それぞれ住居構築時、住居廃絶時の意図的な行為とみることもできる。廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第214図 第1608号住居跡実測図



第215図 第1608号住居跡出土遺物実測図

第1608号住居跡出土遺物観察表 (第215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
609	土師器	環	[14.6]	( 4.6)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部内面ナデ	東部床面	25%
610	須恵器	環	14.2	3.6	8.8	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部不定方向のヘラ削り	東部床面	底部外面寛骨 「-」.60%
611	須恵器	環	[15.4]	4.3	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北西部・ 中央部下層	40%
612	須恵器	環	[14.6]	3.9	[ 6.0]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	P 6 覆土中	40%
613	須恵器	環	[15.2]	4.2	7.0	雲母・長石・石英	暗灰青	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	40%
614	土師器	皿	[17.2]	1.7	[14.4]	雲母・長石・赤色粒子	明赤陶	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラ磨き	西壁階下層	15%
615	土師器	皿	[20.6]	( 2.3)	-	雲母・長石	にぶい赤陶	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラ磨き	西壁階中層	
616	須恵器	蓋	[16.2]	( 2.3)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	刃舟部回転ヘラ削り	東部下層	20%
617	須恵器	鉢*	[35.0]	( 7.1)	-	雲母・長石・石英	暗灰	普通	体部内面ナデ	東部下層	
618	土師器	手捏	7.0	3.4	5.7	雲母・赤色粒子	灰黄陶	普通	体部ナデ, 指摺面, 輪縁み肌	P 2 覆土中	80%, PL71

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	結繩車	( 3.2)	( 1.5)	( 0.7)	( 3.7)	粘板岩	孔面の一部残存, 孔不明	西部下層	
M89	釘*	( 5.1)	0.4	0.4	( 5.0)	鉄	断面方形の棒状, 中位で屈曲し, ややねじれる	北西部下層	

### 第1615号住居跡 (第216・217図)

位置 調査区中央部のS614区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1524号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.05m、短軸3.00mほどの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は18~25cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、出入り口付近から竈の手前かけて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅105cmほどである。袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されており、両袖とも内側が被熱している。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が若干赤変している。また、煙道の立ち上がり部には土製支脚が据えられており、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

#### 覆土層解説

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子少量   | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒中量        |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量    | 6 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量           |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 | 7 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック中量       |
| 4 黒暗褐色 炭化物多量、焼土粒子中量       | 8 黒暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |

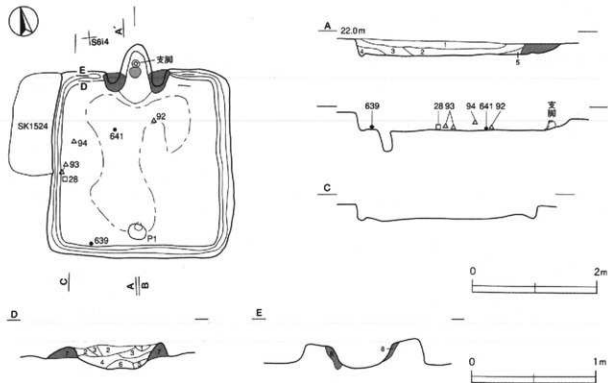
ピット 1か所。P1は深さ38cmの出入り口施設に伴うピットで、壁際から中央部に向かって斜めに掘り込まれている。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量         |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量             |                           |

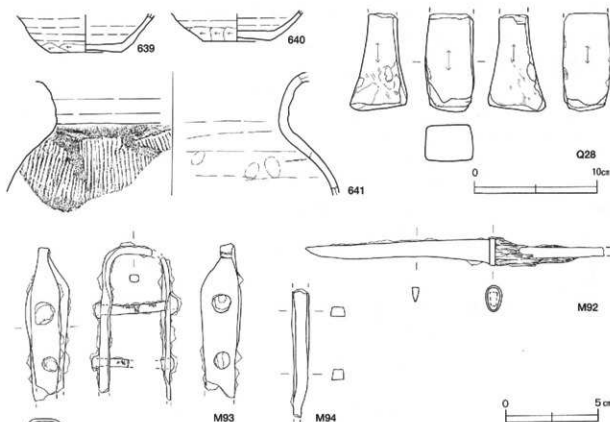
遺物出土状況 土師器片163点(坏・椀36, 甕・瓶127), 須恵器片30点(坏13, 甕・瓶17), 土製支脚1点, 刀子1点, 鍔金具1点, 釘カ1点, 砥石1点が出土している。遺物は西側部分から多く出土しており, M93は西



第216図 第1615号住居跡実測図

壁際の床面から出土している。M92は中央部の床面から、刃先部を北に向けた横位の状態で出土している。また、640は竈内から出土している。

所見 馬具の出土は、第1253号住居跡や第36号井戸跡から馬骨が出土していることと併せて、農耕や献納などに重宝される馬の飼育を裏付けるものといえる。廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第217図 第1615号住居跡出土遺物実測図

第1615号住居跡出土遺物観察表 (第217図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
639	須恵器	坏	-	(3.0)	5.8	雲母・長石・石英	にない蜀	不良	底部→方向のヘラ割り	南壁際下層	30%
640	須恵器	坏	-	(2.4)	5.4	雲母・長石・石英	細灰黄褐色	普通	底部斜転ヘラ切り後、一方向のヘラ割り	竈壁土中	30%
641	須恵器	壺	-	(9.8)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	体部内面ヘラナダ、磨面	中央部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q28	砥石	(7.8)	3.9	4.6	(17.9)	凝灰岩	砥面4面、中央部両粗		西部下層	PL77
M92	刀子	(15.9)	1.4	1.0	(17.4)	鉄	鋼塊存、基部木質付着		中央部床面	PL78
M93	鍔金具	(8.2)	4.7	2.3	(41.4)	鉄	釘に木質付着、鍔の吊手部分の留め金具		西壁跡床面	PL82
M94	釘*	(6.9)	0.8	0.6	(14.5)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る		西部下層	PL81

### 第1617号住居跡 (第218・219図)

位置 調査区中央部のS7j3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1609・1618号住居跡を掘り込み、第1600号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.50m, 短軸4.10mほどのほぼ方形で, 主軸方向はN-2°-Eである。壁高は10~17cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, ピットの内側が踏み固められており, 壁溝が周回している。また, 南壁際の中央部にはU字状に巡る高まりが認められ, 上面が硬化している。

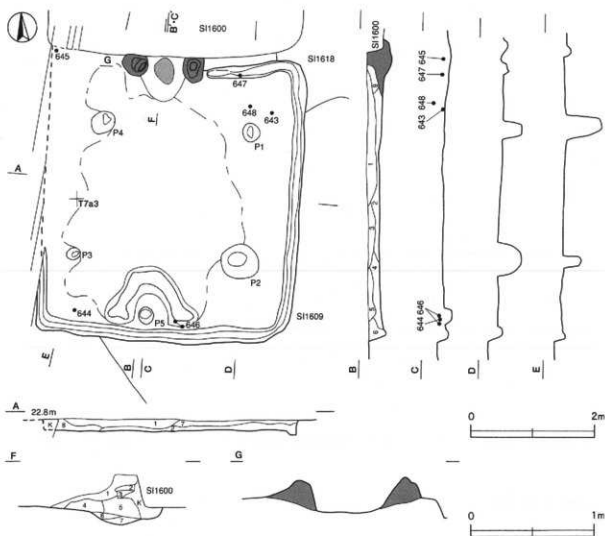
**竈** 北壁中央部に付設されており, 袖部幅130cmである。袖部は, 床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。また, 火床部は皿状に掘りくぼめられた地山面を使用しており, 火床面が被熱によって赤変硬化している。煙道部は, 第1600号住居に掘り込まれているために不明である。

**覆土層解説**

- |                             |                   |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量 | 5 黄灰色 焼土ブロック少量    |
| 2 暗灰黄色 粘土粒子・砂粒多量            | 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子中量     | 7 暗赤褐色 焼土粒子少量     |
| 4 黒褐色 炭化粒子中量                |                   |

**ピット** 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し, 深さはP4だけが59cmと深く, その他は27~36cmである。P5は深さ14cmで, その周囲にはU字状に巡る床面の高まりが確認されており, 出入り口に伴う施設の一部と判断できる。

**覆土** 9層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。



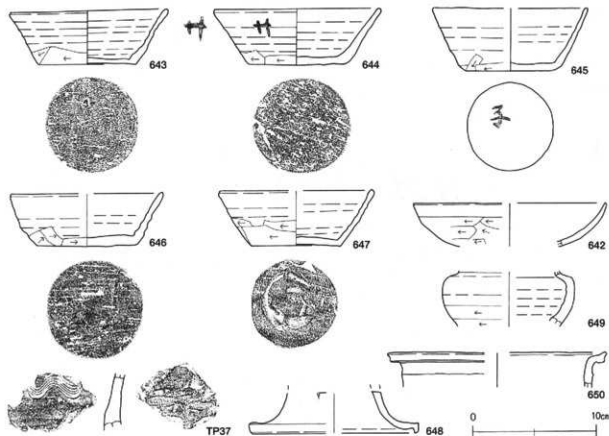
第218図 第1617号住居跡実測図

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	5 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
2 黒 褐 色	炭化物中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量	6 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	7 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
4 極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8 極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
		9 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片335点(坏33, 甕・瓶302), 須恵器片127点(坏・高台付坏85, 蓋4, 盤・高盤6, 甕・瓶31, 短頸壺1), 鉄滓1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, その大半が土師器甕類の細片である。647は竈東側の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。また, 643は北東部の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第219図 第1617号住居跡出土遺物実測図

第1617号住居跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
642	土師器	坏	[16.4]	(3.4)	-	雲母・長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部・外側内面横ナデ	P2覆土中	10%
643	須恵器	坏	125	4.4	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方のヘラ削り	北東部床面	80%, PL59
644	須恵器	坏	132	4.6	7.7	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 一方のヘラ削り	南西部下層	外側外面横書 [字], 80%, PL69
645	須恵器	坏	[12.4]	5.1	6.9	雲母・長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	北西部下層	外側外面横書 [字], 50%, PL66
646	須恵器	坏	[12.2]	4.2	8.0	長石・石英	灰	普通	底部一方のヘラ削り	南西部床面	60%

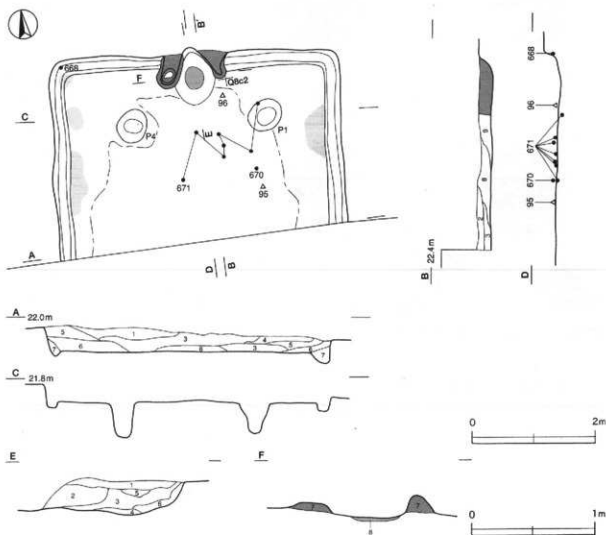
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手注の特長	出土位置	備考
647	須恵器	環	[122]	4.4	7.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	龍峯燗床面	50%
648	須恵器	高盤	-	( 3.1)	[132]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部ロクロナデ、透かし孔ヘラ削り	北東部上層	
649	須恵器	短蓋壺	-	( 4.5)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部上半ロクロナデ、下半回転ヘラ削り	北東部下層	10%
650	土師器	甕	[172]	( 2.9)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部機ナデ	床面	
TP37	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石	黄灰	普通	薬師髷青波状文	北東部上層	

### 第1621号住居跡 (第220・221図)

**位置** 調査区北部のQ 8c1区に位置し、平坦な台地上に立地している。なお、南半部分は調査区域外に延びている。

**規模と形状** 東西軸は4.60mほどで、南北軸は3.20mだけが確認されており、N-8°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は12~28cmで、各壁ともほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周囲している。また、壁際から焼土の広がりも確認されている。



第220図 第1621号住居跡実測図



**竈** 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖幅130cmほどである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。西袖部の中央には床面の高さまで掘り込まれたピットが確認されており、袖部の芯材として窰等を据えておいた痕跡とも考えられる。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、被熱し、赤変硬化している。また、煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |        |                                 |          |                                   |
|--------|---------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量   | 6 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量    |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量                | 8 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量                 |          |                                   |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |          |                                   |

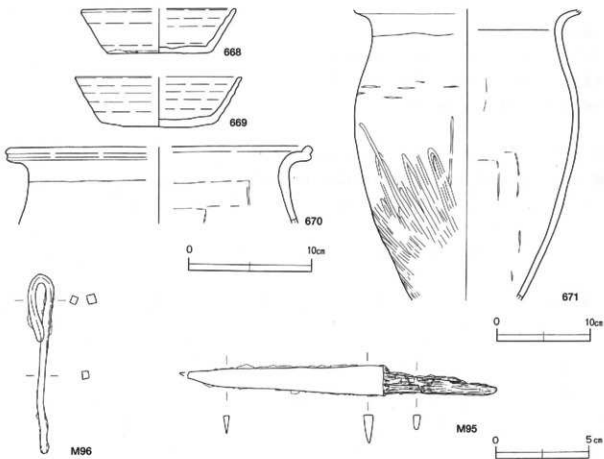
**ピット** 2か所。P1・P4は主柱穴で、深さはそれぞれ48cm、57cmである。

**覆土** 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。壁際の床面には焼土が広がっており、焼失後に埋め戻されたものと推測される。

**土層解説**

- |       |                         |        |                       |
|-------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量      | 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量  |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量      | 7 暗褐色  | ロームブロック中量             |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色  | ロームブロック中量、砂粒少量        |
|       |                         | 9 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量 |

**遺物出土状況** 土師器片83点(坏10, 甕・瓶73), 須恵器片14点(坏11, 蓋1, 瓶1, 甕1), 刀子1点, 鍵カ



第221図 第1621号住居跡出土遺物実測図

1点が出土している。遺物は竈手前から北東部にかけて多く出土しており、670は北東部の覆土下層から、671は北東部の床面や覆土下層、P1の覆土中から出土した破片が接合したものである。また、668は竈内と北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。なお、焼土は断面を認るようには確認されていないが、炭化材等は確認されていない。

所見 焼絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

#### 第1621号住居跡出土遺物観察表 (第221図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
668	須恵器	鉢	112	35	80	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底縁 方向のヘラ削り	竈内土中・北西部下層	40%
669	須恵器	鉢	113	40	86	雲母・長石・石英	灰白	普通	底縁 方向のヘラ削り	北東部下層	30%
670	土師器	甕	240	(61)	-	雲母・長石・石英	にぶい	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	北東部下層	
671	土師器	甕	310	-	-	雲母・長石・石英	にぶい	普通	体部外面上下ヘラナデ、下平ヘラ削り、内面ヘラナデ	中央部床面・下層・P1敷土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M95	刀子	16.4	1.6	0.5	(21.0)	鉄	両端、基部に木質付着	東部床面	PL78
M96	不明	9.5	1.4	0.5	9.9	鉄	両端方形の棒状、一端を折り返す	竈手前床面	PL82

#### 第1622号住居跡 (第222・223図)

位置 調査区西部のT6a4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1623号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.85m、短軸4.70mほどの方形で、主軸方向はN-17°Eである。壁高は22~38cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅160cmほどである。煙道部付近に天井部の一部が残存しており、厚さは最大で16cmほどある。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム上を床面の高さまで埋め戻して使用しており、火床面が焼熟して赤変硬化している。また、煙道は円筒状を呈し、外傾して緩やかに立ち上がっており、径は8~10cmほどである。

#### 埋土層解説

- |        |                                  |           |                                |
|--------|----------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物散見 | 7 緑褐色     | 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量   |
| 2 灰褐色  | 粘土粒子多量、砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 灰黄褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量   |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・灰少量         | 9 にぶい黄褐色  | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量            |
| 4 灰褐色  | 灰多量、粘土粒子・炭化粒子少量                  | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量       |
| 5 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土ブロック少量       | 11 暗赤褐色   | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量    |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量      | 12 暗褐色    | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さはP1・P3が37cm、43cm、P2・P4が19cm、20cmとばらつ

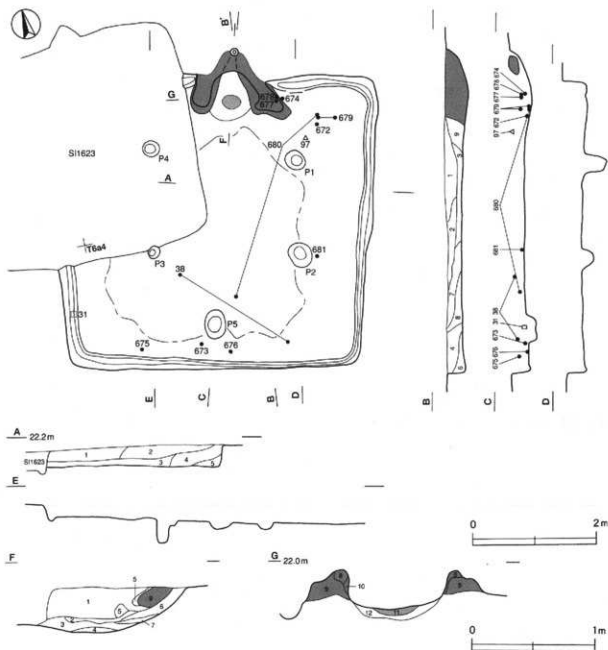
きがある。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ15cmである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                           |       |                                 |
|-------|---------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量        | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量                |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量            |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量     | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量                |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量     | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量                 |       |                                 |

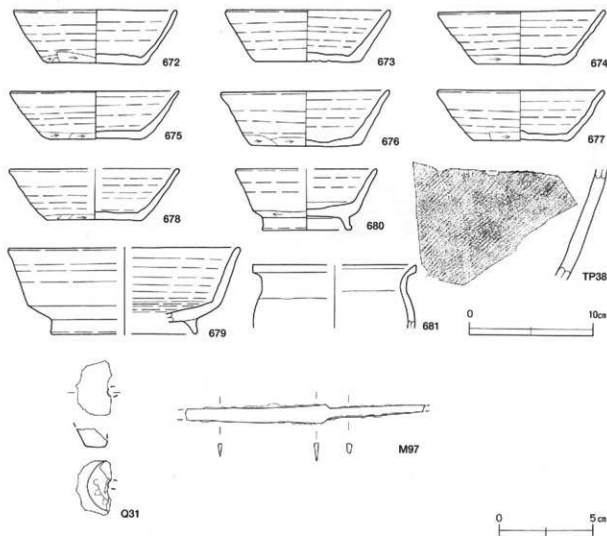
遺物出土状況 土師器片255点(坏40、甕・瓶215)、須恵器片130点(坏・高台付坏92、蓋3、甕・瓶35)、石製紡錘車1点、刀子1点が出土している。遺物は壁際から多く出土しており、673・676は南壁際の床面、675は南壁際の覆土中層から出土している。また、北東コーナー部の床面からは672・679・680、竈の右袖脇の床



第222図 第1622号住居跡実測図

面からは674・677・678が重なって出土しており、こうした出土状況からこれらの土器は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M97は北東部の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。当該期には、石製や土製の紡錘車が古墳時代に続いて使用されている。



第223図 第1622号住居跡出土遺物実測図

第1622号住居跡出土遺物観察表 (第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
672	須恵器	坏	13.0	4.3	7.8	長石・石英	黄灰	普通	底部二方向のヘラ削り	北東部床面	90%, PL59
673	須恵器	坏	13.0	4.1	8.1	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	南壁際床面	95%
674	須恵器	坏	13.4	4.4	7.0	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	庭裏側下層	85%, PL59
675	須恵器	坏	13.5	3.9	7.6	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南壁際中層	90%, PL60
676	須恵器	坏	13.5	4.5	8.8	雲母・長石・石英	灰黄陶	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際床面	85%, PL60
677	須恵器	坏	13.3	4.1	7.6	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	庭裏側下層	80%
678	須恵器	坏	[13.6]	4.1	7.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	庭裏側下層	45%
679	須恵器	高台付坏	[18.4]	7.0	[11.6]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台取り付け	北東部床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
680	風忠器	高台付杯	[11.0]	4.9	7.0	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ張り焼、高台貼り付け	中央部下層・ 北東部床面	70%
681	土師器	小形甕	[13.0]	[5.0]	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部ナデ	東部床面	
TP38	風忠器	大甕	-	-	-	長石	灰	普通	外面斜位の平行引き、内面ロクロナデ	南東部・ 中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	紡錘車	(2.9)	(1.9)	(1.0)	(5.2)	粘板岩	孔面と側面の一部残存、孔径不明	南西部下層	
M97	刀子	(12.8)	1.0	0.3	(8.1)	鉄	刃先端・茎根部欠損、両側	北東部上層	PL78

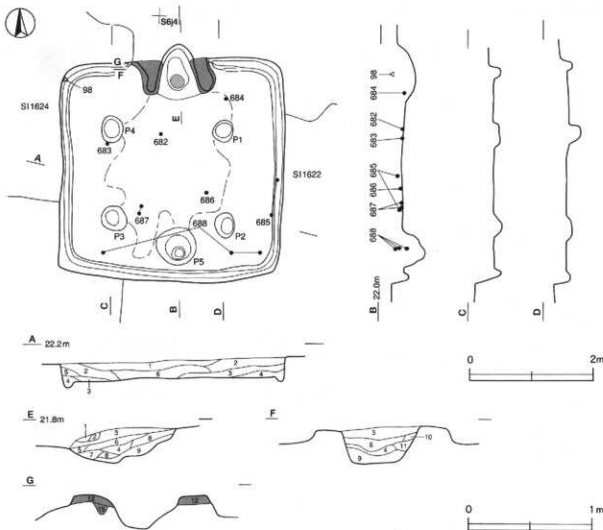
### 第1623号住居跡 (第224・225図)

位置 調査区西部のS6j4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1622・1624号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺が3.60mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は22~30cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲にしている。



第224図 第1623号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖幅115cmほどである。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は15cmほど皿状に掘りくぼめられて、火床面は若干赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量	9 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
3 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 極 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 赤 褐色	焼土ブロック多量、灰中量	11 極 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
5 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量
6 暗 赤 褐色	灰多量、焼土ブロック中量	13 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子少量
7 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量		

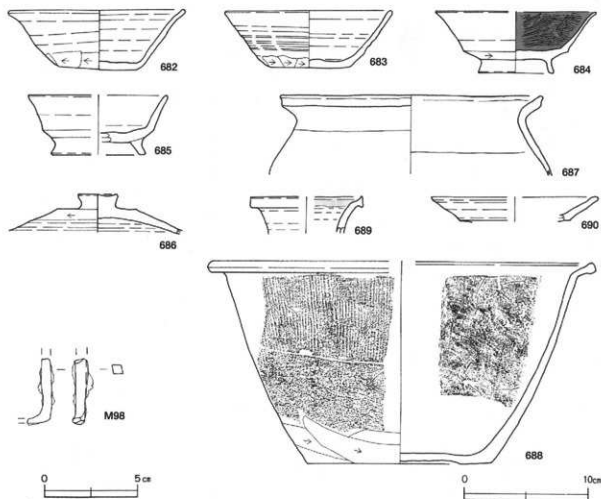
ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは8～21cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ35cmである。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片356点(坏・碗38, 甕・瓶318), 須恵器片246点(坏・高台付坏99, 盤1, 甕・鉢・瓶



第225図 第1623号住居跡出土遺物実測図

146)、灰釉陶器片2点(長頸瓶)、不明製製品1点(釘か)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、684は北東部の床面、686は中央部の覆上下層から出土している。688は南西部の床面と南東部の覆上下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

#### 第1623号住居跡出土遺物観察表(第225図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
682	須恵器	杯	14.0	4.8	6.4	雲母・長石・石英	黄	普通	底部回転ヘウ割り焼、ヘウナテ	中央部床面	70%, PL60
683	須恵器	杯	13.2	4.6	6.5	雲母・長石・石英	黄	普通	底部一方向のヘウ割り	中央部床面	95%, PL60
684	土師器	高台付杯	[12.8]	4.9	6.0	雲母・赤色粒	にぶい赤褐色	普通	底部回転ヘウ割り焼、高台焼り付け	北東部床面	60%
685	須恵器	高台付杯	[11.0]	4.8	7.4	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘウ割り焼、高台焼り付け	東壁際下層	35%
686	須恵器	壺	-	[3.0]	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	天井部回転ヘウ割り	中央部下層	50%
687	土師器	壺	20.8	6.3	-	雲母・長石・石英	黄	普通	口縁部横ナテ、底部ナテ	南西部床面・ 南西部中層	
688	須恵器	鉢	[30.4]	16.1	14.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部ヘウナテ	南東部中層下層	30%
689	灰釉陶器	長頸瓶	[8.4]	[3.0]	-	長石	灰褐色	良好	口縁部ロクロナテ、一部障灰による自然釉	覆土中	非=978号表式
690	灰釉陶器	壺	[13.4]	[2.0]	[8.8]	長石	黄・にぶい黄褐色	良好	口縁部ロクロナテ、内面障灰による自然釉	覆土中	灰黄褐色

番号	器種	径	幅	厚	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M89	釘	[3.3]	0.7	0.5	[5.1]	鉄	断面方形の極細、片側が鋭	南西部上層	

#### 第1624号住居跡(第226・227図)

位置 調査区西部のS 63区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1623号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一边が2.90mほどの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は14~28cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められており、壁溝が東壁際を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅145cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は10cmほど皿状に掘りくぼめられており、火床面が被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して直線的に立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |          |                                |           |                             |
|----------|--------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量   | 8 暗赤褐色    | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量            |
| 2 灰褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 9 暗赤褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色  | ロームブロック・炭化物少量                  | 10 灰黄褐色   | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量  |
| 4 にぶい赤褐色 | 灰中量、焼土ブロック・炭化物粒子少量             | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量         |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物粒子少量         | 12 褐色     | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量        |
| 6 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量            | 13 極暗赤褐色  | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量      |
| 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量      |           |                             |

ビット 1か所。P1は出入り口施設に伴うビットで、深さ11cmである。

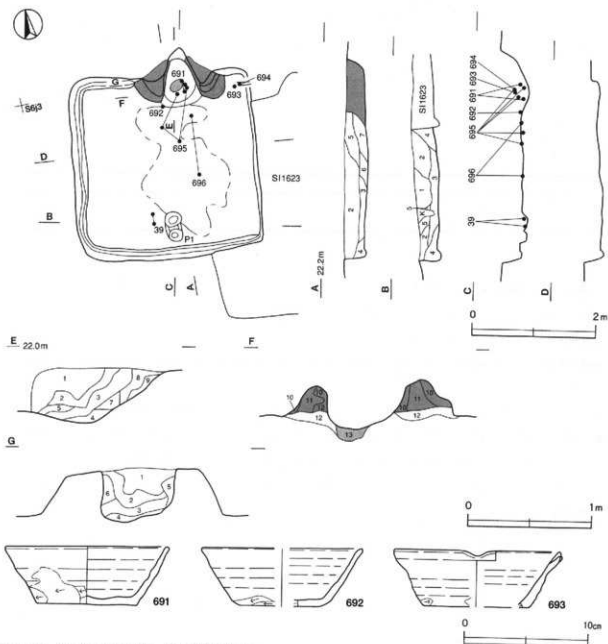
覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                                     |       |                             |
|-------|-------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量               | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量                    | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量                           |       |                             |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量                           |       |                             |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量、<br>焼土ブロック・炭化粒子少量 |       |                             |

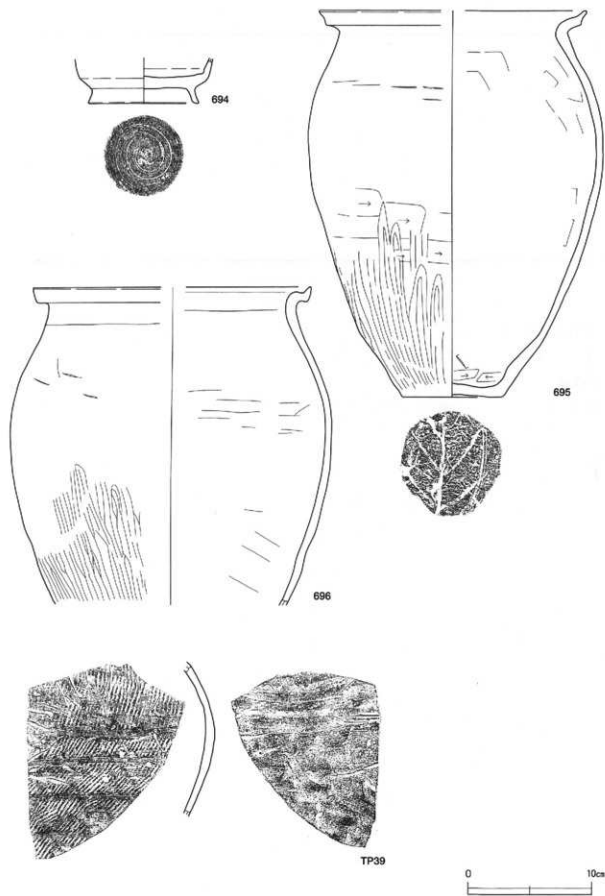
遺物出土状況 土師器片256点、須恵器片51点（坏・高台付坏35、蓋2、甕・瓶14）がほぼ全域から出土している。695は中央部の床面と竈内の覆土下層から出土した破片が接合したもので、696は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。また、693・694は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は出土土器から9世紀前葉と考えられ、当該期における最も小形の住居である。



第226図 第162号住居跡・出土遺物実測図





第227图 第1624号住居跡出土遺物実測図

第1624号住居跡出土遺物観察表 (第226・227図)

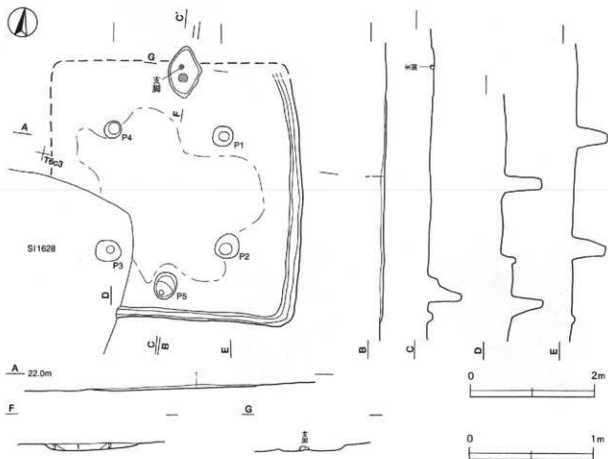
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
691	須恵器	杯	33.0	4.6	8.0	長石・石英	褐色	普通	底部二方向のヘラ削り	竈火床部	60%
692	須恵器	杯	[12.6]	4.6	[6.4]	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部一方向のヘラ削り	竈手前床面	20%
693	須恵器	高台付杯	[13.2]	4.5	[8.4]	雲母・長石・石英	褐色	普通	口縁端部の突出した破損部分を研削し、注口状にして再利用	北東部下壁	15%
694	須恵器	高台付杯	-	(3.6)	8.8	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台削り付け	北東部下壁	50%
695	土師器	甕	[21.4]	30.9	8.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外部外面上半・内面ヘラナデ	中央部床面・竈内下壁	40%
696	土師器	甕	[22.0]	(25.5)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	外部外面上半・内面ヘラナデ	中央部床面	20%
T739	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	内面無文の帯で具板・ロクロナデ	南部下壁・床面	

第1626号住居跡 (第228図)

位置 調査区西部のT 6 b3区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1628号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。確認された壁高は2cmしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。



第228図 第1626号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は、東壁際から南壁際にかけて確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。火床面は6cmほど皿状に掘りくぼめられて赤変硬化しており、その北側には土製支脚が据えられている。なお、袖部や煙道部の様子は、遺存状態が悪いため不明である。

**竈土層解説**

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量  
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 3 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは50～58cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ56cmである。

覆土 単一層のため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片23点（坏3、甕・瓶20）、須恵器片4点（坏）が散在して出土している。703は南西部、704は北東部の覆土中から出土している。

所見 遺存状態は良くないが、住居の規模やピットの配置など8世紀代の住居形態の典型を示している。廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第229図 第1626号住居跡出土遺物実測図

第1626号住居跡出土遺物観察表（第229図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	須恵器	坏	[140]	4.4	7.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘウ切り後、一方のヘウ割り	南西部覆土中	40%
704	土師器	坏	[118]	[26]	-	石英	明赤褐	普通	口縁部・底部内面横ナデ	北東部覆土中	

第1627号住居跡（第230図）

位置 調査区西部のT6c2区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1626号住居跡を掘り込み、第1613号土坑に掘り込まれている。また、本住居の北側部分を拡張して第1628号住居が構築されている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸2.50mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は8～10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝は北東部を除いて巡っている。壁溝が確認されていない北東部にもわずかなくぼみが連続して認められることから、ほぼ全周していたものと推測される。

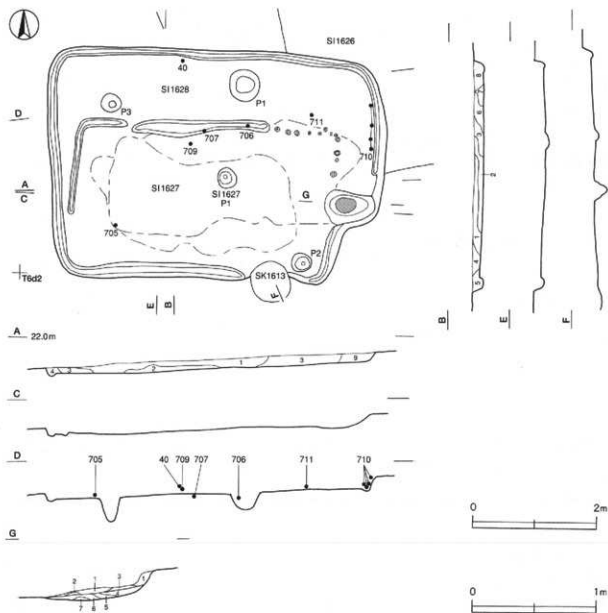
竈 確認されている竈は拡張後の第1628号住居のものであるが、その他に竈の痕跡が認められないことから、同じ場所に付設されていた可能性がある。

ピット 1か所。P1は深さ24cmで、第1628号住居の硬化面下から確認されている。ほぼ中央に位置しており、1本主柱を想定した場合の柱穴の可能性も考えられる。

**覆土** 確認された土層は拡張後のもので、本住居に伴うものは確認されていない。

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 時期は、第1628号住居の年代観から10世紀後半ないしそれ以前と考えられる。



第230図 第1627・1628号住居跡実測図

#### 第1628号住居跡 (第230・231図)

**位置** 調査区西部のT6c2区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

**重複関係** 第1626号住居跡を掘り込み、第1613号土坑に掘り込まれている。また、第1627号住居跡の北側部分を拡張して、本住居が構築されている。

**規模と形状** 長軸5.35m、短軸3.65mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。東壁の南側部分の立ち上がりは北側部分よりも70~80cmほど手前で確認されており、竈の右側に棚状施設が存在していたことも考え

られる。また、壁高は10~18cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部分が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 東壁の南寄りに付設されている。天井部や袖部は遺存せず、竈内の覆土の含有物から、砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は浅い皿状を呈し、若干赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

**覆土層解説**

- |        |                            |       |                       |
|--------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量           | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色  | 炭化粒子中量、焼土粒子少量              | 6 暗褐色 | 炭化粒子多量、焼土粒子中量         |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量    | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量          |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |       |                       |

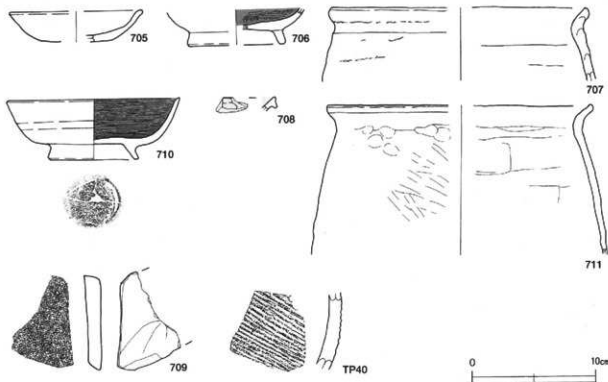
ピット 3か所。P1~P3は深さ30~40cmで、形状から柱穴の可能性も考えられるが、配置が不揃いであり、性格は不明である。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |       |                            |
|-------|---------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量      | 6 暗褐色 | ロームブロック少量                  |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量           | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量           |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量        | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量           |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量    | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量 |       |                            |

遺物出土状況 土師器片132点（小皿1、杯・碗37、甕・瓶94）、須恵器片14点（甕）、灰釉陶器片1点（長頸瓶）、鉄滓5点が散在して出土している。705は南西部の床面から出土している。710は東壁際の覆土下層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。また、TP40は北壁際の覆土上層から出土した体部片で、内面が摩滅しており、硯として転用されたものと考えられる。



第231図 第162号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。本住居の床面の大半は、第1627号住居と共有している。

第1628号住居跡出土遺物観察表 (第231図)

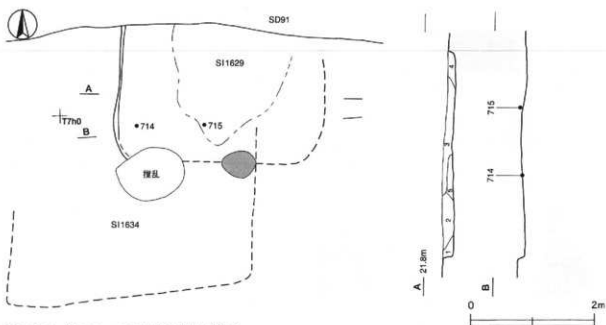
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
705	土師器	小皿	[10.1]	2.4	[ 5.9]	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り	南西部床面	40%
706	土師器	碗	-	( 2.7)	[ 7.8]	雲母・長石・石英	橙	普通	底部内面放射状のヘラ磨き、外周回転ヘラ切り後高台貼り付け	中央部床面	15%
710	土師器	碗	13.7	5.1	6.8	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転承切り後、高台貼り付け	東壁際上～下層	95%、PL60
707	土師器	壺	[20.2]	( 5.8)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ・輪積み痕、内面ヘラナデ	中央部床面	
711	土師器	壺	[20.8]	(11.9)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面指掘によるナデ、内面ヘラナデ	北東部上層	
709	須恵器	大甕	-	( 7.3)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部外面自然焼、裏面研磨	中央部下層	内面壁風乾河泥
708	灰釉陶器	長頸瓶	-	( 1.2)	-	長石	灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ	P 2 覆土中	發投産*
TP40	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	外周斜位の平行引き、内面ロクロナデ	北壁際上層	

### 第1629号住居跡 (第232・233図)

位置 調査区中央部のT7g0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630・1636A号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み、第1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 遺存状態が悪く、壁の立ち上がりは西部で確認されただけであり、東西軸は暗褐色を呈した床面の広がりから3.30mほどと推定される。また、南北軸は第91号堀に掘り込まれているために2.15mだけが確認され、硬化面が南北に広がりを見せていることから、N-1°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。西壁の高さは10cmほどで、外傾して立ち上がっている。



第232図 第1629・1634号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、硬化面が南北に広がって確認されている。

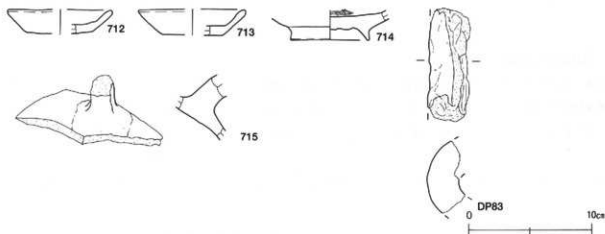
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                         |        |                     |
|-------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量    | 5 暗褐色  | ロームブロック少量           |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量    |        |                     |

遺物出土状況 土師器片156点（小皿2、坏・碗73、甕81）、須恵器片2点（壺、大甕）、輪羽口1点が散在して出土している。712は東部の覆土上層、713は西部の覆土上層、714は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。輪羽口の出土から、集落内で鍛冶関連の手工業が行われていたことが推測される。



第233図 第1629号住居跡出土遺物実測図

第1629号住居跡出土遺物観察表（第233図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土師器	小皿	[ 8.2]	1.9	[ 3.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	東部上層	40%
713	土師器	小皿	[ 8.4]	2.0	[ 4.8]	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り	西部上層	20%
714	土師器	碗	-	( 2.3)	6.2	赤色粒子	橙	普通	底部内面格子状のヘラ磨き	西壁際下層	20%
715	須恵器	壺	-	( 5.7)	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙・黄 灰	良好	体部外面自然焼、内面ロクロナデ、耳部貼付け	南部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP83	輪羽口	( 9.1)	( 3.5)	( 6.4)	(131.8)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色、ナデ、繊維質を含む	東部上層	

第1634号住居跡（第232・234図）

位置 調査区中央部のT7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1629・1630号住居跡、第168・170号掘立柱建物跡を掘り込み、第1543号土坑に掘り込まれている。  
規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから東西軸3.90m、南北軸2.15mほどが確認されただけである。竈の位置からN-87°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推測される。



第234図 第1634号住居跡  
出土遺物実測図

床 床面は調査前に削平されており、詳細は不明である。

竈 東壁際に火床面だけが確認されている。竈材等も不明である。

遺物出土状況 土師器片17点(坏・碗3、甕・瓶14)が竈の火床部から出土している。

所見 時期は、重複関係から10世紀後半以降と考えられる。

第1634号住居跡出土遺物観察表 (第234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
727	土師器	坏	[130]	(1.6)	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部クロコナテ	竈壁土中	

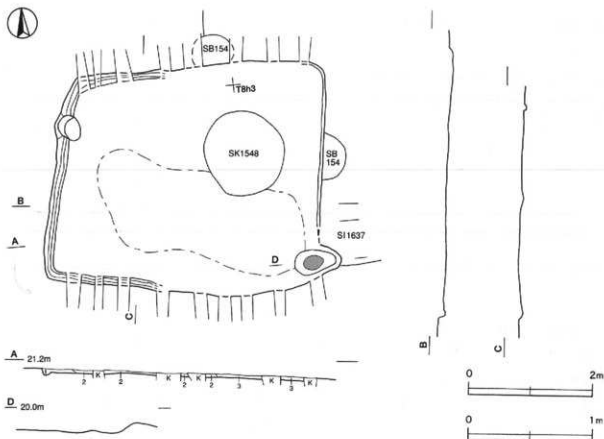
第1631号住居跡 (第235・236図)

位置 調査区中央部のT 8 h2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1637号住居跡と第154号掘立柱建物跡を掘り込み、第1548号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m、短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-98°-Eである。壁高は5cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から西壁際にかけて東西に長く硬化面が確認されている。壁溝は南西部から北西部



第235図 第1631号住居跡実測図



にかけて確認されている。また、西壁際の北側部分にはスロープ状に硬化した面が確認されており、出入り口施設の一部とも考えられる。

**竈** 南東コーナー部に付設され、規模は焚口部から煙道部まで75cmほどである。袖部や天井部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面が若干赤変している。煙道は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層からなる。各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積の可能性が高い。

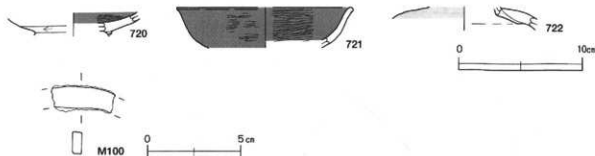
**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片29点（坏・碗13、甕・瓶16）、須恵器片1点（長頸瓶）、不明鉄製品1点、混入した土師器片4点、須恵器片14点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。

720は南西部、721・722は南東部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第236図 第1631号住居跡出土遺物実測図

**第1631号住居跡出土遺物観察表（第236図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
720	土師器	碗	-	(1.8)	-	長石・赤色粒子	にぶい黒	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	南西部覆土中	10%
721	土師器	碗	[140]	(4.2)	-	石英	灰	普通	体部内外面ヘラ磨き	南東部覆土中	
722	須恵器	長頸瓶	-	(1.9)	-	黒色粒子	灰	良好	肩部自然蝕、頸部二段接合	南東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M100	不明	(3.4)	1.2	0.6	(7.5)	鉄	断面長方形の板状、巧状に緩やかに彎曲	覆土中	

**第1632号住居跡（第237図）**

**位置** 調査区中央部のT8h4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1637・1638号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸4.35m、短軸3.80mほどの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁の立ち上がりは明瞭でなく、土層断面から部分的に確認されただけである。確認された壁高は5~10cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

**竈** 北壁際の東寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、火床面だけが確認されている。火床面は床

面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱して赤変硬化している。

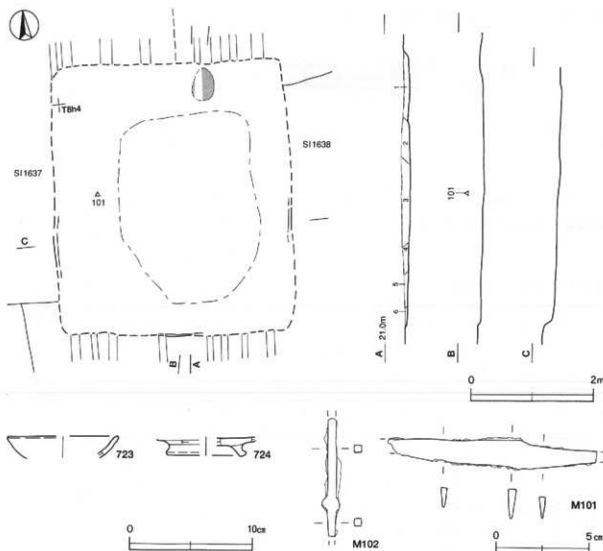
**覆土** 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                     |        |                |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒少量 | 4 黒褐色  | ロームブロック少量      |
| 2 黒褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量  | 5 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量      |

**遺物出土状況** 土師器片139点（小皿1， 坏・碗19， 甕・瓶119），須恵器片2点（坏），灰釉陶器片1点（瓶），刀子1点，鉄鎌1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。723・M102は南西部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第237図 第1632号住居跡・出土遺物実測図

第1632号住居跡出土遺物観察表（第237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
723	土師器	坏	[ 9.0]	( 1.7)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部リブナシ	南西部覆土中	

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
724	土師器	椀	-	(15)	[64]	長石・石英	にぶい碧	普通	底部内面へラ磨き、外面へラ切り縁高台 取り付け	北西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	刀子	(11.2)	1.5	0.4	(17.1)	鉄	刃先部・茎尻部欠損、片側	西部上層	PL78
M102	鋸	(6.3)	(1.0)	0.4	(5.4)	鉄	鋸柄部から茎部にかけての破片、断面方形、縁側	南西部覆土中	PL80

### 第1633号住居跡（第238図）

位置 調査区中央部のT7h9区に位置し、若干南に傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第170号掘立柱建物跡を掘り込み、第107号溝に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、南半部分の様相は不明である。東西軸3.10m、南北軸1.22mだけが確認され、N-1°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、竈の手前が踏み固められている。また、壁溝が確認された壁際を巡っている。

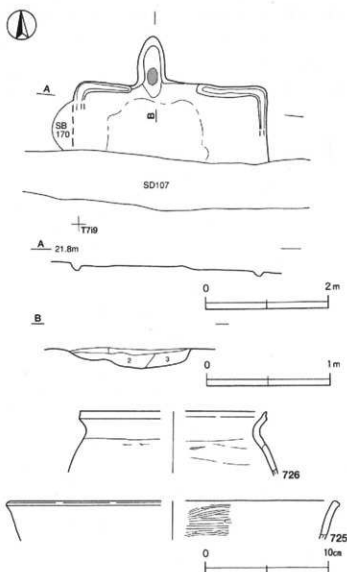
竈 北壁の若干西寄りに、壁外へ75cmほど掘り込んで構築されている。袖部や天井部は遺存していないが、覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は皿状を呈し、火床面が被熱して赤変硬化している。

#### 覆土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中層、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片9点(坏3, 甕・瓶5, 鉢1), 須恵器片1点(甕)が出土している。図示した土器はすべて竈内から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から10世紀以降と考えられる。



第238図 第1633号住居跡・出土遺物実測図

第1633号住居跡出土物観察表 (第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
725	土師器	鉢	[260]	(32)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部ロクロナデ	遺覆土中	
726	土師器	甕	[150]	(49)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	遺覆土中	

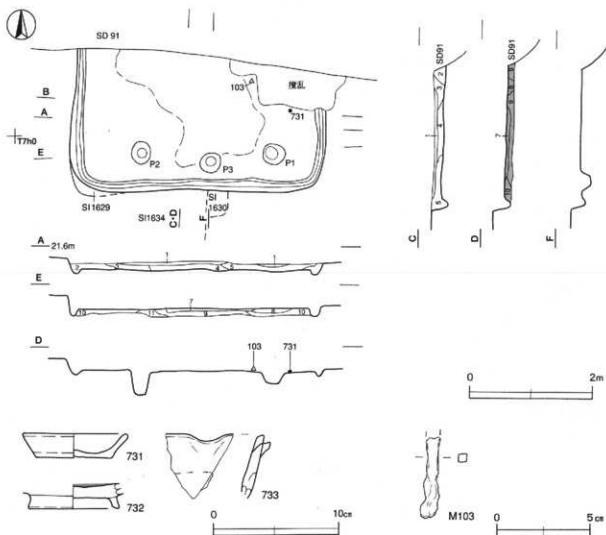
第1636A号住居跡 (第239図)

位置 調査区中央部のT7g0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み、第1629・1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。また、第1636B号住居跡の床面上に貼床をして本住居が構築されている。

規模と形状 東西軸は4.05mで、南北軸は北部が第91号堀に掘り込まれているために2.35mだけが確認されている。南壁の指す方向からみて、 $N-0^\circ$ を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は2~10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦である。第1636B号住居跡の床面上にロームブロックを用いて均一に貼床が施されており、硬化



第239図 第1636A号住居跡・出土物実測図

面は出入り口施設付近から中央部に向かって確認されている。また、壁溝が確認された壁跡を巡っている。

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴に相当し、深さはそれぞれ22cmと40cmである。P3は出入り口施設に伴うピットで、深さは17cmである。

覆土 11層に分層され、第1～6層が晩絶後の堆積土層で、ブロック状に堆積した人為堆積である。その下部にある第7～11層は、住居を構築した際の貼床部の土層である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・炭化物少量	8 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子・炭化物少量	9 暗褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化物・粘土粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック中量	11 褐色	ロームブロック多量
6 黒褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師器片57点（小皿1，杯・碗30，鉢1，甕・瓶25），不明鉄製品1点，混入した須恵器片19点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，731は東壁寄りの床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。本住居は，第1636B号住居からの建て替え住居と推測される。

#### 第1636A号住居跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種類	器形	口径	器高	底径	出土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
731	土師器	小皿	8.4	2.0	6.1	右側・右石・赤色粒子	にがい焼	普通	底部回転ヘラ切り	東壁寄り床面	70%，PL60
732	土師器	碗	-	(20)	7.1	玄母・長石・石英	硬	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	遺土中	15%
733	土師器	鉢	-	(5.1)	-	長石・石英	浅黄焼	普通	口状の突出、内面黒色処理	東西階上中	

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M103	不明	(4.3)	1.0	0.3	(45)	鉄	断面形状の線状、片側欠損	中央部土層	

#### 第1636B号住居跡（第240図）

位置 調査区中央部のT7g0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み、第1629・1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。また、本住居の床面上に貼床をして第1636A号住居が構築されている。

規模と形状 東西軸は4.05m，南北軸は2.35mだけが確認されており，N-0°を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は25～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東側部分にかけてほぼ平坦で，南壁跡から中央部に向かって硬化面が確認されている。また，西側部分には他の床面と比べて5cmほど高いベッド状の高まりが認められ，その上面が硬化している。この硬化面は中央部の硬化面とは連続していない。なお，ほぼ中央から，灰と炭化物の広がりが確認されている。

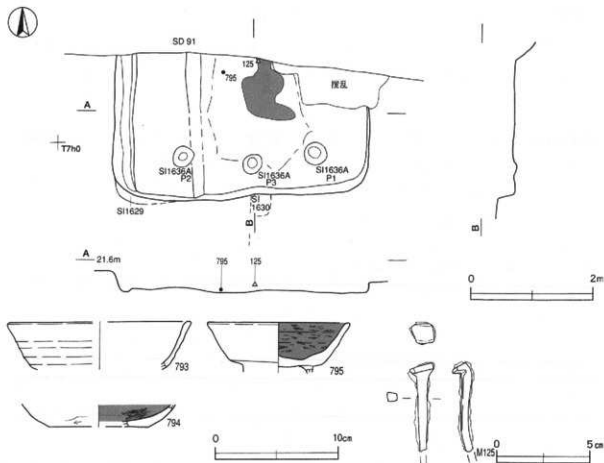
ピット 確認されているピットはいずれも第1636A号住居に帰属するものであるが，本住居のピットが建て替え後も利用された可能性も考えられる。

覆土 本住居の床面上には第1636A号住居の貼床が施されており，本住居に伴う覆土は確認されていない。

遺物出土状況 土師器片56点（杯・碗37，甕・瓶19），鉄釘1点，混入した須恵器片7点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，795は中央部の覆土下層から出土している。また，中央部の床面には灰と炭化

物が薄く広がっており、焼失したか、廃絶時に有機物を燃やしたかのいずれかと考えられる。なお、焼土は確認されていない。

所見 西側部分のベッド状の高まりは、住居内の使い分けを想起させるものである。時期は、本住居から第1636A号住居への建て替えが行われたと推測されることから、第1636A号住居の年代観に従って10世紀後半以降と考えられる。



第240図 第1636B号住居跡・出土遺物実測図

第1636B号住居跡出土遺物観察表 (第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
793	土師器	杯	[14.6]	(3.8)	-	石英・赤色粒子	明赤點	普通	体部口ロナテ	南東部覆土中	
794	土師器	杯	-	(1.8)	[7.8]	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	南東部覆土中	
795	土師器	高台付杯	11.2	(4.0)	-	石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南西部下層	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M125	釘	(4.7)	1.3	0.5	(6.2)	鉄	断面方形の棒状、頭部屈曲	南東部下層	IV.81

### 第1637号住居跡 (第241~243図)

位置 調査区中央部のT 8 h3区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1638号住居跡を掘り込み、第1631・1632号住居と第154・167号掘立柱建物、第6号柱穴列、第

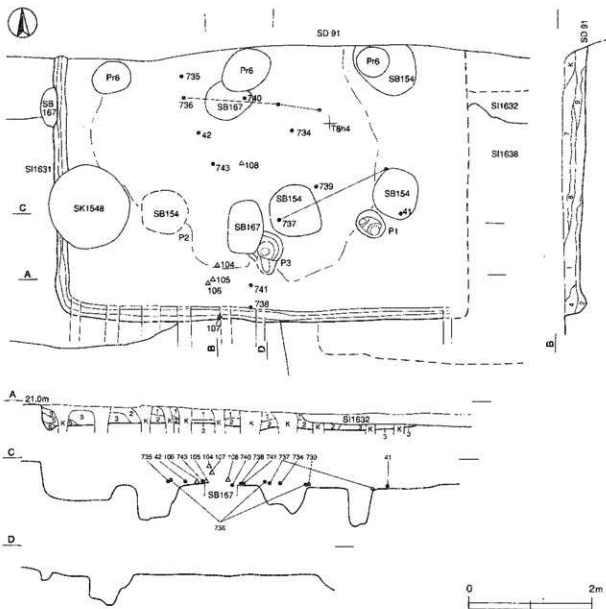
1548号土坑，第91号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は北部が第91号堀に掘り込まれているために1.40mだけが確認され，東西軸は東壁の立ち上がりが確認されなかったため，床面の広がりやピットの位置から6.55mほどと推定される。平面形は方形または長方形と考えられ，主軸方向は南壁の指す方向から $N-2^{\circ}-E$ と判断できる。残存する壁はほぼ直立しており，西壁の高さは30cmほどである。

**床** ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められており，塚清が確認された壁際を巡っている。

**ピット** 3か所。P1は支柱穴に相当し，深さは62cmである。P3は出入り口施設に伴うピットで，深さは53cmである。

**覆土** 9層からなる。第1～6層は，レンズ状に堆積した自然堆積である。その上層に堆積している第8・9層はロームブロックを含み，埋没途中に人為的に埋め戻されている層であり，その後は第7層が自然に堆積している。



第241図 第1637号住居跡実測図

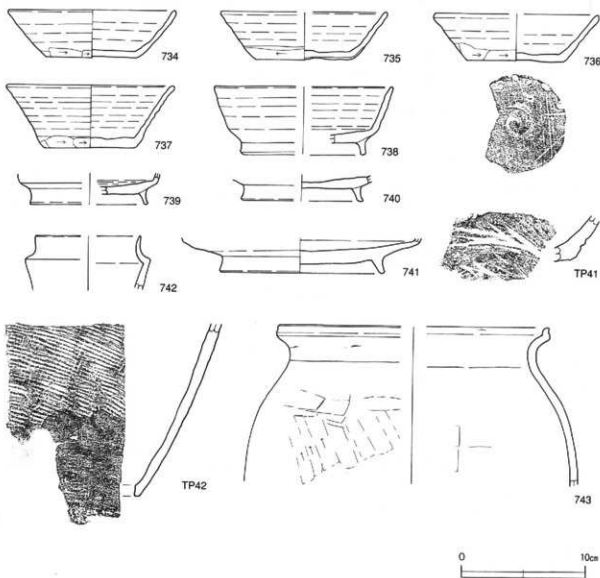
土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量  
 3 極暗褐色 ローム粒子少量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

- 6 褐色 ローム粒子多量  
 7 黒褐色 ローム粒子少量  
 8 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 9 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

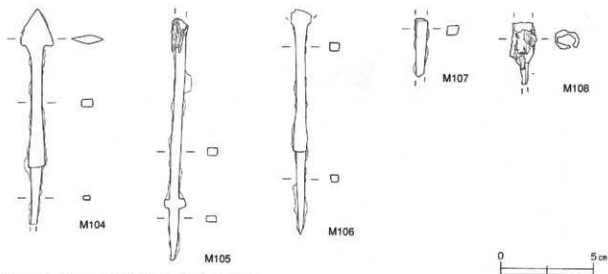
遺物出土状況 土師器片243点(環20, 甕・瓶223), 須恵器片242点(環・高台付環160, 蓋6, 盤1, 甕・瓶74, 短頸壺1), 支脚1点, 鉄鏝3点, 不明鉄製品2点, 鉄滓1点が覆土下層を中心に出土している。出土した土器の大半は破断面の摩耗が少ないことから, 廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと考えられる。734~736・739は, いずれも中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。740は中央部の床面から出土しており, 底部内面が摩滅している。また, M104~107は南壁際中央部の覆土下層から上層にかけて出土している。737は重複する掘立柱建物に伴う可能性がある。

所見 出土土器に占める須恵器供具の割合が高く, そうした食器を管理する施設が本住居付近に存在していたことがうかがわれる。廃絶時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第242図 第1637号住居跡出土遺物実測図(1)





第243図 第1637号住居跡出土遺物実測図(2)

第1637号住居跡出土遺物観察表 (第242・243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
734	須恵器	環	13.3	3.8	7.3	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部下層	80%, PL60
735	須恵器	環	[13.2]	3.8	7.4	雲母・長石・石英	靑灰	普通	体部下層・底部回転ヘラ削り	中央部下層	40%
736	須恵器	環	[13.0]	3.8	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	中央部下層	45%
737	須恵器	環	13.2	5.0	7.2	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南東部下層～ 床面	60%
738	須恵器	高台付環	[14.2]	5.4	[ 9.4]	雲母・長石・石英	靑灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	40%
739	須恵器	高台付環	-	( 2.4)	[ 9.3]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	磁釉用, 20%
740	須恵器	高台付環	-	( 2.1)	[ 9.4]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部床面	磁釉用, 20%
741	須恵器	盤	-	( 2.8)	12.8	雲母・長石・石英	靑灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	80%, PL60
742	須恵器	短頸壺	[ 8.4]	( 4.4)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部クロコナデ	西部下層	
743	土師器	壺	[21.4]	(12.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	中央部下層	
TP41	土師器	壺	-	-	-	長石・石英	黒黒	普通	結核の金属研磨痕	南東部下層	
TP42	須恵器	瓶	-	-	-	雲母・長石・石英	靑灰黄	普通	内面無文の当て具取・ナデ、孔はヘラ切り	中央部下層	

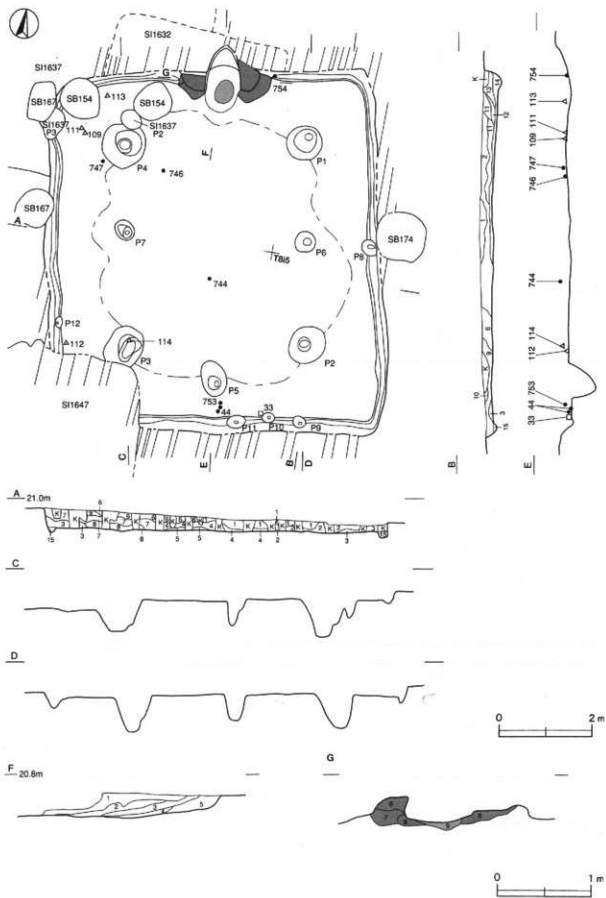
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M104	簾	(11.4)	1.7	0.5	(16.8)	鉄	両丸造, 台状脚	南壁際上層	PL80
M105	簾	(12.9)	1.2	0.4	(10.7)	鉄	簾身部に木質付着, 扁面	南壁際下層	PL80
M106	簾	(11.9)	1.1	0.4	(12.8)	鉄	台状脚, 簾身部欠損	南壁際下層	PL80
M107	不明	( 3.2)	( 0.7)	( 0.5)	( 2.9)	鉄	断面方形の棒状	南壁際下層	
M108	不明	( 3.4)	( 1.0)	( 0.6)	( 3.4)	鉄	錆化が激しく, 形状不明	中央部下層	

### 第1638号住居跡 (第244・245図)

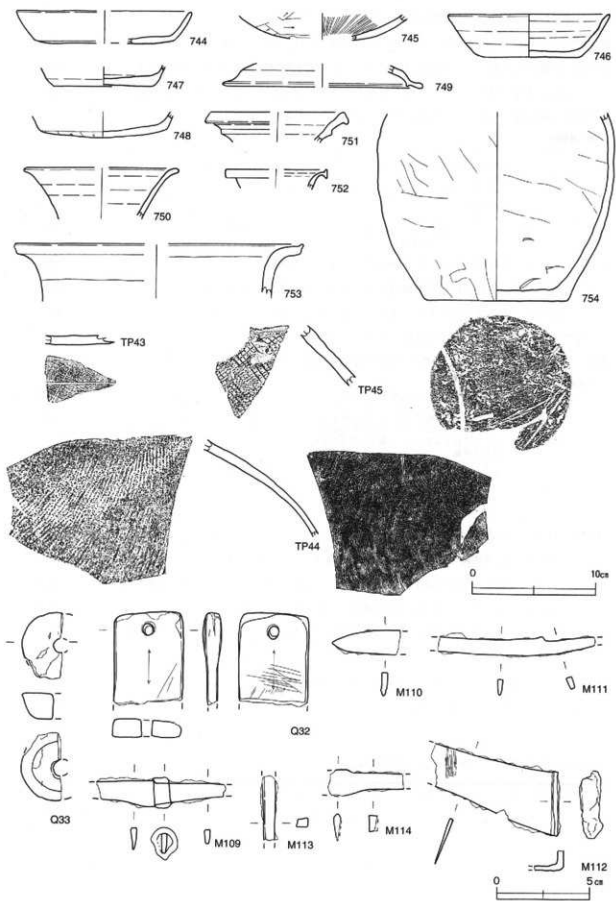
位置 調査区中央部のT 8 h4区に位置し, 東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1632・1637・1647号住居と第154・167・174号独立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.70m, 短軸7.10mほどの方形で, 主軸方向はN-9°-Wである。壁高は20~24cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。



第244图 第1638号住居跡実測図



第245图 第1638号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで140cm、袖部幅195cmほどである。右袖部は掘り残した地山を芯として、左袖部は床面の高さから若干掘りくぼめた地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は焼土混じりのローム土を床面の高さまで埋め戻して使用され、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに傾斜した後、中位から急な傾斜で立ち上がっている。

#### 電土層解説

1 紫 暗 褐色	ロームブロック中厚、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	6 にぶい黄褐色	砂粒多量、粘土粒中厚、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 灰 黄 褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・地上粒土・炭化粒子少量	7 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐色	炭化物多量、焼土ブロック・灰少量	8 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック中厚、焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子多量、灰中厚	9 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中厚、炭化物・粘土粒子・砂粒少量
5 灰 褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中厚、ロームブロック・炭化物少量		

ピット 12か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは54～74cmである。また、P6・P7はそれぞれP1とP2、P3とP4の中間に位置した補助柱穴で、深さはいずれも55cmほどである。P5は出入り口施設に伴うピットに相当し、深さは55cmである。また、P11の深さは70cm、その他のP8～P12は深さ22～27cmで、いずれも壁際から確認されており、壁柱穴の可能性がある。

覆土 15層からなり、含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック中厚、焼土粒子・炭化粒子少量	9 暗 褐色	ロームブロック中厚、焼土粒子・炭化物少量
2 黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	10 黒 褐色	ローム粒子少量
3 紫 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	11 紫 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量
4 紫 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	12 赤 灰色	砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
5 灰 黄 褐色	砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量
6 暗 褐色	ロームブロック中厚、焼土ブロック・炭化粒子少量	14 褐色	ロームブロック中厚、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量
7 暗 褐色	ロームブロック中厚、炭化物少量、焼土ブロック微量	15 暗 褐色	ロームブロック中厚、焼土ブロック・炭化物微量
8 紫 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量		

遺物出土状況 土師器片741点（坏150、甕・瓶591）、須恵器片354点（坏・高台付坏226、蓋17、瓶3、甕・瓶108）、砥石1点、石製紡錘車1点、刀子3点、鉄鎌1点、不明鉄製品2点、炭化種子1点（桃）が出土している。土器の大半は覆土中層を中心に出土しており、廃絶後の埋め戻しの途中に投棄されたものと推測される。床面から出土したのものとしては746・754があり、746は中央部北西寄りから上圧でつぶれた状態で、754は竈石割から正位で出土しており、遺棄されたものと考えられる。また、M109・M111は北西部の覆土下層からまともに出土している。

所見 鉄器や石器などがまともに出土しており、保有形態の一端をうかがうことができる。廃絶時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。

#### 第1638号住居跡出土遺物観察表（第245回）

番号	種類	器種	1径	器径	底径	粘土	色	焼成	手法の管窺	出土位置	備考
744	土師器	坏	140.0	26	—	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナテ、底部へテ削り	中央部中層	20%
745	土師器	坏	—	(22)	—	長石・石英	暗	普通	底部内面放射状の線文、外面へテ削り	P6覆土中	
746	須恵器	坏	130	35	8.5	雲母・長石・石英	灰	普通	底部身台状のへテ削り	中央部床面	70%、PL60
747	須恵器	坏	—	(17)	80	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部・方向のへテ削り	北西部下層	40%
748	須恵器	坏	—	(21)	100.0	雲母・長石・石英	灰	普通	底部・方向のへテ削り	西部下層	15%
749	須恵器	蓋	160.0	(18)	—	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部コケロナテ	P2覆土中	
750	須恵器	瓶	(120)	(40)	—	長石・石英	黄灰	良好	口縁部コケロナテ、内面自然納	北西部上層	半瓶

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	地質	産地	手法の特徴	出土位置	備考
751	須恵器	瓶	110.8	12.4	-	黒色粘土	灰・灰キリーブ	良好	口縁部ロクロナデ、内面自然釉	南東部土層	フラスコ底
752	須恵器	長頸瓶	82	1.5	-	石英	鉛灰質・キリーブ灰	良好	口縁部ロクロナデ、内・外面自然釉	北西部土層	底面破
753	土師器	瓶	123.6	4.3	-	雲母・長石・石英	にぶい微	普通	口縁部横ナデ	南東部土層	
754	土師器	壺	-	14.9	11.4	雲母・長石・石英	にぶい微	普通	体部内・外面ヘラナデ	表石部床面	30%
TP43	須恵器	杯	-	-	-	雲母・長石・石英	細灰	普通	底部 方筒のヘラ削	P1覆土中	底面突き×
TP44	須恵器	大甕	-	-	-	長石・石英・雲母・長石	灰	良好	外面平行削き、内面同心円状の当て具痕	南東部床面	外縁自然釉
TP45	須恵器	壺	-	-	-	雲母・長石・石英	表灰	普通	天井傾斜面ヘラ削	P1覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	灰石	5.3	4.0	1.0	340	粘板岩	中央部折損、折損面平減、両側穿孔。孔径0.6-0.7cm	西部土層	PL77
Q33	粘板岩	3.6	2.2	1.4	128	粘板岩	孔の芯残存	西壁部床面	PL75
M100	刀子	6.9	1.7	1.4	134	鉄	刃部から基部にかけての破片、踵残存、片削	北西部土層	PL78
M110	刀子	3.6	1.4	0.4	43	鉄	刃先部の破片	北東部土層	PL78
M111	刀子	8.0	1.0	0.4	73	鉄	刃部から基部にかけての破片、片削。基部はわずかに彎曲	北西部土層	PL79
M112	鎌	6.9	3.5	0.4	229	鉄	刃部に鋼線質付着。基部は全体を折り返す	南西部土層	PL81
M113	不明	3.4	0.8	0.5	37	鉄	西南方形の棒状、両側欠損	北西部土層	
M114	刀子	4.0	1.3	0.4	53	鉄	刃部から基部にかけての破片、片削	南西部土層	PL83

### 第1639号住居跡 (第246図)

位置 調査区中央部のT 87区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1641号住居跡を掘り込み、第1640号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南壁の立ち上がりが確認されなかったため、床面の広がりから判断して、N-1°-Eを主軸方向とする長軸4.90m、短軸4.30mほどの長方形と推定される。壁高は最も遺存状態の良い北壁でも5cmしかなく、立ち上がり具合は判然としにくい。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

壁 北壁際の中央部東寄りから火床面だけが確認されている。火床部は床面と同じ高さの平らな面で、火床面が被熱によって変色している。構築材等は不明である。

覆土 2層に分層される。含有物から、人為堆積の可能性が高い。

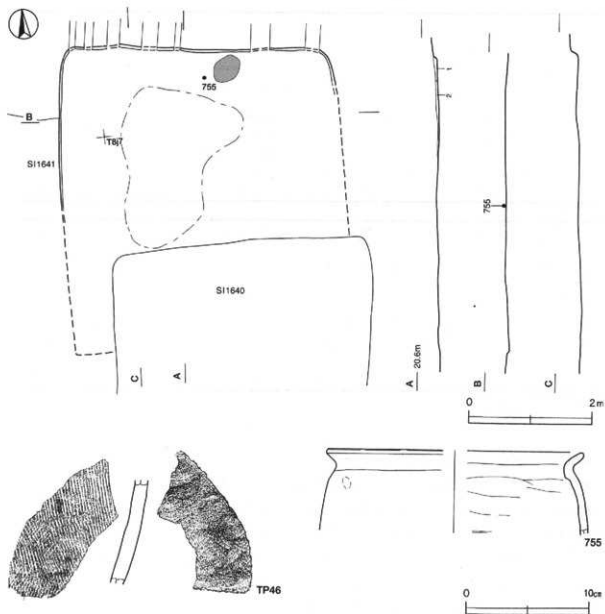
#### 土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化灰土少量・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片52点(杯・碗18, 甕・瓶34), 須恵器片15点(甕・瓶), 不明鉄製品1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、遺存状態を反映して、そのほとんどが破片である。そのうち図示できたものは2点だけで、755は南東部の床面から出土した破片が接合したものである。また、TP46は須恵器大甕片で、南西部の覆土中から出土したものである。

所見 時期は、重複関係と出土土器から、9世紀後半から10世紀後半のいずれかに構築されたと考えられる。重複する第1640号住居とは、南部の床面を一部共有している。



第246図 第1639号住居跡・出土遺物実測図

第1639号住居跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
755	土師器	罌	20.4	6.6	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ナデ、内面ヘラナデ	壺左側床面	
TP46	須恵器	大罌	-	-	-	雲母・長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行引き、内面無文の当て具	南西部覆土中	

第1640号住居跡 (第247図)

位置 調査区中央部のT 8 J7区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1639号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は2~7cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、燼際を除いて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 東壁の南寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、燃焼部幅60cmほどである。天井部と袖部は遺存せず、袖部の想定される燼際にその痕跡が若干確認されるだけである。火床部は地山を皿状に掘りくぼめて使用され、火床面は被熱によって赤変している。また、煙道の立ち上がり部には雲母片岩が据えられて、支脚として使用されている。煙道の様子は攪乱のため不明である。

覆土層解説

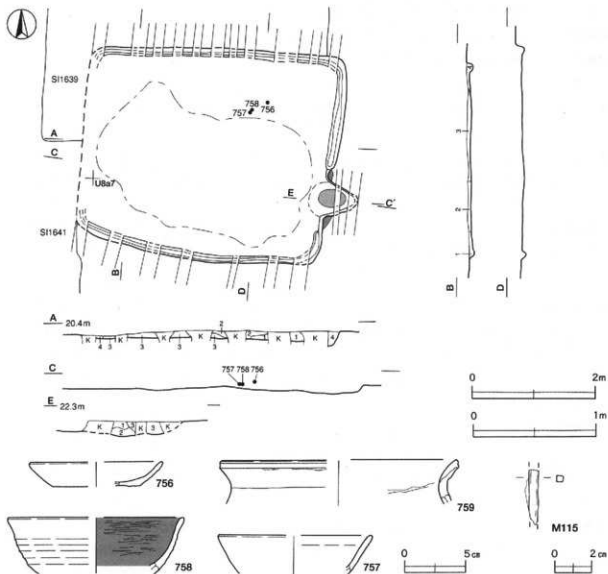
- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量                      3 暗褐色 ロームブロック中量  
2 にぶい赤褐色 焼土粒子・灰多量、炭化物中量

覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量                      3 黒褐色 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量                      4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片116点（小皿1，杯・碗32，甕・瓶83），不明鉄製品1点，石製支脚1点，混入した須恵器片22点が出土している。遺物は北東部から多く出土しており，756～758はいずれも北東部の覆土下層から出土している。



第247図 第1640号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

### 第1640号住居跡出土遺物観察表 (第247図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
756	土師器	小皿	105	2.0	6.9	赤色粘土	橙	普通	底部斜縁ヘラ切り	北東部下層	30%
757	土師器	杯	121	3.1	-	石黄-赤色粘土	橙	普通	底部クロコナデ	北東部下層	10%
758	土師器	椀	146	4.5	-	岩母-赤色粘土	に濃い橙	普通	底部クロコナデ、内面へう巻き	北東部下層	10%
759	土師器	先	186	3.6	-	雲母-灰石-石英	に濃い黄褐色	普通	口縁部削ナデ、輪郭み取	北東部登土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M115	不明	2.9	0.5	0.4	1.0	鉄	背面方形の板状	南東部登土中	

### 第1641号住居跡 (第248・249図)

位置 調査区中央部のT 8 J5区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1639・1640号住居と第1551号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.70mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は18~29cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。また、焼上がほぼ全体に散在して確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されており、壁外への掘り込みは45cmほどである。天井部と袖部は遺存せず、付近の床面には砂粒や粘土粒子が散在している。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱した部分は認められない。また、竈道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

#### 土層解説

- 黒褐色 ローム粘土・焼土粘土・粘土粘土・砂粒少量
- 黒褐色 炭化粘土中量、焼土粘土・粘土粘土・砂粒少量
- 灰黄褐色 粘土粘土・砂粒多量、ロームブロック少量、  
焼土粘土・炭化粘土少量
- 暗赤褐色 ローム粘土・粘土粘土・炭化粘土・砂粒少量
- 黒褐色 炭化粘土中量、ローム粘土・粘土粘土・砂粒少量

ピット 19か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し、深さは73~83cmである。また、P 5は出入り口施設に伴うピットで、深さは63cmである。P 6~P 19は壁柱穴で、壁溝内に規則的に配されている。深さは竈の両側に位置するP 6・P 19がそれぞれ90cm、80cmと深くっており、それ以外のピットは41~73cmの深さである。

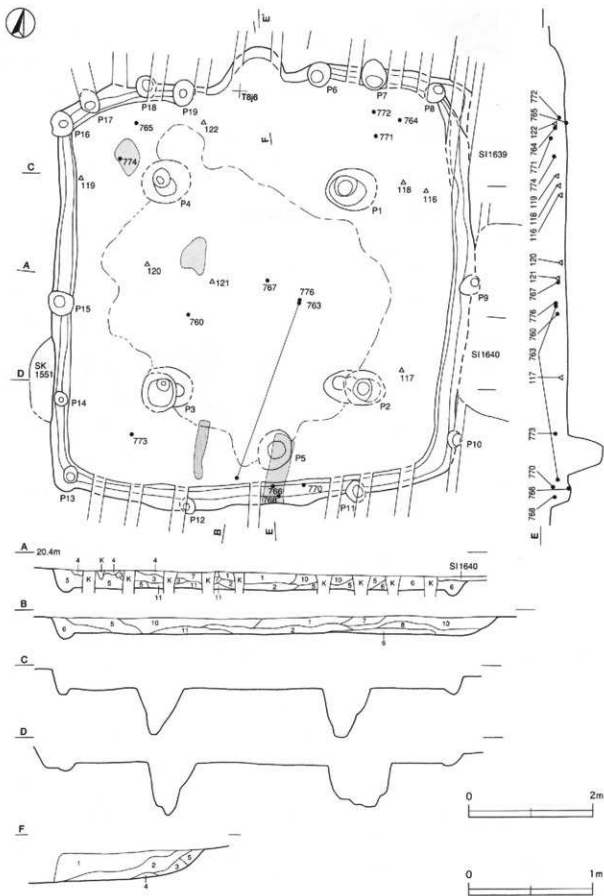
覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。床面上には焼上が散在していることから、焼上後に人為的に埋められたものと考えられる。

#### 土層解説

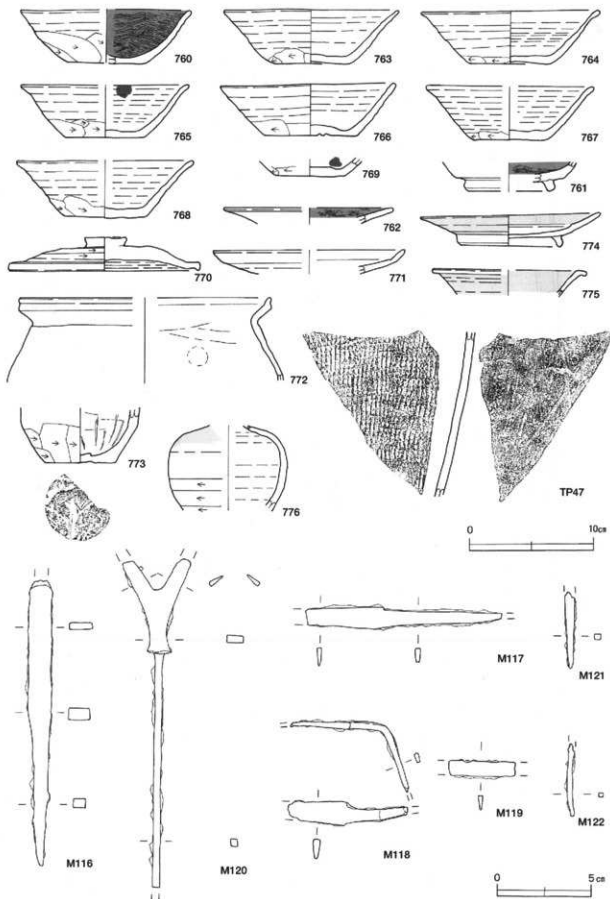
- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粘土少量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粘土少量
- 暗赤褐色 ロームブロック・粘土粘土・炭化粘土少量
- 暗赤褐色 焼土粘土中量、ロームブロック・炭化粘土少量
- 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粘土少量
- 黒褐色 ロームブロック・ローム粘土・炭化粘土少量
- 黒褐色 ローム粘土・粘土粘土・炭化粘土・砂粒少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粘土・炭化粘土少量
- 黒褐色 炭化粘土中量、焼土粘土・ローム粘土・砂粒少量
- 暗赤褐色 ロームブロック・粘土粘土・炭化粘土少量
- 暗赤褐色 ロームブロック中量、粘土粘土・炭化粘土少量

遺物出土状況 土師器片732点 (杯・椀193, 皿・盤2, 鉢3, 甕・瓶534), 須恵器片471点 (杯・高台付杯190, 蓋19, 盤4, 甕・瓶257, 甕1), 灰釉陶器片2点 (皿・小皿), 刀子3点, 鉄鏃1点, 不明鉄製品2点 (鉄鏃カ, 鑿カ) が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, 出土土器の大半は破断面の摩耗が少ないことから, 廃絶後の埋め戻しに伴って投棄されたものと推測される。北西部の床面から出土した765とP 4の覆土中





第248图 第1641号住居跡実測图



第249图 第1641号住居跡出土物実測图

から出土した769には油煙が付着している。また、北西部の覆土下層から出土した774は硯に転用されており、底部外面には朱墨痕が認められる。鉄器・鉄製品類では、M116・M118が北東部、M117が南東部、M119が北西部、M120が西部、M121が中央部、M122が電手前と、出土位置にまともは見られないが、いずれも床面から若干平ついた状態で出土している。

所見 壁柱穴が規則的に配された住居形態から、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。灰釉陶器や朱墨痕のある転用硯油煙付着土器、豊富な鉄製品など、出土遺物も卓越している。晩雑時期は、供膳具に占める土師器と須恵器の割合がほぼ同等であることから、9世紀中葉と考えられる。

第1641号住居跡出土遺物観察表 (第249回)

番号	品別	器種	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
760	土師器	杯	113.1	4.2	6.4	石英・褐色砂子	灰黄期	普通	底部不覚方向への傾り	中央部下層	30%
761	土師器	高台付杯	-	(2.3)	6.6	石英	にぶい澄	普通	高台部付付後、口クロナデ	南西部下層	10%
762	土師器	皿	112.4	1.2	-	玄母・石英	にぶい澄	普通	底部内曲へつ着き、互色処理	南東部上層	15%
763	須恵器	杯	118	4.3	6.2	玄母・長石・石英	黄	普通	底部回転へつ切り後、一方角への傾り	中央部中層・ 南東部下層	30%、PL61
764	須恵器	杯	141	4.3	6.4	玄母・長石・石英	暗灰青期	普通	底部回転へつ切り後、ヘラナデ	北東部中層	70%、PL61
765	須恵器	杯	113.4	4.2	6.4	玄母・長石・石英	暗灰青期	普通	底部回転へつ切り後、一方角への傾り	北西部床面	30%付着部PL61
766	須恵器	杯	118	4.3	7.5	玄母・長石・石英	灰	普通	底部回転へつ切り後、二方向への傾り	南東部床面	80%、PL61
767	須恵器	杯	114.1	4.3	5.7	玄母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転へつ切り後、ヘラナデ	中央部下層	45%
768	須恵器	杯	110	4.5	6.6	長石・石英	灰	普通	底部回転へつ切り後、ヘラナデ	南東部中層	40%
769	須恵器	杯	-	(1.4)	5.2	長石・石英	黄灰	普通	底部へつナデ	P1覆土中	油煙付着
770	須恵器	蓋	151	2.7	-	長石・石英	黄灰	普通	大舟部口クロナデ	南西部中層	90%
771	須恵器	盤	152	1.59	-	玄母・長石・石英	灰黄期	普通	口縁部口クロナデ	北東部上層	10%
772	土師器	羹	200	(6.7)	-	玄母・長石・石英	にぶい澄	普通	外部外面ナデ、内面へつナデ	北東部中層	
773	土師器	小形羹	-	(4.1)	5.6	石英	にぶい澄	普通	外部外面へつ傾り、内面へつナデ	南西部中層・ P3覆土中	20%
774	灰釉陶器	皿	142	2.7	7.9	緑青・ 灰ナリーブ	良好	底部回転へつ傾り後、高台部付付、釉は硝毛塗り	北西部上層	内外面朱墨痕 塗れ、30%PL62	
775	須恵器	飯	124	(2.1)	-	褐色砂子 灰ナリーブ	良好	口縁部口クロナデ、内・外面自然釉	北東部上層	平盤	
776	須恵陶器	小瓶	(6.8)	-	-	白色の吹き出し	灰黄期・ 灰黄	良好	体部口クロナデ、外面下半回転へつ傾り、口部厚部による自然釉	中央部中層	帯+37%付着 20%、PL62
TP47	須恵器	羹	-	-	-	玄母・長石・石英	黄	普通	外面格子状の明り、内面ナデ・輪襷み	P1覆土中	

番号	品別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M116	蓋	113.2	1.2	0.7	(38.9)	鉄	丸縁部欠損、油煙	北東部下層	PL62
M117	刀子	(10.3)	1.3	0.4	(11.8)	鉄	刃部から基部にかけての破片、片側	南東部下層	PL79
M118	刀子	( 9.1)	1.2	0.4	( 8.0)	鉄	刃部から基部にかけての破片、両側、基部破損	北東部中層	PL79
M119	刀子	( 3.6)	0.8	0.2	( 2.8)	鉄	刃部の破片	北西部下層	
M120	鏝	17.5	( 3.6)	0.6	(25.6)	鉄	鎌倉形から蓋部にかけての破片、内訳同、断面式	西部下層	PL80
M121	不明	( 4.0)	( 0.6)	( 0.5)	( 1.7)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	中央部下層	
M122	不明	( 3.8)	( 0.4)	( 0.4)	( 1.4)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	電手前下層	

### 第1642号住居跡 (第250・251図)

**位置** 調査区中央部のT8b1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第1567・1586・1590号住居跡と第157・159・183号掘立柱建物跡を掘り込み、第1552・1553・1585・1594号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は3.20mで、東西軸は床面の広がりと竈の位置から3.50mほどであり、N-96°-Eを主軸方向とする方形と推定される。壁高は遺存状態の良い西壁でも5cmほどしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。

**床** やや凹凸があり、中央部が踏み固められている。また、壁溝は北西部から南西部にかけて確認されている。

**竈** 東壁の南寄りに付設されている。遺存状態が悪く、火床面が確認されただけであり、構築材等も不明である。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が焙熱によって赤変硬化している。

**炉** 中央部に付設されている。平面形は円形で、床面とほぼ同じ高さの地床がある。

#### 炉土層解説

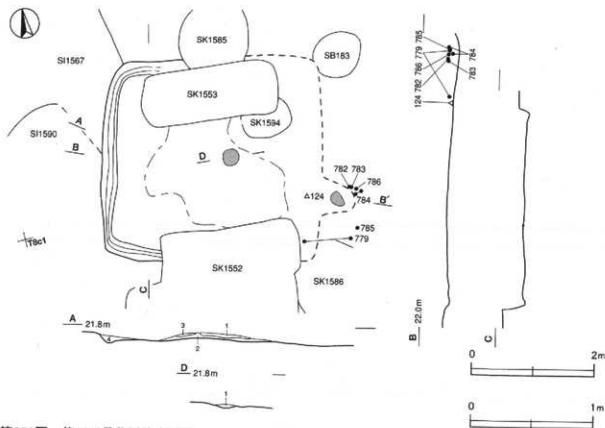
- 1 赤 色 焼土粒子多量

**覆土** 4層からなり、各層とも焼土や炭化粒子を含んだ人為堆積である。

#### 土層解説

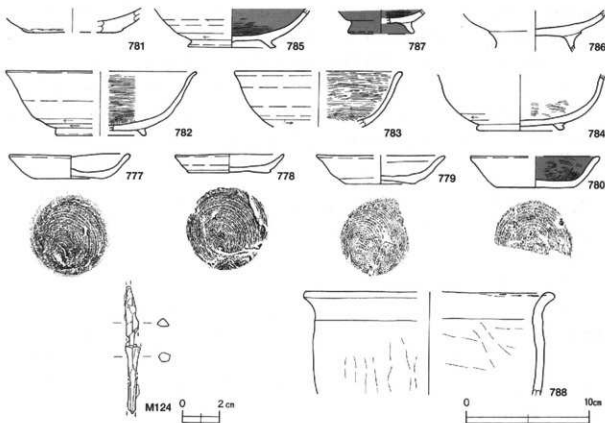
- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量   | 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量        |
| 2 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 4 濃い赤褐色 ローソク粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片248点(小皿5, 坏・碗99, 甕・瓶144), 不明鉄製品2点(釘カ1, 不明1), 混入した須恵器片13点が出土している。遺物は竈から南東コーナー部にかけてまとまって出土しており、竈の火床部からは782~784・786, 南東コーナー部の覆土下層からは779・785が出土している。



第250図 第1642号住居跡実測図

所見 出土した土師器小皿と坏は、胎土や手法の特徴から見て、当調査区の東部で確認された土器焼成遺構で焼かれたものと考えられる。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第251図 第1642号住居跡出土遺物実測図

第1642号住居跡出土遺物観察表 (第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
777	土師器	小皿	9.4	2.0	5.4	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	100%, PL60
778	土師器	小皿	8.6	1.5	6.7	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	100%, PL60
779	土師器	小皿	[10.3]	2.2	5.4	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部下層	50%
780	土師器	小皿	[10.2]	2.5	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	50%
781	土師器	坏	-	( 1.9)	[ 8.0]	石英	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	南壁際下層	
782	土師器	鉢	[15.2]	5.1	[ 7.0]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	竈火床部	45%
783	土師器	鉢	[13.4]	( 4.4)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	竈火床部	30%
784	土師器	鉢	-	( 4.5)	6.4	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床部	35%
785	土師器	鉢	-	( 3.1)	7.0	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	20%
786	土師器	鉢	-	( 3.3)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床部	30%
787	土師器	鉢	-	( 1.9)	[ 5.4]	雲母・赤色粒子	黒陶	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	南東部覆土中	10%
788	土師器	鉢	[16.6]	( 6.2)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面磨頭によるナデ、内面ヘラナデ	北東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M124	不明	( 6.7)	( 0.8)	( 0.8)	( 4.1)	鉄	錆化が激しく、形状不明	南東部床面	PL83

第1643号住居跡 (第252・253図)

位置 調査区南部のU 8 区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第181号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。傾斜した地形のため、壁の立ち上がりは東部と北部で確認されただけである。北壁の高さは5cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、竈の手前から出入り口付近にかけて踏み固められており、壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されており、袖部幅は145cmほどである。天井部は遺存せず、袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を若干掘りくぼめた皿状を呈し、被熱痕はほとんど見られない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                 |          |                             |
|----------|-----------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗 褐色   | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量       | 4 灰 褐色   | 灰中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量       |

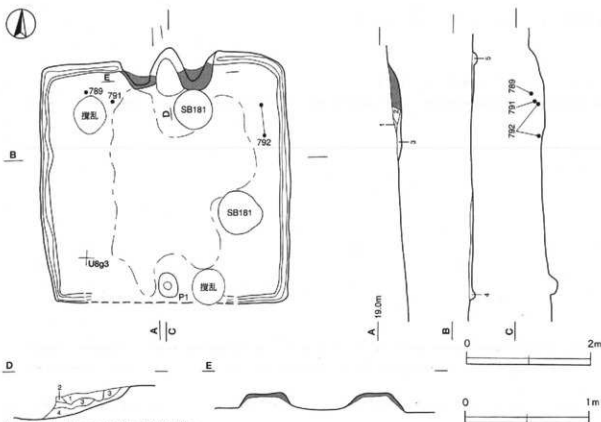
ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは14cmである。

覆土 5層からなる。竈周辺を除くとほぼ単一層であり、自然堆積の可能性が高い。

土層解説

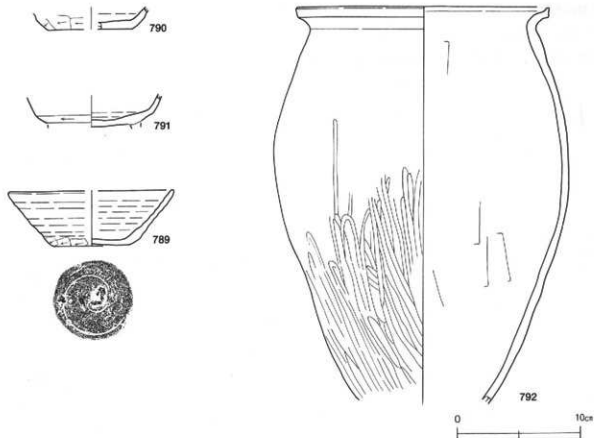
- |        |                         |          |                            |
|--------|-------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     | 3 極 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 4 黒 褐色   | ローム粒子少量                    |
|        |                         | 5 暗 褐色   | ローム粒子中量                    |

遺物出土状況 土師器片132点(杯・碗12, 甕・瓶120), 須恵器片24点(杯・高台付杯10, 蓋4, 甕・瓶10)が出土している。遺物は遺構の遺存状態を反映して、北壁際を中心に出土している。789は北西部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。また、792は北東部の覆土下層から二つに割れた状態で出土した破片が接合したものである。



第252図 第1643号住居跡実測図

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第253図 第1643号住居跡出土遺物実測図

第1643号住居跡出土遺物観察表 (第253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
789	炊煮器	坏	[13.0]	4.4	6.3	雲母・長石・石英	にぶい陶	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	北西部下層・ 覆土中	45%
790	炊煮器	坏	-	(1.7)	[6.8]	長石・石英	灰黄陶	普通	底部一方向のヘラ削り	南西部覆土中	20%
791	炊煮器	高台付坏	-	(2.6)	-	雲母・長石・石英	黒陶	普通	底部回転ヘラ削り、高台削り付け板	北西部下層	30%
792	土師器	壺	20.0	(31.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ書き、内面ヘラナデ	北東部下層	80%、PL61

#### 第1646号住居跡 (第254図)

位置 調査区南部のU 8 e3区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第1635号住居跡を掘り込み、第181号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 壁の立ち上がりが不明のため、竈の位置と暗褐色を呈した床面の広がりから、長軸3.90m、短軸3.50mほどの長方形と推定される。主軸方向は、N-88°-Wである。

床 ほぼ平坦で、竈の手前が踏み固められている。

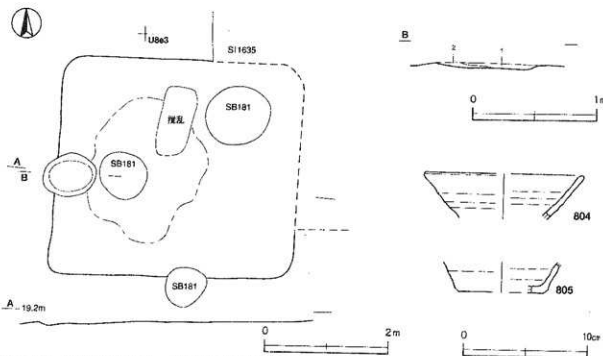
竈 西壁中央部に付設されている。袖部や天井部は遺存せず、火床面だけが確認されている。火床部は皿状に浅く掘りくぼめられて、わずかに赤変している。

遺土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量  
 2 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・砂粒少量

遺物出土状況 上層器片20点(坏3, 甕・瓶17), 須恵器片8点(坏4, 蓋2, 甕2)が散在して出土している。804・805は床面上から出土している。

所見 時期は, 出土し器から8~9世紀と考えられる。



第254図 第1646号住居跡・出土遺物実測図

第1646号住居跡出土遺物観察表 (第254図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
804	須恵器	坏	(12.6)	(3.1)	-	雲母・灰石	灰青陶	普通	底部ロケロナデ	北西部床面	
805	須恵器	坏	-	(2.5)	(6.8)	灰石	黄灰	普通	底部下縁・底部下縁へち割り	北西部床面	

第1647号住居跡 (第255・256図)

位置 調査区中央部のT8j3区に位置し, 平坦な台地の縁辺部に立地している。

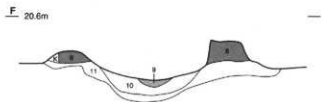
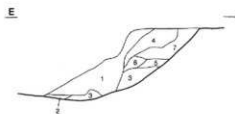
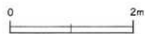
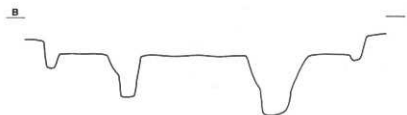
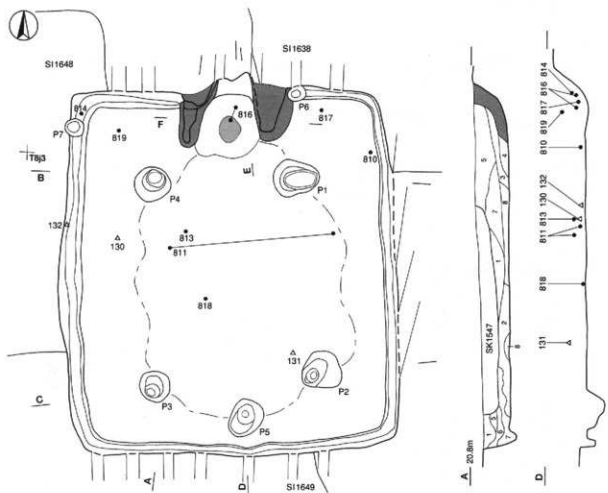
重複関係 第1638・1648・1649号住居跡を掘り込み, 覆土上層を第1547号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.85m, 短軸5.35mほどのほぼ方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は12~34cmで, 各壁ともほぼ直立している。

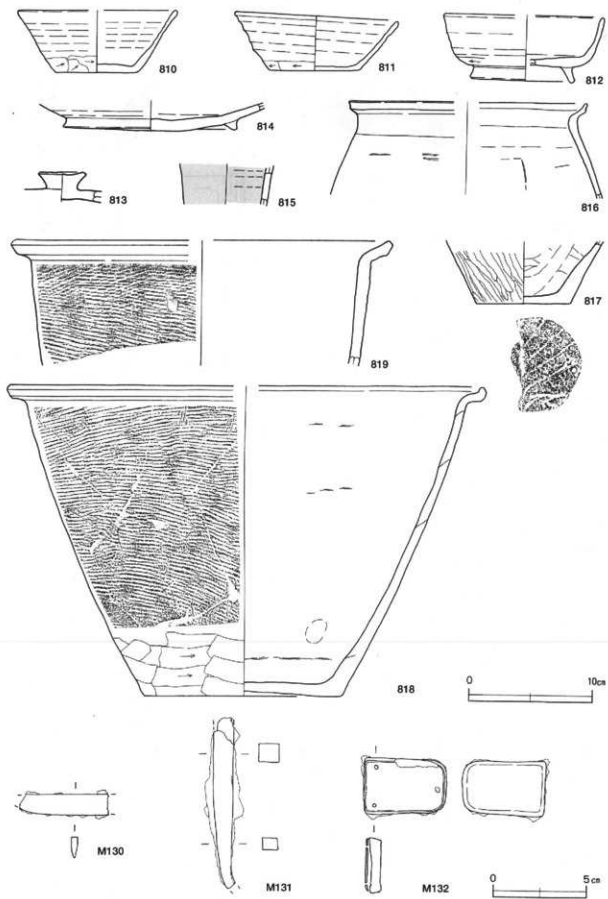
床 ほぼ平坦で, ビットの内側が踏み固められている。また, 壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており, 規模は焚1部から煙道部まで140cm, 袖部幅180cmほどである。天井部は遺存せず, 袖部と火床部は床面の高さから30cmほど掘りくぼめられた部分にローム土を埋め戻して構築されている。火床部は皿状を呈し, 火床面が赤変硬化している。煙道は急な傾斜で立ち上がっている。





第255图 第1647号住居跡災測図



第256图 第1647号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

- |          |                                  |         |                                 |
|----------|----------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量                | 7 暗褐色   | ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、              |
| 2 黒色     | 炭化物多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量             | 8 濃い青褐色 | 粘土粒子・炭化粒子微量                     |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量                  | 9 暗赤褐色  | 焼土粒子・砂粒多量、ロームブロック中量、            |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、<br>焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量         |
| 5 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量             | 11 暗褐色  | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 灰黄色    | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、<br>焼土粒子微量   |         |                                 |

ピット 7か所。主柱穴はP1-P4が相当し、深さは64-97cmである。P5は深さ33cmで、出入り口施設に伴うピットである。P6・P7は溝内に位置しており、壁柱穴の可能性があるが、対応するピットは見当たらない。

覆土 8層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- |       |                               |       |                       |
|-------|-------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量         | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量           | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量           | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰黄色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |

遺物出土状況 土師器片517点(甕・甌517)、須恵器片419点(杯・高台付杯239, 釜34, 壺11, 甕・甌・鉢135)、灰釉陶器片3点(長頸瓶1, 不明2)、刀子1点、不明鉄製品1点、釘カ1点が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域から出土しており、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄された可能性が高い。818は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、812は竈とP4の覆土中、及び北東部と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M132は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。M132は鉄地金銅張りであり、当遺跡では類例がないものである。

第1647号住居跡出土遺物観察表(第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手造の特徴	出土位置	備考
810	灰釉器	杯	112.6	5.0	6.6	長石・石英	黄緑	普通	光沢・方面のへら削り	北東部下層	30%
811	須恵器	杯	13.2	4.7	7.2	長石・石英	灰	普通	底部回転へら削り後、ヘラナデ	中央部中層	70%
812	須恵器	高台付杯	12.8	5.3	7.0	長石・石英	灰	普通	底部回転へら削り後、高台削り付け	竈・ P4覆土中	底面内面磨成 43%
813	須恵器	壺	-	2.4	-	長石・石英	黄緑	普通	天幕部回転へら削り	中央部中層	10%
814	須恵器	甕	-	2.1	13.9	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転へら削り後、高台削り付け	北東部中層	底部内面磨成30%
816	土師器	甕	19.6	7.5	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外壁ヘラナデ	覆覆土中	10%
817	土師器	甕	-	5.0	7.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部内面下層削通によるナデ成部未形成	北東部中層	外面磨成付着
818	須恵器	鉢	137.8	21.9	16.0	雲母・長石・石英	黄緑	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ	中央部南面	30%、PL81
819	須恵器	甕	30.1	10.1	-	雲母・長石・石英	黄緑	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ	北東部上層	
823	灰釉陶器	長頸瓶	-	3.2	-	黒色粘土	灰白・ 灰オレンジ	良好	頸部ロクロナデ、輪軸技法不明	覆覆土中	鏡込可

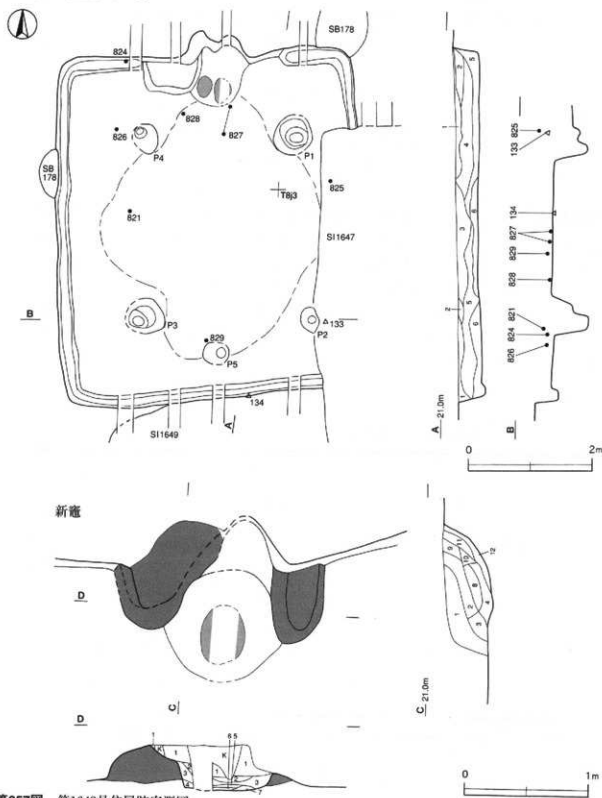
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M120	刀子	4.80	1.1	0.4	6.8	鉄	刃部の破片	西壁下層	PL79
M131	釘	9.1	1.2	1.0	138.6	鉄	断面方形の形状、片側が尖る	南東部下層	PL83
M132	不明	4.4	2.9	0.9	42.3	鉄地金銅張り	長さか不明、刃片の一部	西壁下層	PL82

第1648号住居跡 (第257・258図)

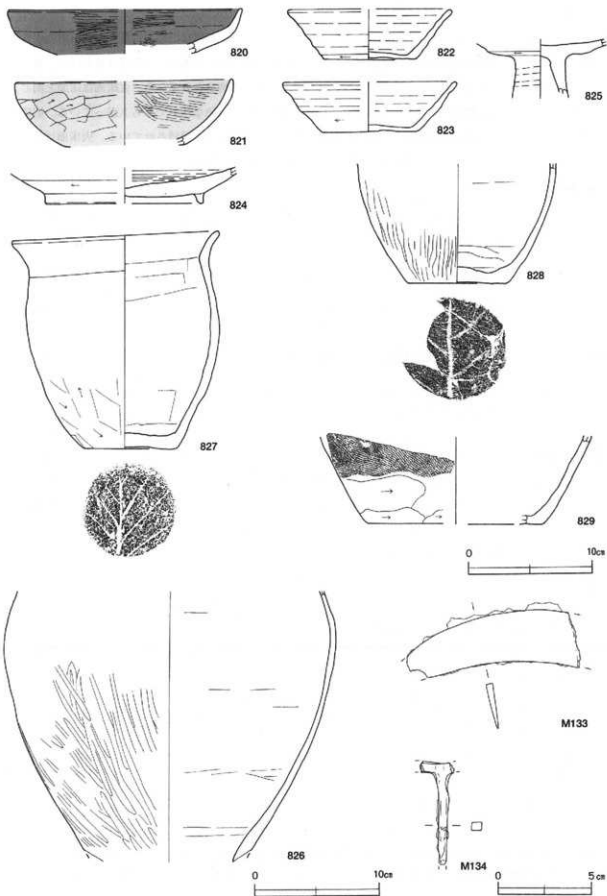
位置 調査区中央部のT8j2区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1649号住居跡を掘り込み、第1647号住居と第178号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.60m、短軸4.75mほどの長方形で、主軸方向は $N-6^{\circ}-W$ である。壁高は30~41cmで、各壁ともほぼ直立している。



第257図 第1648号住居跡実測図



第258图 第1648号住居跡出土遺物実測図

床 ほは平削で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、竈の作り替えが確認されている。新竈は旧竈の位置から若干干までずらして構築されており、規模は焚口部から煙道部まで135cm、袖部幅165cmほどである。天井部は遺存せず、袖部はローム土を突き固めた部分を基部としてその上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面で、火床面が熱然によって赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。旧竈の火床部と煙道部は、竈の掘り方調査時に西袖部を除去した際にその下部から確認されている。火床面は新竈と同様に地山面がそのまま使用され、赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	7 にふい赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒微量	8 照赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、炭化粒子・粘土粒子少量
3 にふい赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	9 灰 褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 灰 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	10 暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量
5 赤 褐色	焼土ブロック多量	11 暗 赤 褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物微量
6 灰 赤 色	焼土ブロック中量	12 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは52～68cmである。P5は深さ37cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

#### 土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片440点(皿1, 坏74, 甕・瓶365), 須恵器片251点(坏103, 釜21, 甕6, 甕・甌121), 鉄鏝1点, 不明鉄製品1点が出土している。遺物は覆土下層を中心に出土しており、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄された可能性が高い。828は竈手前の床面から土圧でつぶれた状態で出土したものに、竈内から出土した小破片が接合したものである。また、824は北壁際の覆土下層、820はP5内から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

第1648号住居跡出土遺物観察表 (第258図)

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	土師器	坏	18.4	3.5	-	雲母・長石・石英	にふい赤褐色	普通	内縁部・底部ヘラつき	P3覆土中	20%
821	土師器	坏	17.4	5.2	-	長石・赤色粘土	暗	普通	外部外面ヘラ削り、内面ヘラ置き	西部下層	15%
822	須恵器	坏	12.8	4.1	7.2	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、回転ヘラ削り	北東部下層	45%
823	須恵器	坏	13.6	4.0	7.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	北東部下層	45%
821	須恵器	甕	-	2.91	12.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、筒内削り付	北東部下層	20%
825	須恵器	高脚	-	4.8	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、脚部削り付	東部上層	20%
826	土師器	甕	-	21.6	-	雲母・長石・石英	にふい赤褐色	普通	外部内面ヘラ削り、下層滑油によるナデ	北西部下層	20%
827	土師器	甕	15.1	17.4	7.2	雲母・長石・石英	暗	普通	外部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	竈手前床面	75%, PL61
828	土師器	甕	-	9.6	8.0	雲母・長石・石英	明赤褐色	普通	外部内面ヘラ削り、下層滑油によるナデ	竈内・土層下層	20%
829	須恵器	甕	-	7.0	14.2	雲母・長石・石英	明	普通	外部内面ナデ	底部下層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	鏝	9.3	3.0	0.4	26.8	鉄	刃部の破片、直刃鏝	南東部下層	PL81
M131	不明	6.5	1.8	0.7	7.9	鉄	断面方形、丁字状	南東部下層	PL83

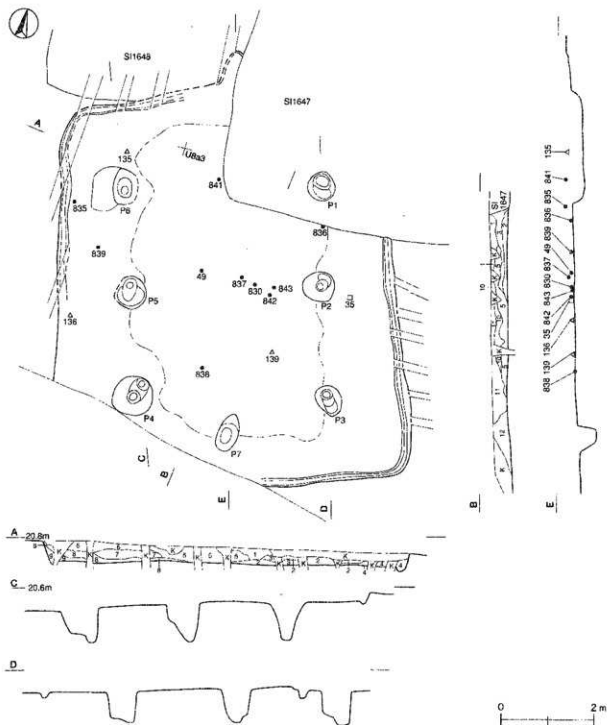
第1649号住居跡 (第259・260図)

位置 調査区中央部のU 8a3区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

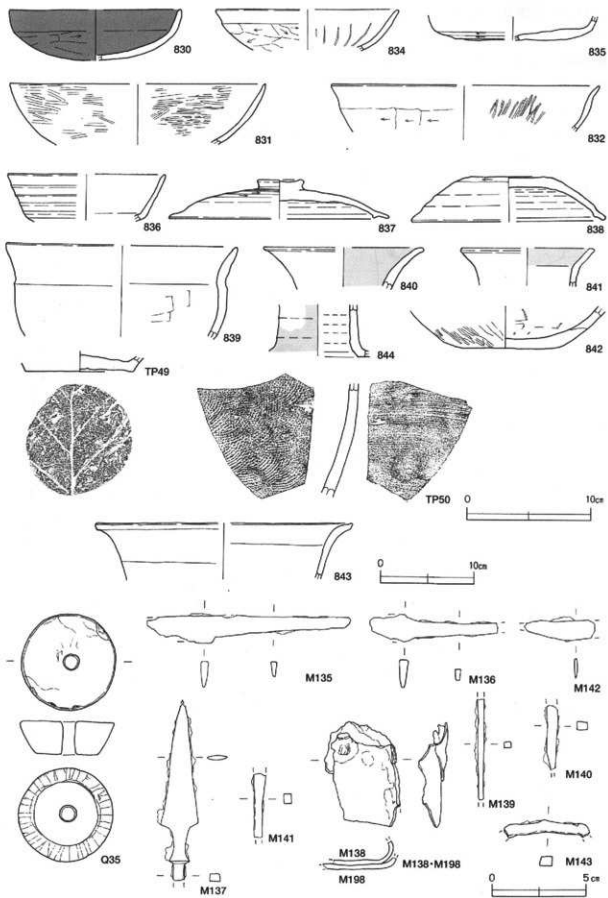
重複関係 第1647・1648号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.63m、短軸7.15mほどの長方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は20~32cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は攪乱を受けている南西部で不明瞭となるが、全周していたと推測される。



第259図 第1649号住居跡実測図



第260图 第1649号住居跡出土物実測図



竈 北壁の中央部に、壁外に50cmほど掘り込んで構築されている。他の遺構との重複や混乱が激しいため、竈遺部の一部が確認されただけである。付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと推測される。

ピット 7か所。主柱穴はP1～P6が相当し、深さは68～85cmである。P7は深さ40cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 12層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。覆土中層から上層にかけて炭化物の混入が見られる。

#### 土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	7 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
2 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	11 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片2233点(坏566, 鉢4, 甕・瓶1663), 須恵器片569点(坏311, 盃149, 釵2, 甕・瓶104, 瓶3), 刀子3点, 鉄鎌1点, 鉄鎌2点, 不明鉄製品4点, 石製紡錘車1点, 炭化種子1点(桃), 鉄滓1点が出土している。遺物は大半が覆土中層から下層にかけての出土であり、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと推測される。床面直上から出土したものととしては836・843があり、836は東部から、843は中央部から出土している。また、830は中央部、839は西壁際のいずれも床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。同時期で、住居の規模も類似する第1638号住居では補助柱穴という表現をとったが、本跡では規模から6本主柱と判断した。6本の主柱穴によって上層が支えられている構造は、当遺跡においては類例がないものである。

第1649号住居跡出土遺物観察表(第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	土師器	坏	[138]	4.1	-	長石	にぶい黄褐色	普通	体部外面へう割り、内面ナデ	中央部下層	30%
831	土師器	坏	[206]	[49]	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面へう割り	北西部上層	10%
832	土師器	坏	[214]	[37]	-	雲母・長石	明茶褐色	普通	口縁部横ナデ、体部外面横削へのう割り	西部下層	
834	土師器	坏	[146]	[33]	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部内面放射状の踏文、内外両面処理痕	P4覆土中	10%
835	須恵器	坏	-	[130]	[124]	雲母・石英	黄灰	普通	底部ナデ、外周部回転へう割り	西壁際上層	25%
836	須恵器	高内付鉢	[126]	[38]	-	雲母・長石・石英	茶褐色	普通	体部口ロナデ	東部床面	10%
837	須恵器	盃	[176]	3.1	-	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	天井部回転へう割り	中央部中層	50%
838	須恵器	盃	[154]	3.6	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転へう割り、つまみ接合痕無し	南部床面	30%
839	土師器	鉢	[184]	[74]	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	西壁際下層	
840	須恵器	瓶	[127]	[34]	-	燧石	灰黄	良好	口縁部口ロナデ	北西部上層	内面自然磨削痕
841	須恵器	瓶	[105]	[30]	-	長石	黄灰	良好	口縁部口ロナデ	東部上層	内面自然磨削痕
842	土師器	甕	-	[34]	9.1	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部内面・底面外面ヘラナデ	中央部下層	
843	土師器	瓶	[288]	[64]	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	中央部床面	
844	須恵器	長頸瓶	-	[42]	-	黒色粒子	灰白	普通	底部口ロナデ	南部中層	内面自然磨削痕

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色	濁	地味	手法の習熟	出土位置	備考
TP49	土師器	壺	-	(14)	9.1	赤母・長石・石英	にぶい	黄褐色	普通	底部内面指痕によるナゲ、外面本糸痕	中央部下層	
TP50	須恵器	壺	-	-	-	赤母・長石	灰青	普通	外面同心円状の叩き、内面ロクロナテ		P 4層1中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	系統	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	粘土板	5.0	5.0	1.8	58.8	粘板岩	孔径0.7~0.9cm、器面に1具による縦押の両面痕有り	東部床面	PL75
M135	刀子	(10.9)	2.4	0.4	(13.3)	鉄	刃部から基部にかけての破片、片断	北西部1層	PL79
M136	刀子	(6.8)	1.5	0.4	(8.3)	鉄	刃部から基部にかけての破片、両面	西壁階下層	PL79
M137	鍔	(9.5)	2.0	0.4	(13.9)	鉄	鍔身部から基部にかけての破片、両面進、台状凹、柳刃式	北部下層	PL80
M138	鍔	(3.6)	(4.2)	0.2	(16.7)	鉄	基部は全体を折り出す、M138と分類不可	北部中層	PL81
M198	鍔	(3.3)	(3.1)	0.2	(16.7)	鉄	基部の破片、M138と重ねられたまま錆化によって付着	北部中層	PL81
M139	不明	(5.4)	0.4	0.3	(2.5)	鉄	断面方形の棒状、両端欠損	中央部下層	
M140	不明	(3.3)	(0.6)	(0.4)	(1.8)	鉄	断面長方形の棒状、片側が欠る。	山西部上層	
M141	鍔	(3.4)	0.7	0.5	(3.0)	鉄	断面方形の棒状、両端欠損	東部中層	
M142	刀子	(2.8)	1.1	0.2	(4.9)	鉄	刃部の破片	東部下層	
M143	不明	(4.5)	0.7	0.5	(8.5)	鉄	断面方形の棒状、両端欠損	南西部下層	

### 第1651号住居跡 (第261~263図)

位置 調査区南部のV7b8区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第1650号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.60mほどの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は40~46cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が凹んでいる。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cm、袖部幅120cmほどで、壁外への掘り込みは55cmである。土層断面からは天井部の崩落した部分が明瞭にとらえられ、第2・4層が相当する。火床部は浅い皿状を呈し、煙道の立ち上がり部には土製の支脚が据えられている。また、煙道は径12cmほどの円筒状を呈し、急な傾斜で直線的に立ち上がっており、上面が被熱によって赤変している。

#### 出土層解説

1	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量	11	黒褐色	焼土粒子微量
2	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量	13	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化物中量	14	暗褐色	ロームブロック中量
5	灰褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量	15	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	16	暗褐色	砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量	17	褐色	砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	炭化物多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量			
9	黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量			
10	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量			

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは20cmである。

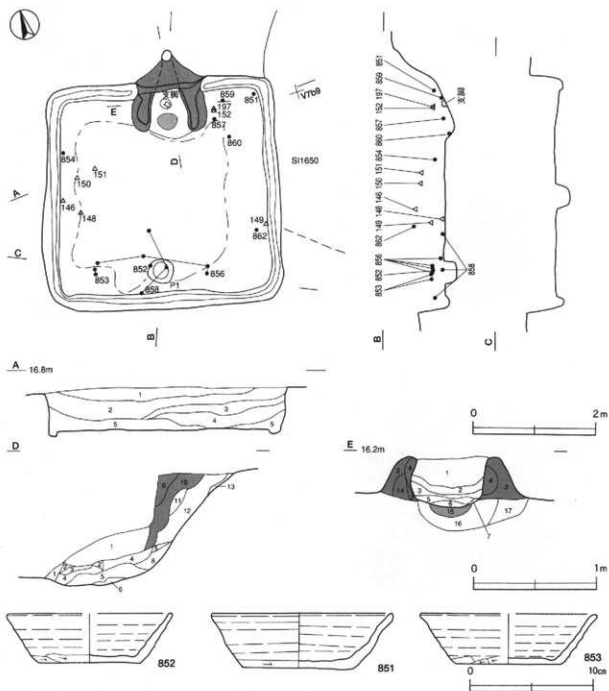
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。中位に東側からのロームブロックの投げ込みが認められる。

#### 土層解説

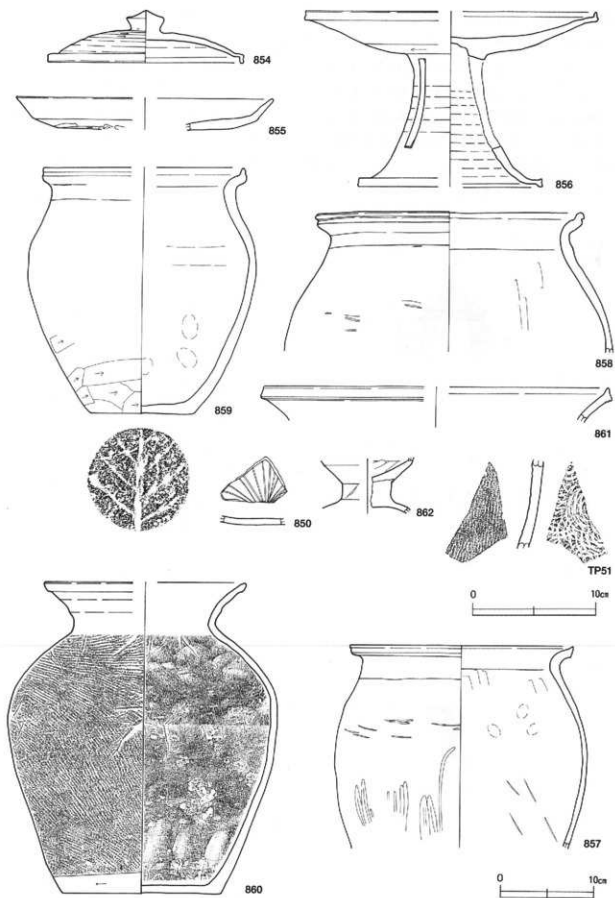
1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片437点（坏49，皿1，甕・瓶386，ミニチュア1），須恵器片101点（坏・高台付坏55，蓋16，盤・高盤2，甕・瓶28），鉄鍬2点，鉄鎌1点，火打金1点，刀子1点，不明鉄製品3点（楔1，不明2）が出土している。遺物はほぼ全域から出土しており，破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが多いことから，大半は廃絶後の窟地を利用して投棄されたものと考えられる。床面直上から出土したものとしては856・858・860があり，特に860は北東部の床面から直立した状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，857・859は860の北側の床面から出土している。

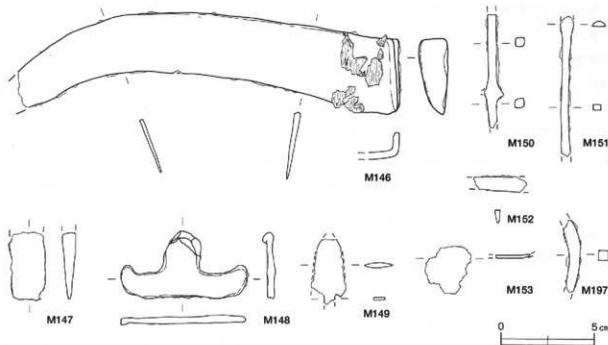
所見 多くの鉄製品が出土しており，当時の鉄器保有形態の一端をうかがい知ることができる。廃絶時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第261図 第151号住居跡出土遺物実測図



第262图 第1651号住居跡出土遺物実測図(1)



第263図 第1651号住居跡出土遺物実測図(2)

第1651号住居跡出土遺物観察表 (第261~263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
850	土師器	環	-	(0.5)	-	雲母・長石	明赤褐色	普通	底部内面放射状の筋文、外面ヘラ削り	覆土上層	
851	須恵器	環	14.3	4.5	8.8	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北東部下層	100%, PL62
852	須恵器	環	[13.0]	3.9	8.0	長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	南部下層	30%
853	須恵器	環	[14.0]	4.0	8.2	雲母・長石・石英	黒	普通	底部回転ヘラ削り後、多方向のヘラ削り	南西部下層	30%
854	須恵器	壺	15.6	4.1	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部下層	100%, PL62
855	土師器	甗	[20.4]	2.5	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面ナデ、外面ヘラ削り	覆土上層	20%
856	須恵器	高盤	[23.2]	14.0	[14.8]	雲母・長石・石英	灰	普通	脚部にヘラ切りによる透かし3か所	南部下層	50%, PL62
857	土師器	甗	23.8	(21.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面上半ヘラナデ、下半ヘラ削り	北東部床面	30%
858	土師器	壺	21.0	(11.2)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	南部下層	10%
859	土師器	甗	[16.0]	19.6	8.2	雲母・長石・石英	暗赤褐色	普通	体部外面上半ナデ、下半ヘラ削り	北東部床面	■材料8.70%/PL61
860	須恵器	甗	[21.2]	33.2	17.0	雲母・長石・石英	灰	普通	体部内面無文の古て具表	北東部床面	90%, PL62
861	須恵器	甗	[27.6]	( 2.7)	-	長石	灰白	良好	口縁部クロロナデ	南西部中層	南西壁
862	土師器	ミニチュア	-	( 4.3)	-	雲母	にぶい橙	普通	杯部・脚部・底部ナデ	東壁際上層	30%
TP51	須恵器	大甗	-	-	-	長石	青灰	普通	外面平行引き後、カキ目	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M146	鐏	(20.3)	4.0	0.4	(96.2)	鉄	刃先部欠損。継ぎ目付着。基部は全体を折り返す	西壁部中層	PL81
M147	板	( 3.6)	1.9	( 0.6)	(12.1)	鉄	断面長方形。片側が薄くなる	南東部中層	PL82
M148	火打金	6.8	3.6	0.5	20.6	鉄	定形。孔不明。両端部は上方に彎曲	西部下層	PL83
M149	鐏	( 3.5)	( 1.9)	0.3	( 2.9)	鉄	両丸造。縁状不明	東壁際下層	PL80
M150	鐏	( 6.0)	( 1.0)	( 0.5)	( 5.9)	鉄	断面長方形。縁状	北西部下層	PL80
M151	鐏	( 7.4)	0.8	0.3	( 4.8)	鉄	片丸造。基部不明	北西部下層	
M152	刀子	( 2.9)	( 0.8)	0.3	( 1.5)	鉄	刃部の破片	北東部下層	
M153	不明	( 2.4)	( 2.4)	0.2	( 3.2)	鉄	板状	覆土上層	
M197	不明	( 3.9)	0.8	0.5	( 2.5)	鉄	断面方形の棒状。縦やかに彎曲	北東部下層	

第1652号住居跡 (第264・265図)

位置 調査区南部のU77区に位置し、台地から低地へ下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1655号住居跡を掘り込み、第1653号住居に掘り込まれている。

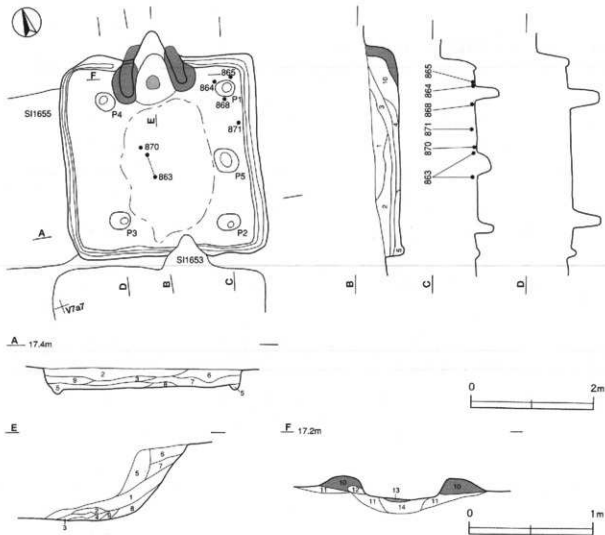
規模と形状 長軸3.20m、短軸3.15mほどの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は5~52cmで、傾斜した地形のために南側部分ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、南壁際の中央部から竈の手前にかけて踏み固められている。また、壁溝が周囲している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅135cmほどである。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を床面の高さまで埋め戻して使用され、火床面は亦変硬化している。また、煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                              |           |                                |
|----------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗 褐 色  | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量        | 8 黒 褐色    | 粘土粒子・砂粒・炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量                | 9 黒 褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量    |
| 3 黒 褐色   | 炭化粒子多量、焼土粒子中量、灰少量            | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子微量         |
| 4 灰 褐色   | 焼土粒子・炭化粒子中量                  | 11 灰 暗 褐色 | ローム粒子少量、砂粒微量                   |
| 5 黒 褐色   | 焼土粒子微量                       | 12 暗 褐色   | ロームブロック少量                      |
| 6 黒 褐色   | 粘土粒子・砂粒中量、炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量                       |
| 7 黒 褐色   | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 14 黒 暗 褐色 | 砂粒中量、ロームブロック微量                 |



第264図 第1652号住居跡実測図

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは28～48cmである。P5は深さ23cmで、P1とP2の中間に位置しており、補助柱穴の可能性はある。

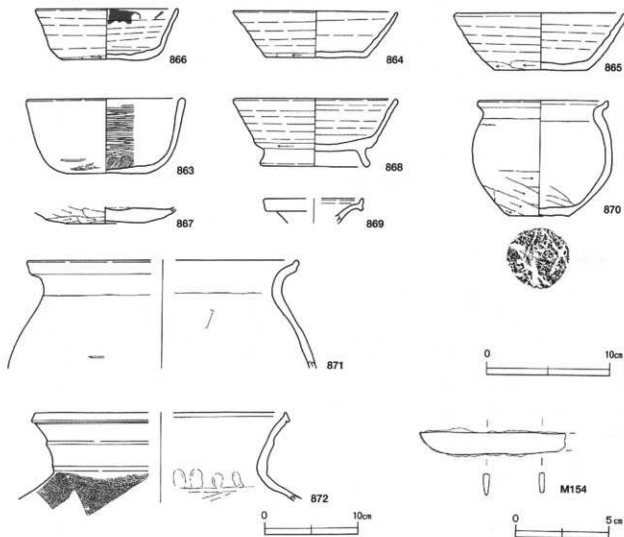
覆土 10層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- |       |                      |         |                            |
|-------|----------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量              | 7 暗褐色   | ロームブロック多量                  |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量  | 8 極暗褐色  | 炭化粒子中量、ローム粒子少量             |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量        |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量       | 10 黒褐色  | 焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量              |         |                            |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量            |         |                            |

遺物出土状況 土師器片194点(坏23, 甕・瓶171), 須恵器片66点(坏・高台付坏27, 壺1, 盤・高盤1, 長頸瓶1, 甕・瓶36), 灰胎陶器片2点(長頸瓶), 土製支脚1点, 刀子1点がほぼ全域から散在して出土している。床面直上から出土しているのは863～865・868・870・871で、そのうち864・865・868は北東コーナー部から正位で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、油煙の付着した866は南西コーナー部の覆土下層から、硯に転用された867は西墻際の覆土下層から出土している。

所見 本住居のように、台地から低地に下りる斜面部に立地する住居の大半は、4m四方未満の小形のものである。廃絶時期は、出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第265図 第1652号住居跡出土遺物実測図

第1652号住居跡出土遺物観察表 (第265図)

番号	器種	口径	底径	底厚	胎土	色調	成成	丁法の特徴	出土位置	備考		
863	土師器	片	12.4	6.0	6.9	赤色粘土	に赤い黄褐色	普通	体部外面ヘラ刮ナテ	中央部床面	80%, PL62	
864	須恵器	片	13.1	3.7	8.0	灰白・石灰	灰	普通	底面回転ヘラ切り残	ヘラナテ	北東部床面	80%, PL62
865	須恵器	片	13.8	4.6	7.6	灰白・長石・石灰	灰	普通	底面二方向ヘラ刮リ		北東部床面	80%, PL62
866	須恵器	片	11.2	4.1	6.6	雲母・長石・石灰	黄灰	普通	底面回転ヘラ切り残	多方向ヘラ刮リ	南西部下層	法検? 80%, PL63
867	須恵器	片	-	(1.2)	6.0	雲母・長石・石灰	黄灰	普通	底面多方向ヘラ刮リ		西側土層	内面擦減10%
868	須恵器	筒状片	13.0	5.4	8.2	雲母・長石・石灰	黄灰	普通	底面回転ヘラ刮リ残	高台粘り付	北東部床面	60%, PL62
869	須恵器	長短版	[ 7.8 ]	1.9	-	長石	灰	良好	縁部回転ヘラ刮リ		北東部下層	
870	土師器	小形壺	10.2	9.2	4.8	雲母・長石・石灰	に赤い赤褐色	普通	体部外面ヘラ刮リ	内面ナテ	中央部床面	95%, PL63
871	土師器	壺	[ 21.4 ]	( 8.0 )	-	雲母・長石・石灰	灰	普通	体部内・外面ヘラナテ		東側部床面	
872	須恵器	壺	[ 26.6 ]	( 9.7 )	-	長石	灰白	良好	頸部内面滑面取	体部内面ヘラナテ	北西部中層	縁部取

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
M154	刀子	( 7.8 )	1.2	0.4	( 11.3 )	鉄	刃部から基部にかけての破片	機部不明	片割	北西部上層	PL79

## 第1653号住居跡 (第266図)

位置 調査区南部のV 7a7区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1652号住居跡を掘り込み、第106号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.35m、短軸3.20mほどの方形で、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は15-32cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から窓の手前にかけて踏み固められている。また、壁溝は北壁際の一部を除いて周囲している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅120cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱によって赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には土製の支脚が据えられ、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

## 竈土層解説

- |          |                               |           |                  |
|----------|-------------------------------|-----------|------------------|
| 1 極暗褐色   | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量         | 7 黒褐色     | ローム粒子・砂粒少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色    | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック、焼土粒子微量      | 8 暗褐色     | ロームブロック中量        |
| 3 に赤い黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 黒褐色     | 炭化粒子多量、焼土ブロック中量  |
| 4 暗褐色    | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量         | 10 に赤い黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量        |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック多量、炭化物中量                | 11 暗褐色    | 粘土粒子・砂粒中量        |
| 6 黒褐色    | 炭化物多量、焼土ブロック中量                | 12 暗褐色    | ローム粒子中量          |
|          |                               | 13 暗赤褐色   | 焼土粒子多量、炭化粒子微量    |

ピット 4か所。P1-P3は深さ14-27cmで、配置からみて支柱穴の可能性があるが、4本土柱を想定した場合の北西部の柱穴が確認されていない。P4は深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

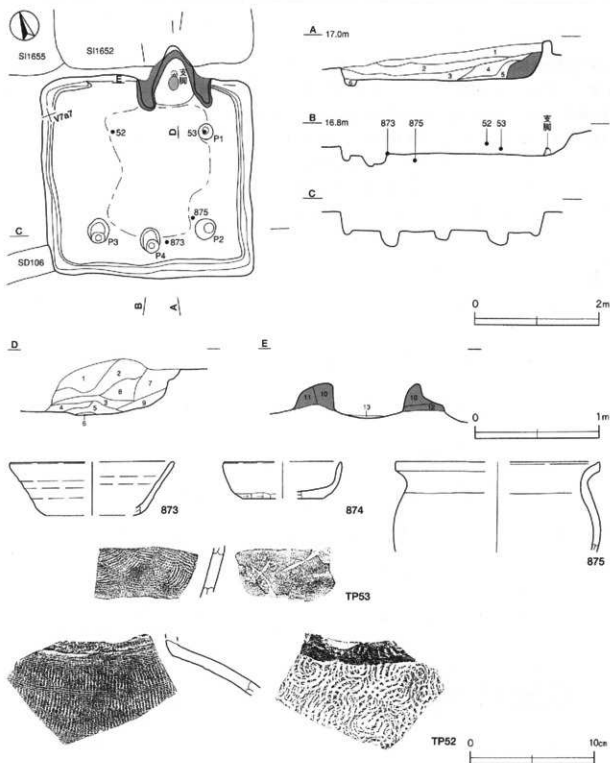
## 土層解説

- |       |                            |      |                            |
|-------|----------------------------|------|----------------------------|
| 1 新褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量     | 5 褐色 | ローム粒子多量                    |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量                    | 6 褐色 | ロームブロック多量                  |

遺物出土状況 土師器片109点(環20、壺・甗89)、須恵器片37点(環24、蓋2、盤1、甗・甗10)が出土している。遺物は中央部の覆土下層を中心に出土しており、破断面の摩滅した細片が多いことから、大半は廃絶後



の窪地に流入したものと考えられる。875は南東部の床面から、873は同じく南部の覆土下層から出土している。  
 所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。本住居の竈は、この時期の一般的な傾向である北壁の中央部には構築されていない。小形の住居であることや作り替えた痕跡が認められないことなどから、竈の付設場所として当初から北壁の東寄りの位置を選定し、室内空間の有効活用を図ったとも考えられる。



第266図 第1653号住居跡・出土遺物実測図

第1653号住居跡出土遺物観察表 (第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
873	須恵器	坏	[13.0]	4.3	[ 7.6]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	南部下層	30%
874	須恵器	坏	[ 9.4]	3.0	[ 6.4]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	覆土中	10%
875	土師器	甕	[16.4]	( 7.2)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ	南東部床面	
TF52	須恵器	大甕	-	-	-	長石	青灰	普通	外面平行明き後、カキ目	北西部中層	TF51と同器種
TF53	須恵器	甕	-	-	-	雲母・石英	黒褐色	普通	外面同心円状の明き、内面ナデ	北東部中層	

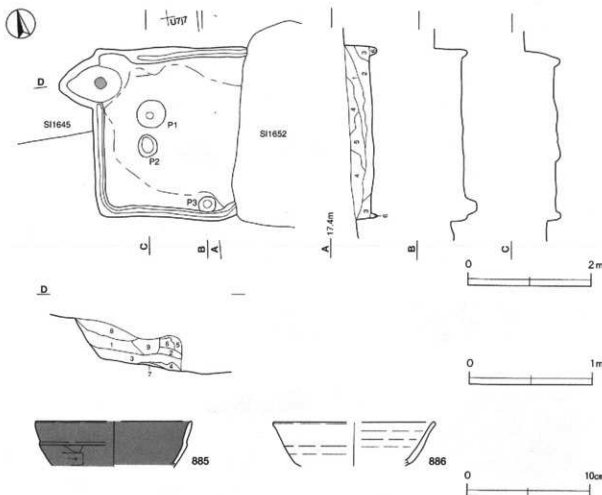
第1655号住居跡 (第267図)

位置 調査区南部のU7j6区に位置し、台地から低地へ下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1645号住居跡を掘り込み、第1652号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は2.70mで、東西軸は第1652号住居に掘り込まれているために2.30mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推測され、主軸方向はN-82°-Wである。壁高は12~42cmで、傾斜した地形のために南側部分ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。



第267図 第1655号住居跡・出土遺物実測図

**壁** 北西コーナー部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cmほどで、壁外への掘り込みは60cmである。天井部と袖部は遺存せず、付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用しており、火床面が焼熟し、赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

**壁土層解説**

- |         |                         |         |                          |
|---------|-------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色   | ロームブロック中量、焼土粒子少量         |
| 2 暗赤褐色  | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 濃い赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量            |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量         | 8 暗褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色   | 炭化物中量、焼土ブロック少量          | 9 暗褐色   | ローム粒子少量、焼土ブロック微量         |
| 5 暗褐色   | ローム粒子・砂粒中量              |         |                          |

**ピット** 3か所。深さはP1が8cm、P2が9cm、P3が23cmで、配置や規模に規則性が見られず、性格は不明である。

**覆土** 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

**土層解説**

- |        |                  |       |                    |
|--------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック中量        | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量    |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量        | 6 暗褐色 | ローム粒子中量            |

**遺物出土状況** 土師器片59点（坏17、甕・瓶42）、須恵器片5点（坏3、甕2）が散在した状態で出土している。885は北西部の覆土下層、886は竈内から出土している。

**所見** 産絶時期は、出土土器と重複関係から8世紀前半かそれ以前と考えられる。

**第1655号住居跡出土遺物観察表（第267図）**

番号	器名	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
885	土師器	坏	124	3.6		灰母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へツ振り、内面ナデ	北西部下層	
886	須恵器	杯	129	3.5		灰母・長石・石英	黄灰	普通	体部口ロケナデ、フチ手持ちヘツ振り	竈内	

**第1656号住居跡（第268図）**

**位置** 調査区南部のV8d3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

**重複関係** 第1658号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は3.30mで、東西軸は2.05mだけが確認されており、硬化面の広がりから見てN-0°を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は10cmほどで、壁は直立している。

**床** はほぼ平坦で、硬化面が南北に長く確認されている。また、壁溝が周囲している。

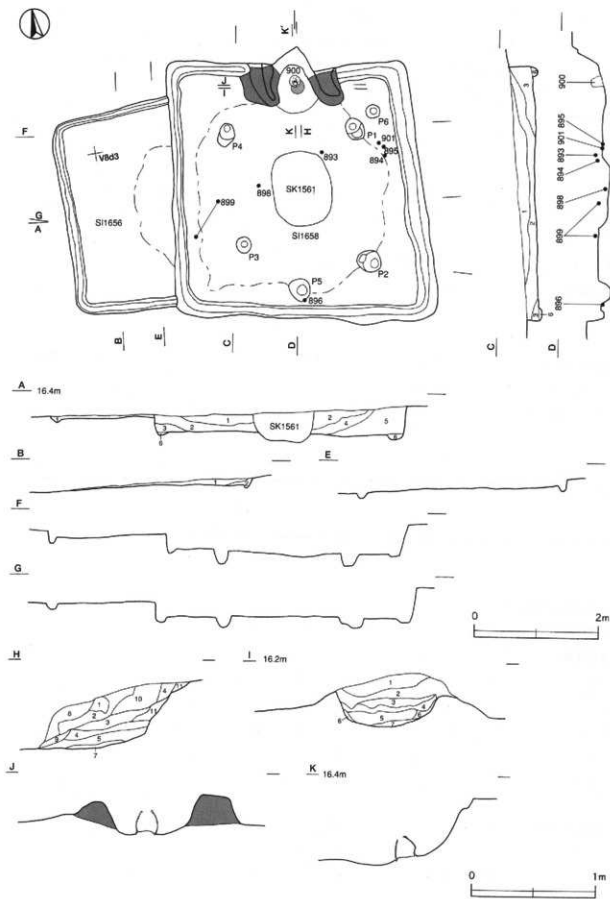
**覆土** 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|----------------|-------|---------|

**遺物出土状況** 土師器片14点（坏・高台付坏5、甕・瓶9）、須恵器片4点（坏）、混入した石鏝1点が出土している。

**所見** 時期は重複関係から9世紀後半以前と考えられるが、出土土器が細片のため詳細な時期は不明である。



第268图 第1656·1658号住居跡实测图

### 第1658号住居跡（第268～270図）

**位置** 調査区南部のV 8 d3区に位置し、台地から低地へ下りる斜面部に立地している。

**重複関係** 第1656号住居跡を掘り込み、第1561号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.05m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は25～48cmで、各壁ともほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖幅155cmほどである。袖部は砂質粘土で構築され、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道の立ち上がり部には底部を欠いた土師器甕が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |        |                              |          |                                   |
|--------|------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、<br>焼土粒子微量 | 7 灰褐色    | 焼土ブロック・灰多量、炭化粒子中量                 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量          | 8 黒褐色    | ロームブロック少量                         |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・ロームブロック中量            | 9 黒褐色    | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量                  |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量                | 10 廃棄褐色  | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・<br>炭化粒子少量   |
| 5 黒褐色  | 炭化物多量、焼土粒子少量                 | 11 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・<br>粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 暗褐色  | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量             |          |                                   |

**ピット** 6か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは18～24cmである。P 5は出入口施設に伴うピットで、深さ21cmである。P 6は深さ22cmで、性格不明である。

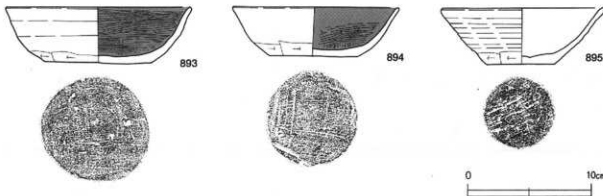
**覆土** 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

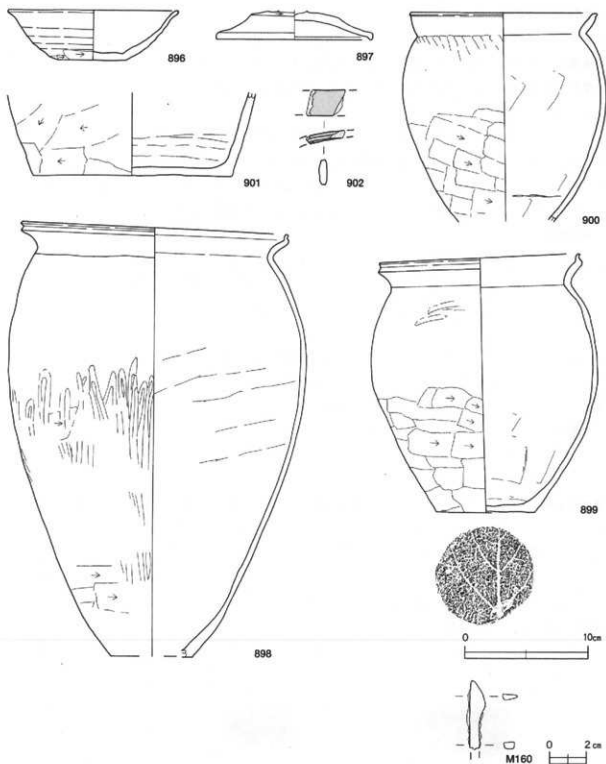
- |        |                   |        |                              |
|--------|-------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、<br>炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色  | 焼土粒子少量、ローム粒子微量    | 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量          |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量      | 6 黒褐色  | ローム粒子微量                      |

**遺物出土状況** 土師器片240点（坏・碗33、甕・瓶207）、須恵器片141点（坏・高台付坏53、蓋2、甕・瓶86）、灰釉陶器片2点（瓶、壺）、鉄器1点が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域から出土しており、特に土師器類の細片が多い。898は中央部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。また、896は南壁際の床面から、901は東壁際の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。900は支脚として転用された土師器甕で、被熱痕が認められる。

**所見** 廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。台地から低地へ下りる斜面部においては4本主柱の住居は少なく、本住居はその少ない事例の一つである。



第269図 第1658号住居跡出土遺物実測図(1)



第270図 第1658号住居跡出土遺物実測図(2)

第1658号住居跡出土遺物観察表 (第269・270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
893	土師器	坏	14.7	4.6	8.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部下層	95%, PL.63
894	土師器	坏	13.2	4.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部下層	100%, PL.63
895	須恵器	坏	12.9	4.5	5.4	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	不貞	底部一方向のヘラ削り	北東部床面	100%, PL.63

番号	器種	口径	高さ	底径	底厚	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
886	須恵器 坏	13.6	4.0	3.3	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	不良	底部一方向へのへり削り	内腹際底部	70%	
887	須恵器 蓋	12.4	(2.2)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	天井部縁へへり削り、つまみ接合痕	南東部上層	90%, PL63	
888	土師器 甕	21.0	34.6	16.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面へへり削り、内面へうたが	中央部下層	60%, PL64	
889	土師器 甕	16.0	29.7	7.3	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面へへり削り、内面へうたが	西腹部下層	85%, PL61	
900	土師器 甕	14.8	(16.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面へへり削り、内面へうたが	西腹部下層	50%, PL65, PL66	
901	須恵器 甕	-	(6.7)	13.9	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面腹位のへり削り、上端へうたが	南腹際底部	30%	
902	灰青陶器 平皿	-	(0.6)	-	雲母・黒色粘土	黒・灰青	良好	手削り	南東部下層	検出	

### 第1657号住居跡 (第271区)

位置 調査区南部のV 8 d区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。

重複関係 第1659・1665・1670号住居と第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は5.20mで、南北軸は第103号溝に掘り込まれているために3.80mだけが確認されており、N-25°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は30~45cmほどで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壕溝は確認された壁際を囲回している。

壁 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅135cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面図中の第2層が崩落土に相当する。袖部は砂質粘土で構築されており、右袖の内側には被熱痕が認められる。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分にローム土が埋め戻されて皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

#### 覆土層解説

- |          |                            |          |                             |
|----------|----------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 黒褐色    | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量        | 7 灰褐色    | 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色   | 粘土粒子多量                     | 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量                   |
| 3 灰黄褐色   | 粘土粒子多量、粘土粒子中量              | 9 暗褐色    | 粘土粒子中量、ロームブロック少量            |
| 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、粘土粒子中量              | 10 暗褐色   | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量     |
| 5 黒褐色    | 炭化物多量、粘土ブロック少量             |          |                             |
| 6 灰褐色    | 粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、ロームブロック少量 |          |                             |

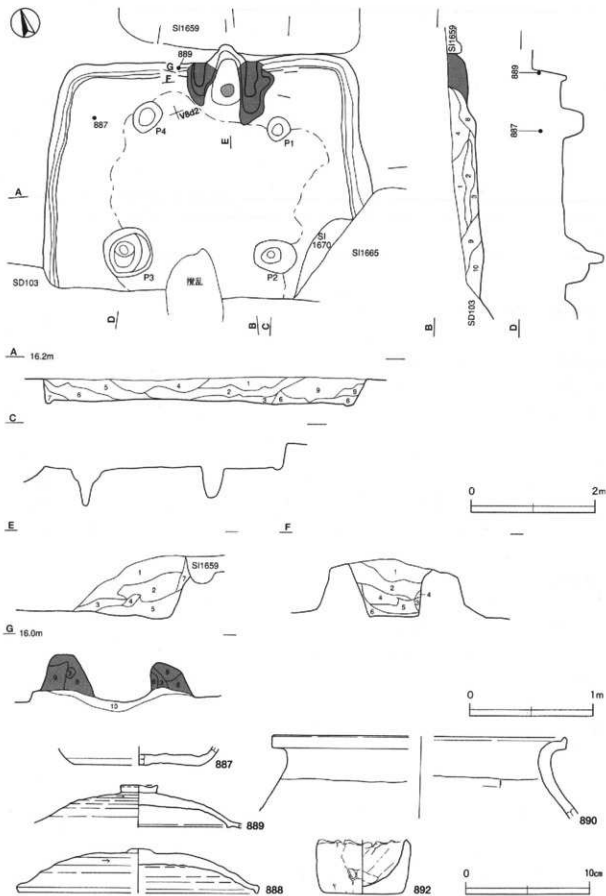
ピット 4か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さはP1・P4が46・35cm、P2・P3が60・63cmと、南向に位置する柱穴が深くなっている。

覆土 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                            |        |                                 |
|-------|----------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化物・粘土粒子少量          | 7 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量      |
| 2 灰褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、粘土粒子・粘土粒子少量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量   | 9 暗褐色  | ロームブロック・砂粒少量、粘土ブロック・炭化粒子少量      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量     | 10 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量             |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量                  |        |                                 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |        |                                 |

遺物出土状況 土師器片300点(坏43、甕・甔256、手捏1)、須恵器片32点(坏・高台付坏18、蓋4、甕・甔10)が出土している。遺物は竈周回から多く出土しており、889は竈西側の覆土上層から出土している。また、887は北西コーナー部の覆土上層から出土している。



第271图 第1657号住居跡・出土遺物実測図



所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第1657号住居跡出土遺物観察表 (第271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
887	須恵器	坏	-	(1.5)	[10.2]	長石・石英	灰	普通	底部回転へう割り	北西部上層	15%
888	須恵器	蓋	[19.0]	(3.2)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転へう割り	南東部床面	45%
889	須恵器	蓋	-	(3.4)	-	雲母・長石・石英	にぶい陶	普通	天井部回転へう割り	東西壁上層	45%
890	土師器	甕	[21.0]	(6.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい陶	普通	口縁部横ナデ	南東部床面	
892	土師器	手捏	[6.9]	4.3	6.0	赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部指面によるナデ	南東部上層	25%

第1659号住居跡 (第272・273図)

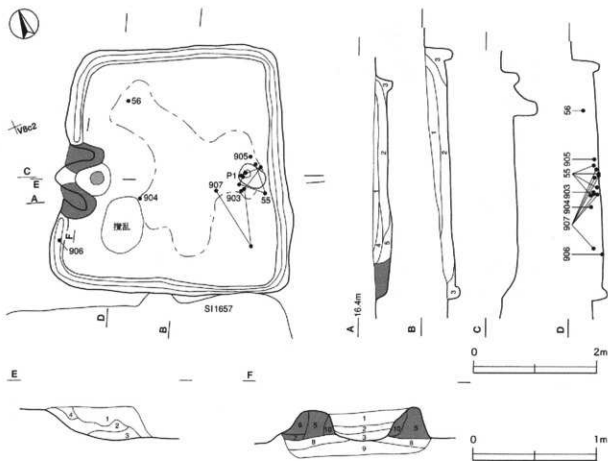
位置 調査区南部のV 8c3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1657号住居跡を掘り込んでいる。

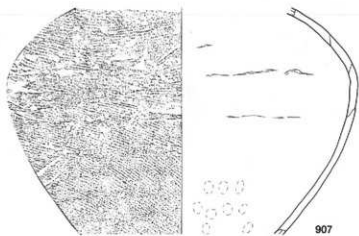
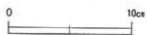
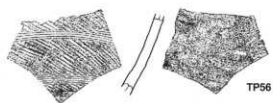
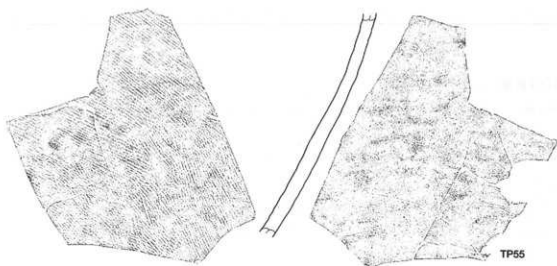
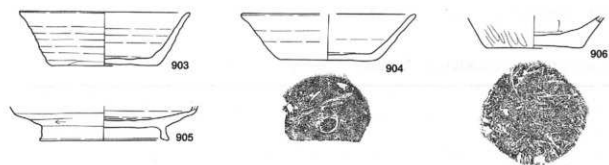
規模と形状 長軸3.90m、短軸3.80mほどの方形で、主軸方向はN-63°-Wである。壁高は15~32cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 西壁の中央部に砂質粘土で構築されており、規模は焚き口から煙道部まで90cm、袖部幅120cmほどである。



第272図 第1659号住居跡実測図



第273图 第1659号住居跡出土遺物実測図

天井部は崩落しており、上層断面図中の第2・4層が崩落土に相当する。袖部や火床部は10cmほど掘りくまれた部分にローム上を床面の高さまで埋め戻して構築されており、袖部の内側と火床面が赤変硬化している。また、煙道は外観して緩やかに立ち上がっている。

#### 覆土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	5	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化物少量	6	黒褐色	砂粒中量
3	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	7	暗褐色	砂粒中量、ロームブロック少量
4	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8	黒褐色	ロームブロック少量
			9	暗褐色	ロームブロック中量
			10	極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量

ピット 1か所。P1は深さ42cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片90点（坏9、甕・甔81）、須恵器片37点（坏・高台付坏18、甕5、盤1）、甕・甔13）が、東壁際を中心に出土している。903・905・907は東壁際中央部の覆土下層からまとまって出土しており、廃絶時に遺棄ないし投棄されたものと考えられる。また、906は南西コーナー部の床面から出土している。

所見 当調査区で確認された西道の住居は、本跡の他に第1646・1655号住居があり、いずれも調査区南部の台地から低地に下りる斜面部に立地している。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。

#### 第1659号住居跡出土遺物観察表（第273図）

番号	遺物	器種	形状	器高	器径	出土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
903	須恵器	坏	13.6	4.3	8.4	雲母・長石・石英	黒灰	普通	底面回転ヘラ切り法、一方向のヘラ削り	東壁際下層	70%
904	須恵器	坏	13.8	3.8	7.6	雲母・長石・石英	オリーブ黒	普通	底面回転ヘラ切り法、ヘラ削り	中央部中層	35%
905	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	10.2	長石・石英	灰	普通	底面回転ヘラ削り後、高台削り付け	東壁際下層	60%
906	土師器	甕	-	(2.6)	7.6	雲母・長石・石英	深い赤黒	普通	底面・方向のヘラ削り	南西部床面	20%
907	須恵器	甕	-	(20.3)	-	雲母・長石・石英	灰黄黒	普通	体部内面クロコナテ・輪楕み張 筋通成	北壁際下層	20%
TP55	須恵器	人蓋	-	-	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外面削位の平行明成、内面ナテ	南壁際床面	-
TP56	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	黒灰	普通	外面削位の平行明成、カキ目	北東部中層	-

#### 第1660号住居跡（第274図）

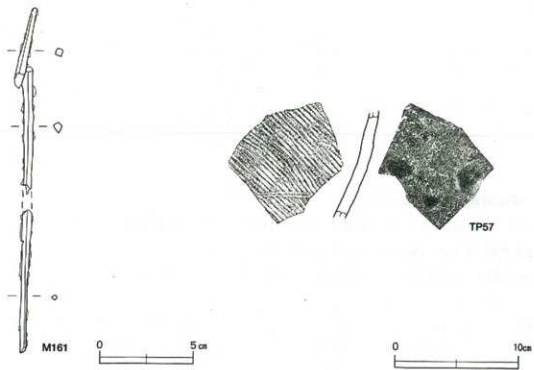
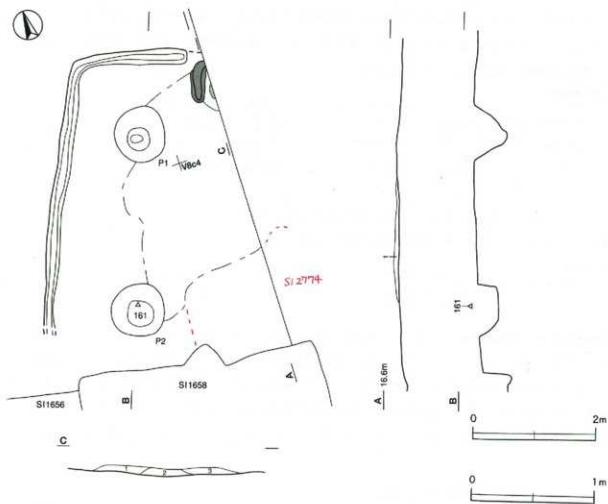
位置 調査区南部のV8c3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1656・1658号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北西壁4.30m、北東壁2.10mだけ確認されている。主軸方向をN-25°-Eとする方形または長方形と推定される。

床 ほほ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝は確認された壁際を巡っている。

竈 北壁部に付設されている。調査区外に延びているために、西半部分が確認されただけである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は、被熱によって赤変硬化している。



第274图 第1660号住居跡・出土遺物実測図

**覆土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量  
 2 暗赤褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量  
 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼上ブロック・粘土粒子・砂粒少量

**ピット** 2か所。主柱穴はP 1・P 2が相当し、深さは52cmと34cmである。

**覆土** 単一層である。砂粒とロームブロックが多く含まれており、人為堆積の可能性が高い。

**土層解説**

- 1 暗褐色 砂粒多量、ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片13点(甕), 須恵器片8点(坏4, 甕4), 鉄製品1点(紡錘車の軸)が出土している。その他, 土師質土器片3点(内耳鍋)が攪乱により混入している。TP57は壁溝の覆土中, M161は南部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀後半ないし9世紀前半頃と考えられる。

**第1660号住居跡出土遺物観察表 (第274図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP57	須恵器	甕	-	-	-	長石	暗紫灰	普通	外面斜位の平行叩き、内面ナデ	壁溝内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M161	紡錘	(17.6)	0.4	0.4	(11.3)	鉄	両端部欠損、紡錘の軸部	南部下層	PL82

**第1661号住居跡 (第275・276図)**

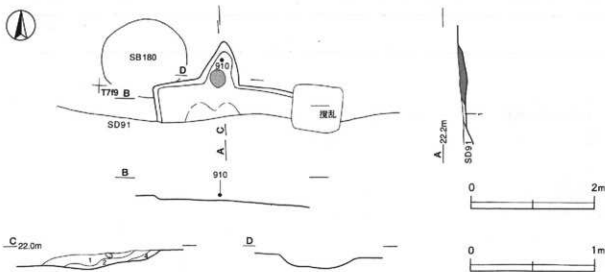
**位置** 調査区中央部のT 7 B区に位置し、平坦な台地上に立地している。

**重複関係** 第180号掘立柱建物跡を掘り込み、第91号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西軸は2.60mほどで、南北軸は0.90mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は5cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、竈の手前が踏み固められている。

**竈** 北壁の西寄りに付設されており、壁外に60cmほど掘り込んで構築されている。天井部や袖部は遺存せず、



第275図 第1661号住居跡実測図

覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さの平坦面で、火床面が被熱によって若干赤変している。また、煙道は傾斜して緩やかに立ち上がっている。

**覆土層解説**

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量、炭化物少量  
 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 4 暗 赤 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量

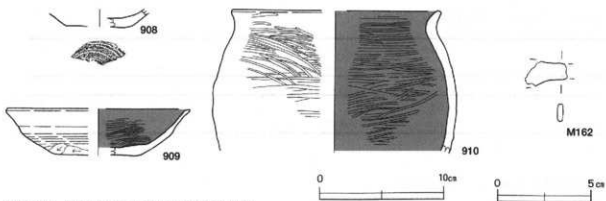
**覆土** 単一層である。ロームブロックを含まないことから、自然堆積の可能性が高い。

**土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化物微量

**遺物出土状況** 土師器片52点（小皿1， 坏・碗26， 甕・瓶25）， 刀子1点， 混入した須恵器片17点が， 竈付近を中心に出土している。909・910は竈の火床部から出土している。

**所見** 時期は， 出土土器から10世紀後半から11世紀頃と考えられる。



第276図 第1661号住居跡出土遺物実測図

**第1661号住居跡出土遺物観察表（第276図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
908	土師器	小皿	-	(1.4)	[ 5.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北東部覆土中	
909	土師器	坏	[14.8]	3.7	[ 7.0]	石英・赤色粒子	明焼	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	竈覆土中	40%
910	土師器	甕	[16.6]	(11.3)	-	白色粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ロコナダ後、ヘラ削き	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M162	刀子	( 2.3)	1.3	0.3	( 1.8)	鉄	刃部の破片，肉目*	北東部覆土中	

**第1662号住居跡（第277・278図）**

**位置** 調査区南部のU7h3区に位置し， 台地から低地に下りる斜面部に立地している。また， 西側部分は調査区域外に延びている。

**重複関係** 第1672号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南北軸は3.60mほどで， 東西軸は3.15mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推定され， 主軸方向はN-22°-Eである。壁高は10~20cmほどで， 各壁ともほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦で， 竈の手前から中央部にかけて踏み固められており， 壁溝が北壁際を除いて巡っている。

**竈** 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm， 袖部幅120cmで， 壁外への掘り込みは50cmほ

どである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

**覆土層解説**

- |                                   |                                  |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量              | 5 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量         |
| 2 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量    | 7 暗暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量     |
| 4 暗暗赤褐色 焼土粒子・炭化物多量、ローム粒子微量        |                                  |

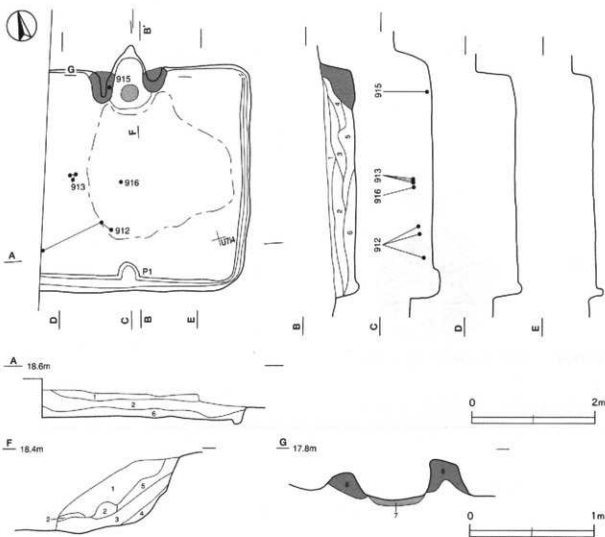
ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは12cmである。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

**土層解説**

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量            | 4 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量   |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量   | 6 暗褐色 ローム粒子中量        |

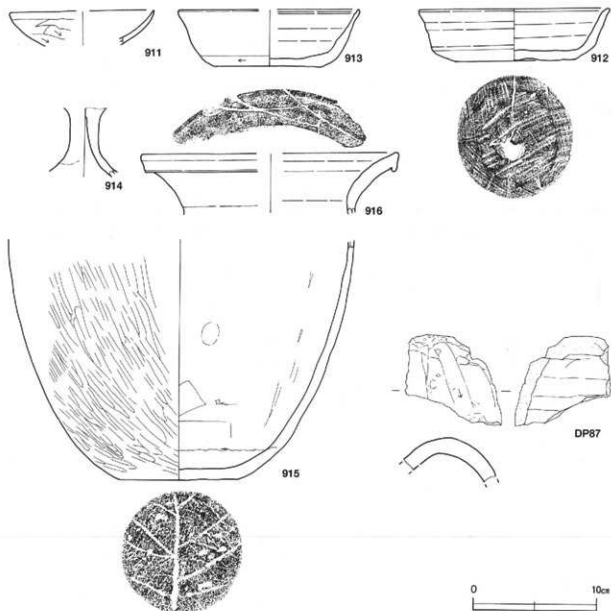
遺物出土状況 土師器片98点(坏14, 甕・瓶84), 須恵器片13点(坏5, 高盤1, 壺1, 甕・瓶6), 土製支脚1点が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土しており, 913・916は中央部の覆土中層, 915は北壁



第277図 第1662号住居跡実測図

際の覆土下層から出土している。また、912は中央部と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第278図 第1662号住居跡出土遺物実測図

第1662号住居跡出土遺物観察表 (第278図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
911	土師器	坏	[11.6]	[ 2.7]	-	石英・赤色粒子	明赤陶	普通	口縁部・体部内面横ナデ	北西部上層	
912	須恵器	坏	15.2	4.1	9.4	雲母・石英・黒色粒子	黒灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ割り	中央部・ 南西部下層	90%, PL63
913	須恵器	坏	[14.3]	4.5	8.4	雲母・長石・石英	黒灰	普通	体部下端回転ヘラ割り、底部ヘラナデ	中央部中層	60%
914	須恵器	高坏	-	( 5.4)	-	長石・石英	灰	普通	胴部ロクロナデ	北東部上層	20%
915	土師器	甕	-	(19.2)	9.6	雲母・長石・石英	にぶい青	普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	北壁際下層	40%



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
916	須恵器	甕	20.6	(4.8)	-	雲母・長石・石英	褐色	普通	口縁部ロクロナデ	中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
D987	支脚	(7.1)	(7.7)	1.3	(83.6)	長石・赤色粒子	にがい褐色、外面へラ張り、内面ナデ・輪積み肌、円筒状	北東部下層	

### 第1663号住居跡 (第279~281図)

**位置** 調査区南部のU7j4区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

**重複関係** 床下から第1667号住居跡が確認されている。

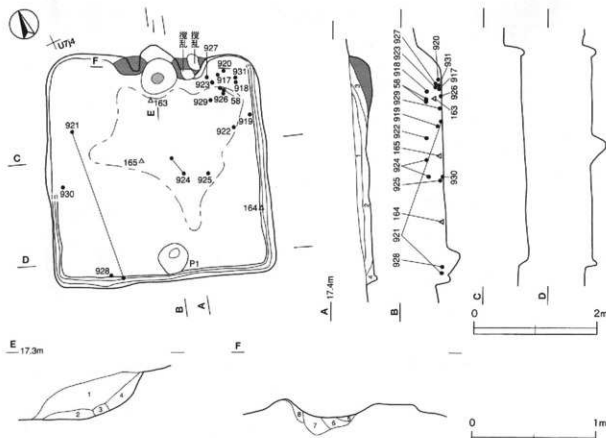
**規模と形状** 長軸3.55m、短軸3.50mほどの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は15~30cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部から竈の手前にかけて踏み固められており、壁溝が南西部から東部にかけて通っている。

**竈** 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅150cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分に焼土やローム土、砂質粘土を充填して使用されており、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

#### 竈土層解説

- |         |                               |        |                |
|---------|-------------------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量                 |        |                |



第279図 第1663号住居跡実測図

- 4 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量  
 5 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量  
 6 暗褐色 砂粒多量、ローム粒子微量

- 7 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量  
 8 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは26cmである。

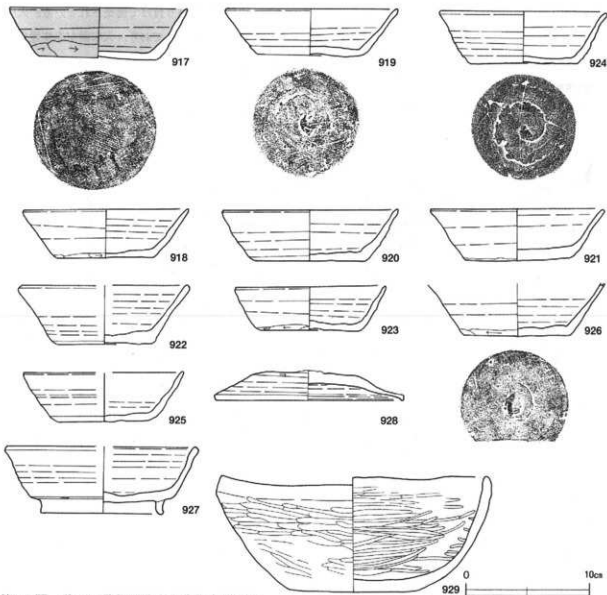
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

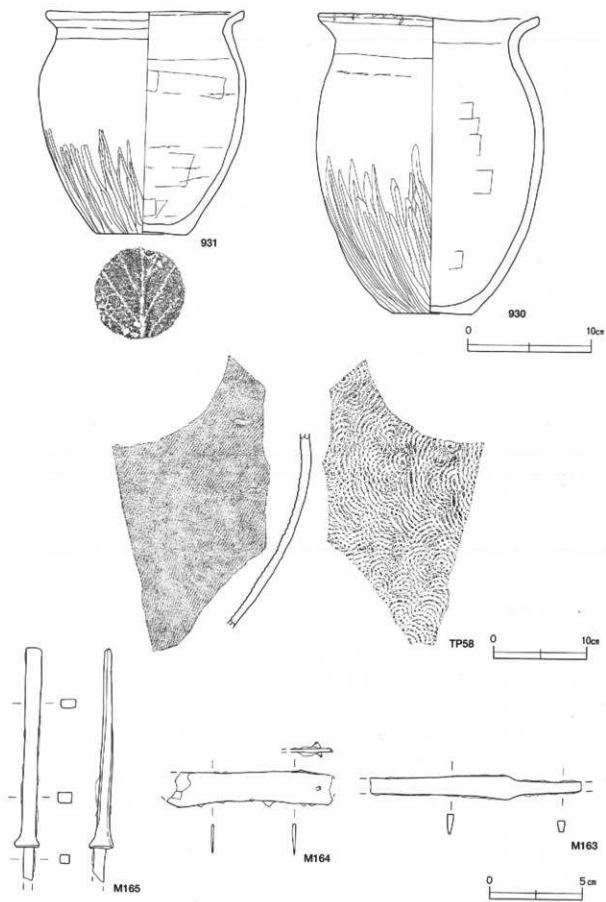
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量  
 3 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片239点(坏28, 鉢1, 甕・瓶210), 須恵器片42点(坏・高台付坏35, 蓋1, 甕・瓶6), 刀子1点, 手鎌1点, 鉄鍬1点が北東部を中心に出土している。917~920・922・926・927・929・931はいずれも北東部コーナー部の覆土下層から上層にかけての出土であり, そのうち923は917の上部に重なっていずれも正位で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。北東コーナー部の床面や覆土下層から残存率のよい土器がまとめて出土しており, その付近に収納施設が存在していたことが推測される。



第280図 第1663号住居跡出土遺物実測図(1)



第281图 第1663号住居跡出土遺物実測図(2)

第1663号住居跡出土遺物観察表 (第280・281図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	土師器	杯	14.1	4.1	9.5	長石・石英	赤	普通	底部舟形状のヘラ割り、黄状附着	北東部ト層	95%、PL64
918	須恵器	杯	13.0	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	底部舟形状のヘラ割り	北東部ト層	95%、PL64
919	須恵器	杯	13.6	3.8	8.4	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部凹板ヘラ切り後、舟形状のヘラ割り	北東部ト層	90%、PL64
920	須恵器	杯	13.9	4.1	8.7	雲母・長石・石英	灰	普通	底部凹板ヘラ切り後	北東部ト層	90%、PL64
921	須恵器	杯	13.8	4.2	8.8	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部凹板ヘラ割り後、ヘラナデ	南部・西部下層	90%、PL64
922	須恵器	杯	13.4	4.7	7.6	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ割り	北東部ト層	60%、PL64
923	須恵器	杯	11.8	3.6	7.8	長石・石英	灰	普通	底部多方向のヘラ割り	北東部ト層	100%、PL64
924	須恵器	杯	13.4	4.3	8.4	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部凹板ヘラ割り後、ヘラナデ、火押痕	中央部ト層	90%、PL64
925	須恵器	杯	11.2	3.9	7.4	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部凹板ヘラ割り後、ヘラナデ	東部ト層	55%
926	須恵器	杯	( 4.1)	8.7	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部凹板ヘラ割り後、ヘラナデ	北東部ト層	90%、PL70	
927	須恵器	高台付杯	15.2	5.3	9.3	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部凹板ヘラ割り後、高台部付付け	北東部ト層	60%、PL65
928	須恵器	蓋	14.7	( 2.3)	雲母・長石・石英	灰	普通	大井部凹板ヘラ割り	南西部下層	80%	
929	土師器	鉢	21.3	9.4	10.0	雲母・長石・石英	明赤	普通	底部多方向のヘラ割り	北東部ト層	90%、PL65
930	土師器	蓋	17.7	24.0	6.5	雲母・長石・石英	にぶい赤	普通	打線部部に隆状工具による起み有り、底部ヘラ割き	内側部ト層	90%、PL65
931	土師器	釜	15.8	18.0	7.3	雲母・長石・石英	明赤	普通	底部内側ヘラナデ・輪痕みあり、底部小凹	北東部ト層	100%、PL65
TP38	須恵器	大甕	-	-	-	長石	灰黄	良好	外面半打割き後、カキ目	北東部ト層	外面自然焼

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M163	刀子	(11.2)	1.3	0.3	(11.4)	鉄	刃部から基部にかけての破片、両面	菓子部中層	PL70
M164	手鐲	(8.9)	2.0	0.2	(10.2)	鉄	片側の孔不明、方部はやや研ぎ減り	東部ト層	PL81
M165	鋳釜	(12.5)	1.3	1.2	(21.3)	鉄	基部欠損、凸状部、刃部先端は磨り減る	中央部下層	PL82

第1664号住居跡 (第282図)

位置 調査区南部のV7J0区に位置し、低地に下りる斜面部の最下部である黒色土中に構築されている。この付近はローム層が流出しており、床面は粘土層に達している。

重複関係 第103号溝と第1597号土坑に掘り込まれている。

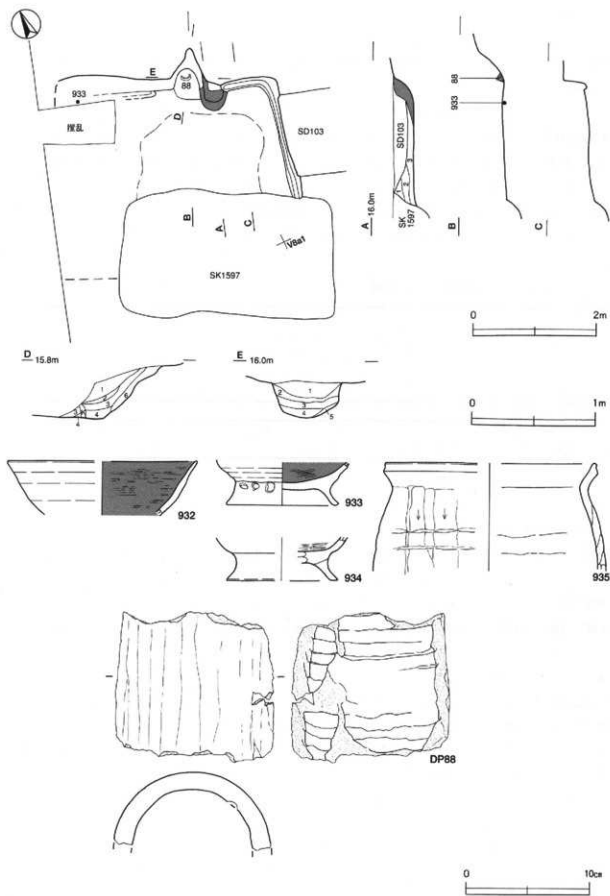
規模と形状 黒色土中に構築されていることや他の遺構との重複のため、南壁の立ち上がりが判然とせず、硬化面の広がりや竈の位置から、N-18°-Eを主軸方向とする長軸3.60m、短軸3.30mほどのほぼ方形と推測される。北壁の高さは30cmで、壁は直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、東壁際から北壁際にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されており、規模は焚1部から煙道部まで80cmほどである。天井部と左袖部は遺存せず、右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、煙道の立ち上がり部には円筒形を呈した1.製支脚が据えられている。また、煙道は外傾して直線的に立ち上がっている。

壁土層構成

- |          |                               |          |                                 |
|----------|-------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 新築赤褐色  | 粘土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒少量 | 3 即赤褐色   | 粘土ブロック中層、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、粘土ブロック・ローム粒子少量      | 4 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量     |



第282图 第1664号住居跡・出土遺物実測図

5 暗赤褐色 ロームブロック・焼上ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量

6 暗赤褐色 焼上ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

覆土 3層からなる。覆土にブロック状の含有物を含まないことから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 粘土粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片140点(杯・碗51, 瓶1, 甕・甔88), 須恵器片73点(杯・高台付杯18, 蓋1, 甕・甔54), 土製支脚1点がほぼ全域から散在して出土している。932・935は竈内から, 933は北西部の床面から出土している。また, DP88は煙道の立ち上がり部から直立した状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。円筒形を呈した土製支脚は第1308・1310・1318号住居跡からも出土しており, いずれも10世紀代と考えられる住居からの出土である。

第1664号住居跡出土遺物観察表 (第282図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	粘土	色相	構成	手注の特徴	出土位置	備考
932	土師器	碗	113.0	(4.2)	-	石英・赤色粒子	にぶい黄色	普通	体部外縁ロクロナテ, 内曲ヘラ磨き	竈内土中	32%
933	土師器	碗	(3.4)	9.0	-	長石・石英	にぶい黄	普通	高台接合部に工具痕有り	北西部床面	40%
934	土師器	碗	(3.3)	9.0	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	高台粘り付け後, ロクロナテ	北東部下層	39%
935	土師器	甔	116.7	(8.6)	-	長石・赤褐色粒子	にぶい黄	普通	体部外縁ヘラ磨り・輪磨み後	竈内土中	

番号	器種	口径	器高	底径	材質・胎土	特徴	出土位置	備考	
DP88	土師	(11.9)	(12.6)	1.4	43.0	にぶい赤色粒子	にぶい黄色, 外曲ヘラナテ, 内曲ナテ, 輪磨み後, 円筒状	竈内土中	丹波炭化物含有

第1665号住居跡 (第283・284図)

位置 調査区南部のV 8 e2区に位置し, 低地を下りる斜面部の最下部である黒色土中に構築されている。この付近はローム層が流出しており, 床面は粘土層に連している。

重複関係 第1657・1670号住居跡を掘り込み, 第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.90m, 短軸1.65mほどの方形で, 主軸方向はN-52°-Eである。壁高は50-70cmほどで, 壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。重複する第1670号住居跡の床面と大部分を共有しており, 本住居を構築する際に再利用したものと推測される。壁跡は, 北東壁際を除いて巡っている。

竈 北東壁に砂質粘土で構築されており, 規模は焚口部から煙道部まで130cm, 袖部袖120cmほどである。袖部と火床部は床面と同じ高さの地山面に構築され, 被熱板はほとんど認められない。また, 煙道は径10cmほどの円筒状を呈し, 急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

覆土層解説

1 新 暗褐色 ローム粒子・焼上粒子・炭化物・粘土粒子・

砂粒微量

2 新 暗褐色 焼上粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・

粘土粒子・砂粒微量

3 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼上粒子少量

4 暗赤褐色 焼上ブロック多量, 炭化粒子少量

5 黒褐色 焼上粒子・炭化粒子・灰多量

6 灰褐色 灰多量, 焼上ブロック・炭化物中量

7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼上粒子微量

8 黒褐色 粘土粒子・砂粒多量

9 暗赤褐色 焼上粒子・砂粒中量, ローム粒子・炭化物・

粘土粒子少量

10 暗赤褐色 焼上粒子多量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量

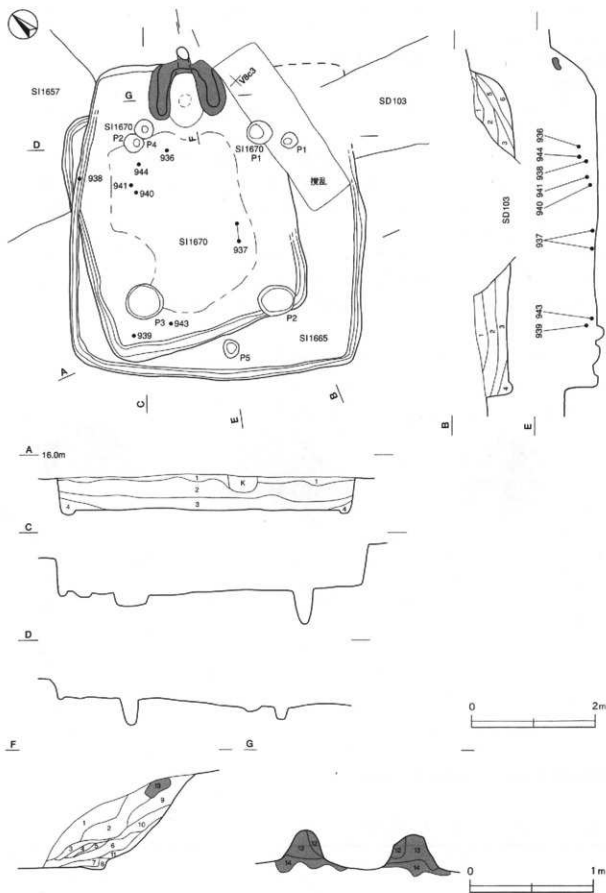
11 新 暗褐色 焼上粒子・炭化粒子中量, 砂粒少量

12 にぶい赤褐色 焼上粒子多量, 粘土粒子・砂粒少量

13 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量

14 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量,

焼上ブロック・炭化物微量



第283图 第1665·1670号住居跡実測図

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さはP4だけが56cmと深く、その他は19～24cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さは8cmである。

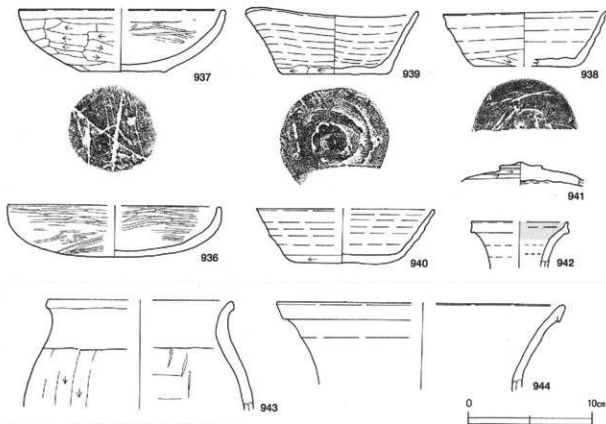
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量      | 4 黒褐色 ローム粒子少量              |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量        | 6 暗褐色 砂粒多量、ローム粒子少量         |

遺物出土状況 土師器片221点(皿1, 坏40, 甕・瓶180), 須恵器片82点(坏・高台付坏44, 蓋6, 壺・瓶2, 甕・瓶30), 鉄滓2点が出土している。遺物はほぼ全域から出土しており、破断面の摩滅した細片が多く、大半は廃絶後の埋没途中で混入したものと考えられる。床面から出土したものとしては937・940・943があり、それぞれ中央部, 北部, 西部から出土している。

所見 本住居付近は当遺跡において最も標高が低く、現在の水田面よりもわずかに高い程度である。また、重複関係にある第1670号住居跡とは主軸方向や住居の規模が異なるものの、床面の大部分を共有していることや住居間の時期差があまりないことなどから、建て替えの可能性がある。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第284図 第1665号住居跡出土遺物実測図

第1665号住居跡出土遺物観察表 (第284図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
936	土師器	坏	[17.0]	4.1	-	長石・石英	に高い赤褐色	普通	体部内・外面ヘラ磨き	甕手前中層	50%, PL65
937	土師器	坏	[16.1]	5.0	6.7	白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	普通	底面・方向のヘラ割り・木炭痕	中央部床面	70%, PL65
938	須恵器	坏	13.0	4.5	[A2]	長石・石英	黄灰	普通	底面回転ヘラ切り後、多方向のヘラ割り	北西壁際下層	70%



番号	種類	器種	口径	底径	底評	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
939	須恵器	坏	13.5	5.3	8.7	長石・石灰	黄灰	香濃	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	西部下層	60%, P1.65
940	須恵器	坏	14.1	4.4	8.0	長石・石灰	黄灰	香濃	底部下層・底部回転ヘラ切り	北西部下層	40%
941	須恵器	甗	-	(2.0)	-	長石・石灰	黄灰	香濃	天井部回転ヘラ切り	北西部下層	30%
942	須恵器	長頸瓶	17.8	(4.3)	-	砂粒	灰	良好	1層部・頸部コロナテ	東部下層	自然焼
943	土師器	甗	14.8	(8.0)	-	雲母・長石・石灰	にぶい赤褐色	香濃	底部内面ヘラナデ	西部下層	支那輸入
944	須恵器	甗	22.8	(7.0)	-	雲母・長石・石灰	黄灰	香濃	1層部コロナテ	北西部中層	

### 第1670号住居跡 (第283図)

**位置** 調査区南部のV 8 e2区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。本住居は黒色土中に構築され、床面は粘土層に連している。

**重複関係** 第1657号住居跡を掘り込み、第1665号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.00m、短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は25cmほどで、壁は直立している。

**床** 第1665号住居と床面の高さが同一であり、本住居の床面の大部分を第1665号住居が再利用したものと推測される。壁溝は、東側部分を除いて巡っている。

**ピット** 2か所。P1・P2は深さがいずれも15cmほどで、P2は第1670号住居の硬化面下から確認されている。形状から柱穴の可能性があるが、対応する柱穴は確認されていない。

**覆土** 確認されていない。

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 時期は、重複関係から、8世紀中頃と考えられる。

### 第1666号住居跡 (第285図)

**位置** 調査区南部のV 8 e3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。黒色土中に構築され、床面は粘土層に連しており、東側部分は調査区域外に延びている。

**重複関係** 第1671号住居跡を掘り込み、第103号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は3.60mほどで、東西軸は3.20mだけが確認されており、N-24°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は25-70cmで、傾斜した地形のため南側ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

**床** 中央部を東西に第103号溝に掘り込まれているために、詳細は不明である。壁溝は、確認された壁際を巡っている。

**竈** 北壁に付設されており、壁外への掘り込みは60cmほどである。天井部と左袖部は遺存せず、右袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅い皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

#### 覆土層解説

- |          |                               |         |                               |
|----------|-------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 染土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗赤褐色  | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 染土ブロック・粘土粒子・砂粒中量              | 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・染土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量  |

覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

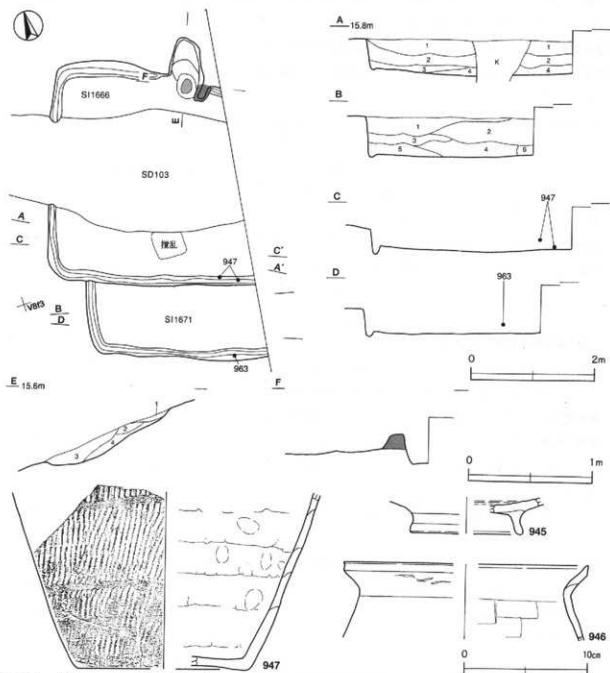
土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

- 3 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量  
 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片204点(坏・碗32, 甕・瓶172), 須恵器片84点(坏・高台付坏46, 蓋2, 甕・瓶36)が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土し、破断面の摩滅しているものが多いことから、大半は廃絶後に混入したものと考えられる。947は南壁際の覆土中層から破片の状態で出土している。また、946は竈内から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器と重複関係から9世紀後半と考えられる。



第285図 第1666・1671号住居跡、第1666号住居跡出土遺物実測図

第1666号住居跡出土遺物観察表 (第285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
945	須恵器	扁筒付杯	-	(29)	18.8	灰石・石灰	赤	普通	底部縁部へ張り廻り後、高白磁り付け	北東壁1層	10%
946	土師器	甕	19.6	6.0	-	灰石・石灰・石英	にがい色	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	盛置上中	
947	須恵器	甕	-	(14.2)	(13.6)	灰石・石灰・石英	陶灰	普通	体部内面ナデ・胎体み取・張り廻り	南東壁中層	35%

第1671号住居跡 (第285・286図)

位置 調査区南部のV 8 B区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地しており、東側部分は調査区域外に延びている。本住居は黒色土中に構築され、床面は粘土層に達している。

重複関係 第1666号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸1.10m、東西軸2.70mだけが確認されており、南壁の指す方向を基準にするとN-24°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は50cmほどで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められない。壁溝は、確認された壁際を巡っている。

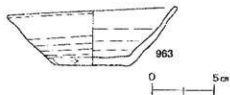
覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片1点(環)が出土している。963は南壁際の下層から出土している。

所見 歴絶時期は、出土土器と重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第286図 第1671号住居跡出土遺物実測図

第1671号住居跡出土遺物観察表 (第286図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
963	須恵器	環	13.3	4.7	6.0	灰石・石灰・石英	にがい色	普通	底部一方向の張り廻り	南壁際下層	83%, P1.65

第1668号住居跡 (第287図)

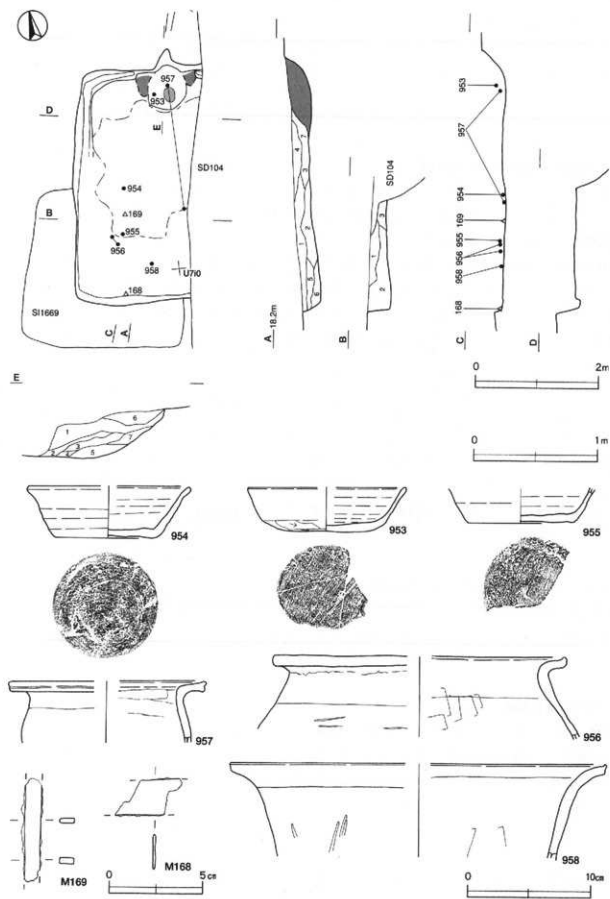
位置 調査区南部のJ 7 h9区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1669号住居跡を掘り込み、第104号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.70mで、東西軸は1.95mだけが確認されており、N-0°を主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は15~30cmほどで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から中央部にかけて踏み固められている。また、壁溝は北西コーナー一部で認められる。

竈 北壁を35cmほど掘り込んで構築されており、規模は焚き口から煙道部まで95cmである。天井部や袖部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの地山面が使用されており、火床面が赤変硬化している。また、煙道は傾斜して立ち上がっている。



第287图 第1668号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- |        |                              |         |                                  |
|--------|------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量       | 6 灰黄褐色  | 砂粒多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量、           |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・<br>焼土粒子少量 | 7 種砂赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・<br>粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量      |         |                                  |
| 4 棕褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量         |         |                                  |
| 5 灰褐色  | 灰多量、焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量      |         |                                  |

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- |       |                       |        |                         |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量  | 5 黄褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量    | 6 種砂褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 種砂褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量  |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量  |        |                         |

遺物出土状況 土師器片411点（坏45、甕・瓶366）、須恵器片55点（坏・高台付坏40、蓋3、甕・瓶12）、土製支脚1点、鉄鏃1点、不明鉄製品1点が全城から散在して出土している。953は竈内から出土している。また、957は竈内と中央部南寄りの床面から出土した破片が接合したものである。958は南部の床面から若干浮いた状態で出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、出土器から8世紀中葉と考えられる。

第1668号住居跡出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	寸法	重量	底径	胎土	色	産地	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
953	須恵器	坏	[126]	3.5	6.3	雲母・長石・石英	黄赤	普通	底部→方向のヘラ削り		竈腹上中	50%
954	須恵器	坏	[128]	4.1	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り		西部下層	73%
955	須恵器	坏	-	(2.8)	8.3	雲母・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、多方向のヘラ削り		西部下層	30%
956	土師器	甕	[236]	(4.5)	-	雲母・長石・石英	明赤黄	普通	体部内・外面ヘラナデ		西部下層	
957	土師器	甕	[156]	(4.9)	-	雲母・長石・石英	赤黄	普通	口縁肩部回転→体部外面ナデ		竈内・中央部	10%
958	土師器	瓶	[300]	(7.5)	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ		南部竈床直	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M168	鏃	(3.6)	(1.9)	0.2	(1.5)	鉄	刃部の破片	当型竈床面	
M169	小刀	(3.8)	0.9	0.3	(5.2)	鉄	断面長方形の棒状、両側欠損	西部床面	FLK3

第1674号住居跡（第288・289図）

位置 調査区西部のT5d6区に位置し、南に傾斜した斜面部の黒色土中に構築されている。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.80mほどの方形で、主軸方向はN-25°-Eである。壁高は60cmほどで、各壁とも直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅85cmほどである。袖部は砂質粘土で構築され、右袖部の内側には平瓦が直立した状態で据えられており、被熱している。左袖部は撓乱を受けているために基部しか遺存していないが、床面に平瓦の一部と砂質粘土が散在していることから、右袖部と同様に瓦を用いて構築されていたと考えられる。火床部は皿状を呈し、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は傾斜して直線的に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化物少量 3 灰 褐色 灰多量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは17cmである。

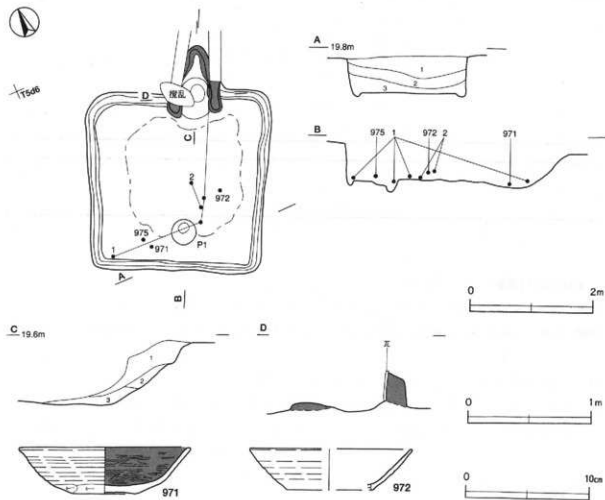
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

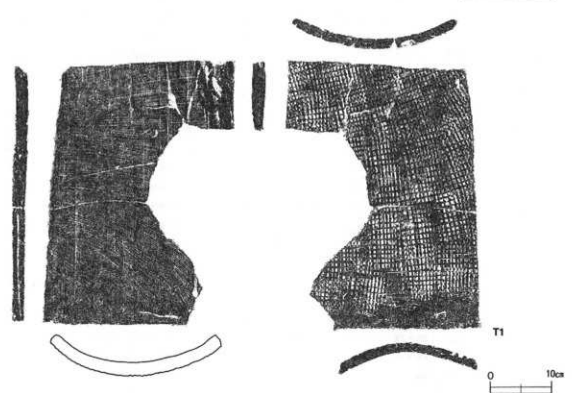
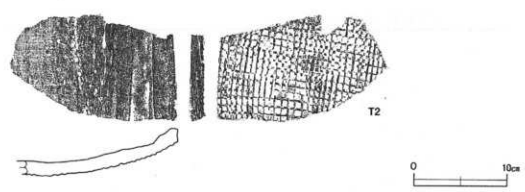
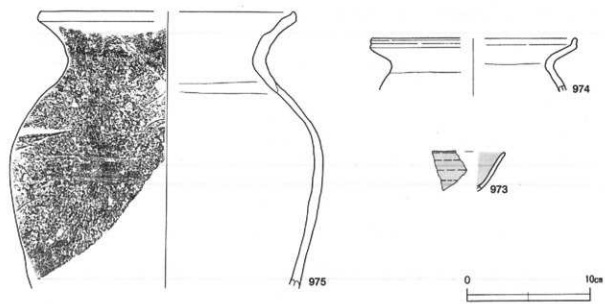
- 1 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片265点(環・碗46, 甕・瓶219), 須恵器片92点(環21, 蓋7, 甕・瓶63, 大甕1), 灰釉陶器片3点(碗, 長頸瓶, 壺), 瓦片2点(平瓦), 鉄滓1点, 貝片1点(アカニシカ), 炭化物(笹か)が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土しており, 971・975は南壁際中央部の覆土下層から出土している。また, T2は中央部東寄りの覆土下層から出土している。炭化物は笹料の一種と考えられ, 甕の火床部から出土しており, 燃料材と考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀末葉から10世紀前葉と考えられる。貝片は鹹水性のアカニシ科に属するもので, 他地域との交易を知る資料の一つといえる。また, 袖部の補強材として使用された平瓦は雲母を多く含んでおり, 河内郡寺である九重東岡廃寺で使用された瓦が再利用された可能性が考えられる。郡内の交流を知る手がかりになるばかりでなく, 寺の存続時期とも関わる興味深い資料といえる。



第288図 第1674号住居跡・出土遺物実測図



第289图 第1674号住居跡出土遺物実測図

第1674号住居跡出土遺物観察表 (第288・289図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬軟	手法の特徴	出土位置	備考
971	土師器	坏	137	3.7	5.3	灰母・灰石・石英	橙	普通	風流一方向のへう回り	西壁際下層	90%, PL65
972	土師器	坏	128	3.3	6.8	灰石・石英	にがい赤褐色	普通	垂直部はクロナヤ	東部下層	15%
973	灰釉陶器	轆	-	3.1	-	灰石・黒色砂子	灰白・オリーブ	良好	垂直部はクロナヤ	覆土上層	遺残破
974	土師器	兼	164	1.1	-	灰石・石灰・白土	赤褐色	普通	外側内・外内へう回り	覆土上層	
975	灰釉器	壺	202	22.1	-	灰石・石英	にがい赤褐色	普通	器面磨いたため磨き不明	山壁際下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	42.0	126.0	2.2	3180	灰母・灰石・石英	暗灰色、門面半目瓦、凸面整子状の明き、側面へう回り	墓石前部、中	70%, PL67
T2	平瓦	111.6	174.0	1.9	4003	灰母・灰石・石英	にがい赤褐色、門面半目瓦、凸面整子状の明き、側面へう回り、中央部下層	床面	10%

表4 奈良・平安時代住居跡一覧表

番号	位置	半壁方向	平面形	縦横(m) (長横×短横)	壁高 (cm)	築年	内 部 施 設			覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁	柱	土			
1506	Q 8 a1	N-S-E	方形	375 × 540	12-40	平瓦	壁	7	1	葺	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、埴輪、灰釘、不明鉄器	9世紀中葉
1507	Q 7 a0	N-17-E	方形	330 × 315	5-8	平瓦	全瓦	1	1	葺	自然、土師器、黒色砂	9世紀中葉
1508A	Q 7 b0	N-87-E	長方形	339 × 269	5-10	平瓦	全瓦	1	3	葺	自然、土師器	10世紀後半以降
1508B	Q 7 b0	N-87-E	長方形	330 × 230	3-12	平瓦	全瓦	-	2	葺	土師器	10世紀後半以降
1510	F 7 39	N-8-E	方形	230 × 235	3-30	平瓦	一部	-	1	葺	土師器、須恵器	9世紀後半
1511	P 8 a1	N-24-E	[方]・長	1120 × 620	30	平瓦	全瓦	-	-	葺	土師器、須恵器	9世紀前半
1512	P 7 39	N-2-E	方形	240 × 230	12-30	平瓦	全瓦	-	-	葺	自然、土師器、須恵器	9世紀後半
1513	P 7 39	N-7-E	方形	500 × 480	15-24	平瓦	全瓦	4	1	葺	自然、土師器、須恵器、油漬付石土師器、刀子	9世紀後半
1515	R 8 38	N-0	長方形	430 × 240	8-15	平瓦	一部	-	-	葺	土師器、須恵器、灰釉陶器、須恵器、土師土師器、灰釘	9世紀中葉
1518	R 8 39	N-6-W	方形	360 × 315	30	平瓦	一部	-	-	葺	自然、土師器、須恵器、須恵器(土・石製)、御用、鉄釘	8世紀中葉
1521	R 8 39	N-15-E	[方]・長	315 × 1213	2-5	平瓦	-	-	-	葺	自然、土師器、須恵器	不明
1522	R 8 38	N-6-W	方形	330 × 325	5-4	平瓦	-	1	-	葺	自然、土師器、須恵器(灰釉陶器)、鉄器	8世紀後半
1523	T 7 35	N-107-E	[方]・長	330 × 1200	15-25	平瓦	-	-	1	葺	自然、土師器、土師土師器	10世紀後半
1524	T 7 35	N-0	[長]・方	500 × 1300	2-4	平瓦	-	1	-	葺	自然、土師器	10世紀後半以降
1527	R 8 a9	N-2-E	[方]・長	370 × 1155	11-16	平瓦	一部	2	1	葺	自然、土師器、須恵器、刀子、鉄器	9世紀後半
1529	S 8 j4	N-92-E	長方形	330 × 265	8-30	平瓦	一部	-	-	葺	土師器、須恵器、石製文様、灰釘、不明鉄器	10世紀後半以降
1530	S 8 a8	N-85-E	[長]・方	335 × 1310	10	平瓦	-	-	-	葺	自然、土師器、須恵器(包用硬)、鉄釘	8世紀後半
1531	T 8 c5	N-63-E	長方形	370 × 310	30	平瓦	-	-	-	葺	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦葺、鉄釘、不明鉄器	10世紀後半
1532	T 8 f4	N-1-E	[方]・長	330 × 1165	平瓦	-	-	-	-	葺	土師器、須恵器	10世紀以降
1533	T 8 f4	N-2-E	方形	1315 × 300	5-10	平瓦	一部	4	-	葺	土師器、須恵器、磁石	9世紀後半
1534	T 8 c4	N-3-W	[方]・長	270 × 665	5	平瓦	全瓦	4	1	葺	土師器、須恵器、石製文様、不明鉄器	8世紀後半
1536	S 8 g2	N-76-E	方形	400 × 375	16-18	平瓦	全瓦	-	-	葺	土師器、須恵器、石製文様、不明鉄器	10世紀後半
1537	T 8 a1	N-101-E	長方形	395 × 330	17-21	平瓦	全瓦	1	1	葺	自然、土師器、須恵器、須恵器、刀子、須恵器、石	10世紀後半以降
1538	S 8 a4	N-3-E	[長]・方	545 × 330	5	平瓦	-	-	-	葺	土師器、須恵器	8世紀後半
1542	R 8 j2	N-0	方形	330 × 270	15-45	平瓦	全瓦	-	-	葺	土師器、須恵器、刀子、須恵器	9世紀中葉
1543	R 8 j2	N-85-E	長方形	330 × 240	12-20	平瓦	-	1	-	葺	自然、土師器、須恵器、灰釉陶器	10世紀中葉
1544	R 8 j3	N-85-E	長方形	240 × 230	5	平瓦	-	-	-	葺	土師器、須恵器	10世紀中葉



番号	位置	土軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	掘出 深(m)	土質	内部施設										出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	土間	土間	土間	土間	土間	土間	土間	土間	土間		
1545	R 8 24	N-13°-E	方形	4.30×4.30	5	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器,須恵器	8世紀前半-中葉	
1548	R 8 23	N-1°-E	方形	3.40×3.25	4	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器,須恵器	8世紀	
1549	R 8 22	N 0°-E	方形	6.35×6.00	25-35	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器(片倉燗),丸瓶,鉄釘,土,土師器	8世紀中葉	
1550	S 8 22	N 89°-W	長方形	3.65×2.70	25-38	平陸	一部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,不明鉄製品	10世紀後半以降	
1551	T 7 60	N 88°-E	長方形	3.10×2.70	2-3	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	10世紀後半	
1553	T 8 64	N-11°-E	長方形	4.30×3.25	10-12	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器,刀子	10世紀後半以降	
1554	S 7 60	N 90°-E	長方形	4.80×3.35	8	平陸	一部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器	10世紀後半以降
1555	T 7 60	N 88°-E	[方・長]	(2.65×2.10)	---	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器	10世紀後半	
1557	S 8 22	N 88°-W	[方・長]	2.60×2.25	10-18	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,不明鉄製品,不明銅製品	10世紀後半以降	
1560	T 7 60	N 96°-E	方形	3.45×3.10	16-29	平陸	一部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,石製土師器	10世紀後半以降	
1561	S 8 81	N-3°-E	方形	4.80×4.45	15-19	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄釘,鉄片	8世紀後半	
1563	T 8 64	N 105°-E	長方形	4.05×3.40	15-25	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,鉄線,鉄片	10世紀後半以降	
1565	S 7 68	N-3°-E	長方形	6.80×4.50	10-29	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	8世紀中葉	
1566	T 8 64	N-100°-E	方形	2.50×2.90	10	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	10世紀後半	
1568	R 7 30	N-7°-E	方形	4.30×3.50	25-29	平陸	全周	3	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,刀子,不明鉄製品	8世紀後半	
1569	R 7 60	N 6°-E	方形	4.45×4.40	4-18	平陸	全周	3	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	8世紀後半	
1570	R 7 60	N 90°-E	長方形	3.45×2.25	18-26	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器	10世紀中葉	
1571	R 7 66	N 8°-W	長方形	3.50×3.00	5-12	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,鉄線	10世紀後半	
1575	R 7 60	N 9°-E	長方形	3.60×3.50	10-12	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器,鉄釘,鉄脚	10世紀後半
1578	R 7 19	N-43°-W	方形	3.55×3.25	36-45	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,鉄線,刀子,炭化材(糠)	9世紀中葉	
1582	S 8 81	N-4°-E	方形	4.25×4.15	4-16	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器(片倉燗),灰釉陶器	8世紀前半-中葉	
1583	R 7 67	N-2°-W	長方形	2.65×2.50	10-13	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器,須恵器,石製土師器	10世紀後半以降
1584	R 8 81	N 88°-E	長方形	2.80×3.10	11-20	平陸	部	4	1	1	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器	10世紀後半
1587	S 7 83	N-15°-E	方形	3.45×3.30	17-28	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器,灰石	9世紀中葉	
1588	R 8 22	N 0°	[長方形]	(4.40×3.40)	---	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,鉄釘,鉄片	10世紀後半以降	
1589A	R 7 61	N 3°-E	方形	4.55×4.00	17-28	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器,鉄線,刀子,土,灰石	9世紀後半
1589B	R 7 61	N-1°-E	方形	4.65×3.35	35-42	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,刀子,鉄片	9世紀後半以降	
1591	R 7 12	N-18°-E	方形	3.20×3.15	22-30	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,土	10世紀後半	
1592	R 7 11	N-11°-E	方形	4.30×4.15	36-48	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器,灰石	8世紀後半
1593	T 7 30	N 88°-E	長方形	3.90×2.70	10-23	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,鉄線	10世紀後半以降	
1595	T 7 63	N 91°-E	長方形	6.80×3.00	8	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	10世紀
1597	R 7 18	N-1°-W	[方・長]	2.75×2.10	17-28	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器	8世紀中葉
1599	R 7 18	N 3°-E	方形	3.00×3.30	16-32	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	8世紀後半	
1600	S 7 13	N-1°-W	長方形	4.80×3.65	17-22	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器,不明鉄製品	9世紀中葉	
1603	R 6 40	N-1°-W	[方・長]	3.88×3.00	18-25	平陸	全周	2	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器,須恵器,刀子,不明鉄製品	不明
1604	R 8 81	N-1°-W	[長方形]	3.28×3.00	28	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	---	自然	土師器,須恵器	9世紀後半
1606	T 7 62	N 2°-W	[方形]	(4.60×3.65)	---	平陸	---	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	9世紀後半
1607	T 7 62	N 93°-E	[長方形]	(2.45×3.25)	---	不明	---	---	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,刀子	10世紀後半以降
1608	S 7 14	N-1°-W	方形	6.25×5.80	28-33	平陸	全周	7	2	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,石製土師器,鉄釘,土,鉄土脚	8世紀後半	
1615	S 6 14	N 2°-E	方形	3.05×3.00	18-25	平陸	全周	---	---	---	---	---	---	---	遺1	自然	土師器,須恵器,土製土脚,刀子,鉄土脚,鉄釘	9世紀後半
1617	S 7 13	N 2°-E	方形	4.50×4.10	10-17	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,鉄片	9世紀中葉	
1621	Q 8 11	N 8°-E	[方・長]	(4.00×3.16)	12-28	平陸	全周	2	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,刀子,鐵	8世紀中葉	
1622	T 6 61	N-17°-E	方形	4.55×4.20	22-28	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,石製土脚,刀子	8世紀中葉-後半	
1623	S 6 11	N-3°-W	方形	3.60×3.60	22-30	平陸	全周	4	1	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄釘	9世紀中葉	
1624	S 6 13	N-14°-E	方形	2.80×2.50	14-28	平陸	部	---	---	---	---	---	---	---	遺1	土師器,須恵器	9世紀後半	
1626	T 6 63	N-14°-E	方形	4.05×3.95	2	平陸	部	4	1	---	---	---	---	---	遺1	不明	土師器,須恵器	8世紀前半

番号	位置	主軸方向	平面形	縦横(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	扉面	内部施設							出土	出土遺物	備考 (訂正)
							空室	土	瓦	石	木	漆	銅			
1627	T 6 c2	N 90° 北	長方形	4.00 × 2.50	8-10	平削	漆	---	---	1	---	---	---	---	---	10世紀
1628	T 6 c2	N 90° 北	長方形	5.35 × 2.85	10-18	平削	全瓦	---	---	3	---	---	---	---	10世紀後半	
1629	T 7 g0	N 1° 北	[長方形]	3.30 × 2.10	10	平削	---	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1631	T 8 h2	N 98° 北	長方形	4.30 × 3.40	5	平削	漆	---	---	---	---	---	---	---	10世紀前半	
1632	T 8 h4	N 1° 北	[方-長]	3.00 × 1.15	8	平削	---	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1633	T 7 h0	N 1° 北	[方-長]	3.10 × 1.22	---	平削	全瓦	---	---	---	---	---	---	---	10世紀以降	
1634	T 7 h0	N 87° 北	[方-長]	1.50 [1.2] 1.1	---	不明	---	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1636A	T 7 g0	N 0°	[方-長]	4.05 × 2.30	2-10	平削	全瓦	2	1	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1636B	T 7 g0	N 0°	[方-長]	4.05 × 2.30	25-28	段差	漆	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1637	T 8 h0	N 1° 北	[方-長]	6.33 × 4.40	30	平削	全瓦	1	1	1	---	---	---	---	8世紀中-後葉	
1638	T 8 h1	N 9° 北	方形	7.70 × 7.10	30-24	平削	全瓦	4	1	7	---	---	---	---	8世紀前半	
1639	T 8 j7	N 1° 北	[長方形]	4.90 × 4.30	5	平削	---	---	---	---	---	---	---	---	10世紀	
1640	T 8 j7	N 01° 北	[長方形]	3.90 [3.6] × 3.40	1-7	平削	全瓦	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1641	T 8 j5	N 7° 北	方形	7.00 × 6.70	18-29	平削	全瓦	4	1	11	---	---	---	---	9世紀中-後葉	
1642	T 8 h1	N 96° 北	[方-長]	3.30 × 1.30	5	削凸	漆	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1643	U 8 d2	N 6° 北	方形	4.00 × 3.95	5	平削	全瓦	---	1	---	---	---	---	---	9世紀前半	
1646	U 8 e3	N 88° 北	[長方形]	1.90 [1.5] 1.0	---	平削	---	---	---	---	---	---	---	---	8世紀	
1647	T 8 j3	N 3° 北	方形	5.85 × 5.35	12-34	平削	全瓦	4	1	2	---	---	---	---	9世紀前半	
1648	T 8 j2	N 6° 北	長方形	5.90 × 4.75	30-41	平削	全瓦	4	1	1	---	---	---	---	6世紀後半	
1649	U 8 a3	N 17° 北	長方形	8.65 × 7.15	30-22	平削	全瓦	6	1	---	---	---	---	---	8世紀前半	
1651	V 7 h8	N 19° 北	方形	3.80 × 3.90	40-46	平削	全瓦	---	1	---	---	---	---	---	8世紀中葉	
1652	U 7 j7	N 18° 北	方形	3.30 × 3.15	5-32	平削	全瓦	4	---	1	---	---	---	---	8世紀中葉	
1653	V 7 a3	N 20° 北	方形	3.35 × 3.20	15-42	平削	漆	---	1	3	---	---	---	---	8世紀後半	
1655	U 7 j6	N 82° 北	方形	2.70 × 2.30	12-42	平削	全瓦	---	---	3	---	---	---	---	8世紀後半	
1656	V 8 d3	N 0°	[方-長]	3.30 × 2.95	10	平削	全瓦	---	---	---	---	---	---	---	9世紀後半以降	
1657	V 8 d1	N 25° 北	[方-長]	3.30 × 2.80	30-43	平削	全瓦	4	---	---	---	---	---	---	8世紀後半	
1658	V 8 d3	N 10° 北	方形	4.65 × 3.85	25-35	平削	全瓦	4	1	1	---	---	---	---	9世紀後半	
1659	V 8 c2	N 63° 北	方形	3.80 × 3.80	15-32	平削	全瓦	---	---	1	---	---	---	---	8世紀中葉-後半	
1660	V 8 c3	N 23° 北	[方-長]	4.30 × 2.10	---	平削	全瓦	2	---	---	---	---	---	---	8世紀前半	
1661	T 7 f9	N 2° 北	[方-長]	2.60 × 0.90	5	平削	---	---	---	---	---	---	---	---	10世紀後半以降	
1662	V 7 h3	N 22° 北	[方-長]	3.60 × 3.15	10-20	平削	漆	---	---	1	---	---	---	---	8世紀後半	
1663	U 7 j4	N 24° 北	方形	3.55 × 3.30	15-30	平削	漆	---	1	---	---	---	---	---	8世紀中葉	
1664	V 7 j0	N 18° 北	方形	3.60 × 1.30	30	平削	漆	---	---	---	---	---	---	---	10世紀前半	
1665	V 8 c2	N 32° 北	方形	4.90 × 1.65	10-70	平削	全瓦	4	1	1	---	---	---	---	8世紀中葉	
1666	V 8 e3	N 24° 北	[方-長]	2.60 × 2.50	25-70	平削	全瓦	---	---	---	---	---	---	---	9世紀後半	
1668	U 7 h0	N 0°	[方-長]	3.70 × 1.95	15-30	平削	漆	---	---	---	---	---	---	---	8世紀中葉	
1670	V 8 e2	N 38° 北	長方形	5.00 × 3.40	25	平削	漆	---	---	---	2	---	---	---	8世紀中葉	
1671	V 8 f3	N 24° 北	[方-長]	2.70 × 1.40	30	平削	全瓦	---	---	---	---	---	---	---	9世紀中葉	
1674	T 5 e6	N 25° 北	方形	2.90 × 2.80	40	平削	全瓦	---	1	---	---	---	---	---	10世紀前半	

茨城県教育財団文化財調査報告第214集

島名熊の山遺跡  
(上巻)

平成16(2004)年3月24日 印刷  
平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0811 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社  
〒310-0667 水戸市根本3丁目1534-2  
TEL 029-231-4241代